尙ほ札幌商業會議所議員にして同地財界に令名あり、夫人をムメ子と稱す、現に札幌市北一條東三ノ一番地に住す。

白井博之君

磐城銀行頭取
極東製藥株式會社長

君は福島縣の人白井遠平君の長男にして明治二年十二月五日を以つて生る。夙に東京英語學校及び東京農林學校に學び後ち地方開發に盡瘁すること甚大福島縣會議員、同參事會員等に擧げられ曾つて衆議院議員たりしことあり。

現時は前記諸職にある外福島縣農工銀行、平銀行、小高銀行、磐城實業銀行、福島瓦斯、郡山電氣、平運送、川前信託植田水力電氣各株式會社の重役にして且つ櫻無煙炭礦株式會社取締役會長として地方財界に令名高し。

夫人をマサナ子と呼び福島縣の人草野政醇君の長女にして其の間に四男四女あり、現に福島縣石城郡平町に住す。

下河原武夫君

日本石油乳劑株式會社取締役

天禀の才能豊かに而かも其の人と爲りやがて新時代の覇者たるに十分なる、我が下河原武夫君は現代實業家として令名高き下河原友吉君の長男にして、明治三十四年五月八日を以つて東京市麻布區本村町に生る。

幼にして早くも天才的才能を發揮し東京府立第一中學校を卒ふるや、直ちに第一高等學校に學び同校を經て大正十四年三月東京帝國大學英法科を優秀の成績を以つて卒業し、更に同年十一月文官高等試驗に應じて首尾よく合格し、尋いで大正十五年八月外交官及び司法科試驗に應じて、目出度く登第して世人を驚嘆せしむ。

尙ほ斯學を研鑽する傍ら前記會社の取締役にして、今や新興日本の生みし一異彩たるを失はざるべく其の前途測り知るべからざるものあり、東京市麻布區本村町一三二番地に住し電話高輪七〇一九番なり。

鹽田環君

辯護士　特許辨理士

帝都法曹界の新人鹽田環君は横濱の人鹽田宗澤君の長男にして、明治十六年一月二十四日を以つて生る。當家は代々醫家として刀圭界に令名ありしが、君は東京府立第一中學校及び第一高等學校を經て明治四十年東京帝國大學法科大學英法科を卒業するや、三菱合資會社に入社して本社及若松支店勤務たること六ヶ年、大正三年之を辭して福岡市に辯護士を開業し、後上京して現在の地を卜して開業し以つて今日に至る。

礦業法海商法は君の最も得意とする處にして、其の著「船員論」「礦業法通論」「礦業法原理」「礦業法研究」等は著名なるものなり、趣味として長唄、碁、テニス、玉突等ありて何れも妙なりといふ。

夫人珠子は東京府の人淺田恭院君の二女にして双葉高等女學校の卒業たり、現に東京市京橋區築地町二ノ二三番地に住し電話京橋六九〇五番なり。

芝川榮助君

大阪毛織株式會社長
芝川商店社長

君は京都府の人横田清兵衛君の二男にして慶應元年六月を以つて生る。夙に實業界に活躍し獨力芝川商店を興して內外織物及び雜貨等の販賣をなし、後ち株式組織に變更して自ら同社々長に就任し、現に其他大阪毛織株式會社々長にして且つ大平火災海上保險株式會社の重役として知らる。

曩に日本毛織紡績株式會社の取締役たりしことあり、趣味廣く謠曲、圍碁、撞球等あり、夫人をキミ子と呼び養父芝川新助君の二女たり、現に大阪市東區高麗橋町三ノ一〇番地に住し電話本局四六〇〇番たり。

樋口茂太郎君

前橋織物株式會社取締役

君は福島縣の人佐久間多濃君の長男にして、明治十六年一月を以つて生る。現時は群馬縣多額納稅者にして且つ上野銀行、前橋製作所、東洋絹絲紡績、前橋織物、阪東電機商會各株式會社取締役たる外小野村商事株式會社監査役たり。

夫人たか子との間に長女八重子、二女利喜子等あり、現に前橋市細ヶ澤町に住す。

新保德壽君

正五位勳四等
仙臺高等工業學校長

君は宮城縣の人新保普及君の二男にして明治六年十月を以つて生る。明治三十五年東京帝國大學文科大學哲學科を卒業するや更に大學院に學び、後ち仙臺高等工業學校教授同生徒監、東北帝國大學工學專門部教授同校主事、東北帝國大學事務官等を歷任し以つて現在に及べり。

夫人りゆう子は青森縣の人にして君との間に勝夫君、芳夫君及び光子、とし子八重子、榮子等あり、現に仙臺市片平町四五番地に住す。

清水釘吉君

正七位勳五等　退役陸軍歩兵大尉
合資會社清水組社長

君は京都府士族小野高永君の二男にして、慶應三年十一月十日を以つて生る。夙に東京帝國大學工科大學建築科を卒業し、曾つて大阪第一銀行の設計成るや當時學生ながらも建築工事監督主任として先輩の間に伍し、大いに其の才幹を發揮して斯界の注目を惹き、明治卅四年建築業視察のため歐米各地を漫遊し歸朝するや斯業の大擴張を圖り今や清水組の名天下に普し。

曩に君が一年志願兵として入營中たゞ〳〵彼の日清の戰役勃發するや、遼東の野に轉戰して軍功を立て陸軍中尉に進み勳六等單光旭日章を賜ひ、更に日露の役

に際しては北韓に轉戰し後ち陸軍大尉に昇り勳五等に叙し双光旭日章を賜ふ。

曾つて石川島造船所、函館地所、强羅土地各株式會社の重役たりしが現時は清水組の代表社員たる傍ら沖電氣株式會社の重役たり、趣味として藝術あり、夫人たけ子は東京府の人清水滿之助君の令姉にしてフェリス女學校の卒業なり、現に東京府豐多摩郡東中野小瀧一五七五番地に住し電話四谷八二九番なり。

廣末恒太郎君

池田倉庫株式會社長

君は兵庫縣の人廣末七右衛門君の長男にして明治十四年四月を以つて生る。現に池田倉庫株式會社々長たる外攝池田銀行監査役にして且つ北攝信託、猪名川水力電氣、有馬靈泉土地各株式會社の重役たり。

夫人よゑ子は兵庫縣の人下山英五郎君の令妹にして其の間に浩三君及び茂子、祐子等あり、現に兵庫縣川邊郡川西村に住す。

平山毅君

東北帝國大學工學部教授
仙臺高等工業學校教授

正五位勳四等平山毅君は長野縣士族平山季雄君の三男にして明治十二年八月を以つて生る。明治三十七年東京帝國大學工科大學電氣工學科を卒業するや直ちに古河鑛業株式會社足尾銅山電氣部技師となり、同四十二年文部省外國留學生を命ぜられ獨瑞米各國に遊び大いに造詣を深くして歸朝す。

大正元年東北帝國大學工學專門部教授を拜命し同八年同大學教授兼同專門部教授に任ぜられ、現時は仙臺高等工業學校教授を兼任し又曾つて東北帝國大學工學部長たりしことあり。

夫人しづ子は三重縣の人日置藤夫君の三女にして君との間に二男二女ありて章君、達君及び多賀子、都賀子と呼ぶ、現に仙臺市土樋一五二番地に住す。

清水留吉君

日本實業興信所長

君は東京府の人清水清作君の五男にして、明治四年八月四日を以つて生る。夙に學業を卒ふるや實業界に雄飛せんと志し大阪病傷生命保險株式會社、帝國火災保險株式會社等に入りて活躍し其の貢献すること甚大なりき。

然して本邦興信事業の外國のそれに比して甚だ幼稚なるに鑑み、明治三十九年敢然起つて前記興信所を開設し、後ち合資組織に變更し支所を大阪、臺灣、仙臺東北、北海道、滿洲、朝鮮、大連等各樞要の地に設置し、君自ら所長として内外の社務を鞅掌せしかば、社會の信望頓に擡り今や本邦斯界に重きをなすに至る。

尚ほ傍ら東京土木建築組合、東京市土木建築同志會、東京スレート業組合等の各理事として知らる、夫人キヨ子は竹内綱次郎君の長女にして其の間に潔君、信一君あり、現に東京府荏原郡大井町元芝八四九番地に住し、電話高輪四五二七番なり。

柴田英三君

日本絹織株式會社長

君は滋賀縣の人柴田源藏君の二男にして明治二十六年三月を以つて生る。夙に實業界に身を投じ現に日本絹織株式會社長たる外羽前牧畜、日本製材、十合撚糸商會各株式會社の取締役にして且つ東京大倉畜産株式會社監査役として我が實業界に於ける少壯實業家として令名あり。

夫人ゆき子は京都府の人大原直次郎君の令妹たり、現に東京市麴町區富士見町六丁目一二番地に住す。

平塚直治君

農學博士

君は北海道士族平塚直幹君の長男にして明治六年十月を以つて生る。夙に東京帝國大學農科大學を卒業し、曩に青森縣立、沖縄縣立第一各中學校教諭及び北海道農會幹事たりしが、現時は札幌商業會議所特別議員、帝國製麻株式會社技師長札幌支店長兼製絲本部長たり。

夫人ミサヲ子は北海道士族原直三郎君の長女にして其の間に一男五女あり、現に北海道札幌市北六條東二丁目に住し、電話一〇三八番なり。

柴田畦作君

工學博士　從四位勳三等
東京帝國大學教授

君は岡山縣の人柴田猪作君の長男にして明治六年七月一日を以つて生る。明治二十九年東京帝國大學工科大學土木工學科を卒業し、更に大學院に入りて研究し業成るや身を教育界に投じ、爾來第三高等學校教授及第五高等學校教授等を歴任して東京帝國大學工科大學助教授となり後土木工學研究の爲め米獨佛各國へ留學して斯學の蘊蓄を極めて歸朝す。現に從四位勳三等高等官一等にして東京帝國大學教授として令名あり。

夫人むめ子は東京府の人木下哲三郎君の長女にして君との間に圭一君及び能惠子あり、現に東京市牛込區東五軒町九番地に住す。

清水亘三郎君

石川縣多額納稅者
清水商店取締役

君は石川縣の人清水愈八君の令弟にして明治二十年三月を以つて生る。夙に實業界に志し羽二重製造業を營み傍ら前記會社の重役にして且つ石川縣多額納稅者たり。

夫人信子は石川縣の人坪光大藏君の長女にして其の間に一男ありて壽一君と稱す、現に金澤市馬場町一番地に住す。

菱沼平治君

從五位勳六等
廣島高等師範學校教授

君は東京府の人菱沼直光君の三男にして明治二年二月を以つて生る。現に廣島

高等師範學校教授たり。

明治四十二年私費を投じて歐米に留學し更に大正十一年晉韻學英語及教授法研究の爲め英米獨佛伊各國へ留學せしことあり、夫人をなつ子と稱す、現に廣島市鑑砲町白幡小路に住す。

×

平澤權次郎君

鶴見土地株式會社長

君は神奈川縣の人平澤萬右衞門君の三男にして明治七年十月を以つて生る。夙に實業界に活躍し現に鶴見土地株式會社々長にして且つ神奈川縣多額納稅者たり

夫人ぎん子は東京府の人渡邊彌三郎君の二女にして其の間に宏君、直良君、四郎君及びつき江子、みつ江子、まつ江子いつ江子、睦江子等あり、現に神奈川縣橘樹郡鶴見に住す。

×

比企忠君

京都帝國大學教授

君は福井縣士族比企佐門君の長男にして慶應二年五月一日を以つて生れ先代叔父君に當る儀長君の死跡を相續す。明治二十七年帝國大學理科大學地質學科を卒業し、更に地質學及び鑛物學研究の爲め米英獨國等に留學して歸朝す。爾來京都帝國大學理工科大學助教授、同教授、同理科大學助教授等を歷任し現に京都帝國大學教授たり。

夫人うめ子は東京府士族須川質久君の長女にして君との間に二男三女あり、現に京都市上京區中長者町西入に住し電話上一七一三番なり。

×

平口太兵衞君

敦賀土地建物株式會社長
北國製瓦株式會社長

君は福井縣の人平口太兵衞君の長男にして明治十二年七月を以つて生る。夙に中央大學の前身たる英吉利法律學校を卒業するや實業界に身を投じ、現に前記各社長たる外福井土地建物、敦賀築港倉庫敦賀銀行、日鮮土地、敦賀倉庫各株式會社の重役たり。

尙ほ福井縣多額納稅者にして直稅一千四十一圓を納むといふ、夫人をこと子と稱す、現に福井縣敦賀町に住す。

塩田清一君

塩田醫院長

君は京都府の人塩田武八郎君の長男にして明治十七年十二月五日を以つて京都に生る。父君は夙に醫術を開業し傍ら東京市四谷區會議員として公共の爲めに盡瘁して令名ありき。

君夙に醫家たらんと志し獨逸協會學校に入り尋いで第一高等學校に入學し、更に進んで九州帝國大學醫科大學に入り精勵これ努め、明治四十四年優秀の成績を以つて卒業するや同校の助手となり研鑽琢磨、居ること數ケ年に及びしも後大正十三年十一月笈を負ふて東上し現在の場所をトして開業し以つて今日に及ぶ。

君は其の研究を基礎醫學に專念し病理に就いて修得し後小兒科特に疫痢に就いて研究すること三年有半、今や其の篤學にして熱心研究の結果は都下小兒科專門醫としての信望嘖々たるものあり、現に東京市四谷區大番町二九番地に住し電話四谷四〇七八番なり。

×

平福百穗君

畫家

東洋畫壇に其の令名を謳はれつゝある平福百穗君は、秋田縣の人平福順藏君の四男にして明治十年十一月二十九日を以つて同縣平鹿横手町に生る。本名を貞藏と呼び幼にして繪畫を愛好し鄕校を卒ふるや笈を負ふて東上し、明治三十一年東京美術學校を卒業して益々その研鑽を積めり。

爾來文展特選一回、三等賞一回、褒狀一回入選四回、更に帝展其の他に「あいゐ」「赤茄子と芋」「七面鳥」「豫讓」「むら鳥」「獵」「伏犧」等を出品して何れも社會の賞讃を博し、大正十三年帝展審査員に擧げられ現に帝展審査員たる外國民新聞社員たり、曾つて結城素明氏と金鈴社を興し斯界の發展に盡瘁するところ甚大なり。

夫人ます子は大阪府士族鷹野鉦吉君の長女にして其の間に一郎君、周藏君、三吉君及びヤス子、トク子、トミ子、惠子等あり、現に東京府荏原郡上目黑五八五番地に住し電話青山五五〇番なり。

×

宿田久一君

京都取引所證券米穀取引員

君は京都府の人先代久太郎君の長男にして明治二十八年六月を以つて生る。大正九年早稻田大學商科を卒業するや直ちに實業界に投じ現に京都取引所證券米穀取引員たり。

夫人みつ子は滋賀縣の人猪飼清太郎君の三女にして其の間に一雄君、久雄君、及びはな子等あり、現に京都市下京區錦小路東洞院東入に住し電話特長三二六九番なり。

×

平塚嘉右衞門君

森平組取締役社長
寶塚月島土地會社長

君は兵庫縣の人平塚林九郎君の長男にして明治八年五月を以つて生る。夙に實業界に身を投じ現に前記の外寶塚ルナパーク、寶塚溫泉、寶塚土地經營所各株式會社の重役たり。

夫人ため子は兵庫縣の人平野鶴藏君の二女にして君との間に嘉一郎君、正二君弘君及びしづゑ子等あり、現に兵庫縣武庫郡良元村に住す。

×

鹽海德太郎君

國府津銀行專務取締役

君は神奈川縣の人鹽海惣五郎君の二男にして、明治十二年七月を以つて生る。夙に實業界に身を投じて大いに地方財界に活躍し、現に國府津銀行專務取締役として知らる。

夫人よし子は神奈川縣の人中戸川吉次郎君の長女にして三男二女ありて幸平君

勇君、逞君及びもと子、智惠子と稱す、現に神奈川縣足柄下郡酒匂に住す。

平沼騏一郎君

正三位勳一等　法學博士

君は舊津山藩士平沼晋君の二男法學博士平沼淑郎君の令弟にして、慶應三年九月二十八日を以つて生る。明治二十一年東京帝國大學法科大學を卒業し司法省參事官試補となり、累進して東京地方裁判所判事、千葉、横濱地方裁判所部長、東京控訴院判事同部長、司法省參事官、大審院檢事、司法省民刑局長兼檢事等を歴任し同四十年司法制度視察の爲め歐米に差遣せられ次いで法學博士の學位を受く

歸朝後檢事兼民刑局長を經て司法次官に任じ、大正元年檢事總長同十年大審院長に親任せられ、同十二年山本内閣成るや司法大臣に親任し同十三年一月之を辭し貴族院議員に勅選せらる。

其の他帝國大學及各私立大學に民法刑法等の講座を擔任し執達吏登用試驗委員長、判檢事辯護士試驗委員等を兼ね幾多の功績あり、大正十三年二月樞密院顧問官に任せられ尚ほ帝室判度審議會委員、修養團長等を勤む、趣味として讀書、音樂等あり、現に東京府豊多摩郡大久保西大久保町四二〇番地に住し電話四谷一一八一番なり。

柴崎雪次郎君

正五位勳六等　新潟市長

君は埼玉縣の人柴崎團次郎君の二男にして明治六年三月を以つて生る。明治二十七年東京商科大學の前身たる東京高等商業學校を卒業するや、直ちに教育界に投じ、京都府立商業學校教諭、新潟縣立商業學校教諭兼校長等を歴任し、明治三十四年文部省留學生となり、海上運送學研究の爲め英佛白三ヶ國に派遣せられ同三十八年造詣を深くして歸朝す。

然して直ちに神戸高等商業學校教授に任じ同四十一年長崎高等商業學校長に擧げられしが、大正三年辭して外務省囑託となり印度、安南、南洋等に航して海運及び殖民の調査に從事し後官を辭し實業界に活躍すること數年、大正十三年新潟市長に推擧せられて現在に及べり。

夫人ユウ子は廣島縣の人岡田吉顯君の四女にして君との間に一男ありて謹一君と稱す、現に新潟市に住す。

平田保太郎君

大丸呉服店支配人　南洋商會取締役

君は舊宮津藩士平田敬信君の長男にして明治十年七月を以つて生る。夙に東京高等商業學校を卒業するや直ちに實業界に投じ、森村組に入りて米國に出張を命せられ、歸朝後は同組輸出課長同助役たりしが現時は大丸呉服店支配人にして且つ南洋商會取締役たり。

夫人道子は東京府の人上野榮三郎君の三女にして君との間に二男三女あり、現に京都市上京區山堀池二三番地に住す。

君は兵庫縣の人進藤信重君の長男にして明治十二年四月を以つて生る。現に神戸新聞社常務取締役として令名あり。

夫人ひさ子は兵庫縣の人吉倉吉三郎君の長女にして其の間に三男二女ありて富士夫君、悦夫君、幸夫君及びチカ子、カズ子等なり、現に神戸市大手寺東九番地に住し電話本局三六三四番たり。

下村耕次郎君

大阪鐵工所專務取締役

君は滋賀縣士族川村鐘太郎君の令弟にして明治六年五月を以つて生れ後先代久君の養嗣子となる。現に大阪鐵工所專務取締役たる傍ら大阪機械工作所、大阪製鎖所、共同漁業、大阪製工業館、大正製麻各株式會社の重役たり。

夫人千代子は大阪府の人小林鑄造君の令妹にして其の間に三男四女あり、現に大阪市南區松屋町八ノ一番地に住し電話長東六三七番たり。

平野長藏君

實業家

我が株式界の重鎮平野長藏君は熊本縣の人平野平八君の二男にして、明治四年七月廿四日を以つて生る。夙に鄕校を卒ふるや直ちに實業界に志し、鄕里に於て米穀商を營みしが固より大望ある君は永く留ることを欲せず明治三十年翩然起つて大成を期して上京し、三上株式店に入りて君が才腕を振ひぬ。

明治四十年愈々獨立の機運熟するや現物問屋を開業し、同四十一年仲買人となりしが大正二年之を廢し、同四年再び現物問屋を營み大正十年東京株式取引所短期取引員實物取引員として今日に及ぶ。

夫人ハツ子は東京府の人駒井友三郎君の長女にして君との間に一女ありてトシ子と呼ぶ、現に東京市麹町區麹町八丁目二十五番地に住し電話四谷五一三一番なり。

下田伊三郎君

株式會社岩井商店支配人

君は奈良縣の人松井熊吉君の長男にして、明治二十年八月を以つて生れ先代ナカエ子の後を繼ぐ。夙に實業界に志し現に株式會社岩井商店取締役支配人たり。

夫人ヤエ子は大阪府の人中野富三郎君の三女にして其の間に四女ありて龍子、豊子、富子、百合子と稱す、現に大阪市住吉町天王寺に住す。

清水茂三郎君

六十七銀行取締役

君は山形縣の人諏訪彦太郎君の三男にして、明治二十四年十二月を以つて生れ先代利兵衛君の養嗣子となる。現に六十七銀行取締役にして地方財界に名あり。

夫人を富代子と稱し山形縣の人今野善六君の四女にして鶴岡高等女學校の卒業たり、現に山形縣鶴岡市に住す。

平野長祥君

男爵　從三位勳三等
貴族院議員

當家は一品舍人親王の後裔從五位下主水正宗長の後たり、宗長姓を平野と改稱す。それより十三代長裕君に至り大和國田原本藩主となり一萬石を食む。君は其の長男にして明治二年十二月三日を以つて生れ明治十三年男爵を授けらる。

夙に學習院に入り同二十三年同高等科を卒業し、更に大學院に入りて政治經濟學を修め後ち實業界に走り東京海上保險株式會社に入社し、同二十八年加島銀行に轉じ更に豐山護法銀行に入り同行專務取締役に就任し、後ち安川氏の跡を受けて同行頭取たりしが明治三十九年同行を辭す。貴族院議員に互選せらるゝ事五回現に其の職に在り、尚ほ有隣生命、萬朝報、各株式會社の重役たり、圍碁、撞球盆栽に趣味を有すといふ。

夫人增子は大關增勤君の長女にして子爵大關增輝君の令姉に當り、東京女子高等師範附屬女學校の卒業なり、現に東京府北豐島郡巣鴨上駒込町四七四番地に住し電話小石川四〇〇〇番なり。

×

柴田亨一君

北海林業株式會社長

君は兵庫縣の人柴田友藏君の長男にして明治二十五年六月を以つて生る。大正五年關西學院高等科商科を卒業するや直ちに實業界に身を投じ、亡父友藏君の經營に係る北海林業株式會社に入りて同社經營に當り、現に同社々長として內外の社務を執掌するに至る。

尚ほ兵庫縣多額納稅者にして、現時直接國稅四千百三十余圓を納む、夫人慶子は東京府の人大倉喜三郎君の三女にしてフレンド女學校の出身たり、現に兵庫縣神戸市會下山町三ノ一〇番地に住し電話本局三〇一三番たり。

×

塩川賢三君

深志倉庫株式會社長

君は長野縣の人塩川幸太君の令弟にして明治三年三月一日を以つて生る。夙に實業界に身を投じ現に六十三銀行取締役にして且つ佐久貯蓄銀行監査役等を兼ねて深志倉庫株式會社々長として地方財界の重鎭たり。

夫人をなか子と呼び君との間に一男四女あり、現に長野縣北佐久郡三岡村に住す。

×

廣田弘毅君

外務省歐米局長

從五位勳三等廣田弘毅君は福岡縣の人廣田德平君の長男にして、明治十一年二月を以つて生る。明治三十八年七月東京帝國大學法科大學政治科を卒業し、同三十九年十月外交官及領事官試驗に合格し外交官補、大使館三等書記官、外務書記官、農商務省書記官、大使館一等書記官外務事務官、大使館參事官、外務省情報局次長等を歷任し現在に及ぶ。

夫人をミス子と呼び福岡縣の人月成功太郎君の二女にして君との間に弘雄君、忠雄君、正雄君及び千代子、美代子、登子等あり、現に東京市外千駄ヶ谷町原宿一七〇ノ一二番地に住し電話青山二五一五番なり。

×

柴田愛藏君

武州銀行常務取締役

地方金融界の重鎭柴田愛藏君は京都府の人柴田文次郎君の長男にして明治八年三月を以つて生る。夙に早稻田大學商科を卒業するや直ちに實業界に入り、東京貯蓄銀行に勤務し後東洋生命保險株式會社に入り同社廣島、名古屋各支店長、本店會計課長等を歷補したるも武州銀行創立に際し其の創立委員として盡瘁し設立成るや常務取締役に擧げられ現在に至る圍碁、讀書に趣味を有すといふ。

夫人加代子は京都府の人松代善二郎君の二女にして宮津高等女學校を卒業し、其の間に文子、篤子、幸子等あり、現に埼玉縣北足立郡浦和町に住す。

廣岡宇一郎君

勳三等　衆議院議員

曾つて政友會時代に所謂加藤憲政會總裁の珍品五個問題を提げて、議會開會中天下の輿論に訴へて異名を馳せ、更に大正十三年の總選擧には床次本黨總裁の下に其の選擧副委員長として劃策大いに努めて令名ある、廣岡宇一郎君は兵庫縣の人廣岡藤九郎君の長男にして慶應三年七月八日を以つて生る。

夙に日本大學法科を卒業するや政界に參じ大正四年以來兵庫縣郡部より推されて衆議院議員に當選すること四回にして政友本黨に屬し中央政界に名あり。

大正三四年事件の功に依り勳四等に叙せられ大正十三年二月勳三等に陞叙せらる、政治と圍碁と酒盃とは君の生命の全体なりといふ、現に東京市芝區三田豐岡町六六番地に住し電話高輪二六七番たり

塩尻級長雄君

櫻セメント株式會社專務取締役

君は岡山縣士族高見實眞君の二男にして、明治六年十一月を以つて生れ後先代柳君の養嗣子となる。早くも實業界に活躍し、現に櫻セメント株式會社專務取締役として知らる。

夫人うめ子は岡山縣士族吉田農夫也君の三女たり、現に大阪府西成郡玉出町に住す。

×

島津需吉君

廣島電氣株式會社取締役
廣島縣農工銀行監査役

君は廣島縣の人島津源三郎君の二男にして、明治十三年九月を以つて生る。明治三十四年早稻田大學政治經濟科を卒業するや財界に投じ現に前記の外藝備銀行廣島倉庫各株式會社の重役にして且つ廣島縣多額納稅者たり。

夫人を正子と稱し廣島縣の人三上藤四郎君の二女にして其の間に二男ありて公

一君及び裕吉君と稱す、現に廣島市上柳町に住す。

×

廣瀬德次郎君

北海道製糖會社常務取締役

君は兵庫縣士族井筒敦次郎君の令弟にして明治十二年三月四日を以つて生れ、明治三十八年十月先代きよ子の入夫となり家督を相續す。明治三十九年京都帝國大學理工科大學製造化學科を卒業するや直ちに實業界に投ず。

然して神戸精糖株式會社技術長となり更に歐米及南洋各地を視察し、後ち帝國製糖株式會社に入りて神戸工場長、汽船部常務取締役等を歴任し現に前掲會社の常務取締役たる外帝國製糖、臺灣商事各株式會社の重役たり。

夫人シゲ子は東京府の人内山虎雄君の令妹にして鎌倉高等女學校の卒業なり、現に東京府豐多摩郡澁谷町中澁谷五一九番地に住し電話青山二〇三四番なり。

島定治郎君

大阪北港株式會社取締役
日新自動車株式會社監査役

君は大阪府の人島德治郎君の二男にして明治十年三月を以つて生る。明治二十六年慶應義塾に學び後ち實業界に走り、現に前記の外城北土地、日米板硝子、大日本除虫粉、島貿易各株式會社の重役として知らる。

曩に大正七年貴族院議員に當選せしことあり、夫人をきぬ子と稱す、現に大阪府三島郡山田に住す。

×

平塚廣義君

從四位勳三等
東京府知事

君は山形縣士族平塚榮次郎君の長男にして、明治八年九月を以つて生る。明治三十五年東京帝國大學法科大學政治科を卒業するや、直ちに文官高等試驗に應じて首尾よく登第し、職を官界に奉じて内務屬に就任せり。

爾來福井、宮崎、三重各縣事務官等を經て新潟、神奈川各縣警察部長及び愛媛新潟各縣内務部長より栃木、長崎、兵庫各縣知事等を歴任し、大正十四年九月東京府知事に任ぜられ現在に及ぶ。

夫人シゲ子は東京府の人神谷茂太郎君の長女たり、現に東京市芝區芝公園一八號地に住し電話青山二三一〇番五三六九番たり。

×

東久世秀雄君

男爵　從三位勳三等
宮内省内匠頭

君は故正二位勳一等伯爵東久世通禧君の四男にして、伯爵東久世通敏君の令弟に當り明治十一年七月十九日を以つて生れ、特旨を以つて華族に列し明治三十年男爵を授けらる。

明治三十八年東京帝國大學法科大學政治科を卒業するや、直ちに身を官界に投じ、農商務省に入りて山林事務官兼農商務省參事官に任じ、後ち貴族院書記官、

皇后宮主事、宮内事務官、帝室林野局事務官等を歴任し以つて現在に及ぶ。

趣味として謡曲あり頗ぶる妙なりとか

夫人小六子は實業家濱口儀兵衛君の長女にして東京女學館の卒業なり、現に東京市麻布區新龍土町六番地に住し電話青山五五二九番たり。

×

平田學君

北海道炭礦汽船會社秘書役兼人事課長

君は福岡縣の人平田作平君の長男にして明治四年五月五日を以つて生る。夙に福岡縣立中學校を卒ふるや暫らく福岡高等小學校に教鞭を執りしも後九州日報社に入りて君が健筆を縱横に揮ひ、社會民衆を稗益すること甚大なりしが後感するところありて笈を負ふて東上し、當時の國民英學會、專修學校等に入りて、苦學力行、造詣を積むこと五ヶ年に及べり。

偶々故伊藤博文公が統監として渡韓赴任するに際し、君即ち統監府機關新聞たる京城日報社編輯長に榮任せんとせしが圖らずも金子辰三郎氏の勸說するところとなり遂にこの擧を中止し、財界の巨頭團琢磨氏の紹介によりて三井家に入り、爾來同氏の秘書役として才腕を振ひしが後ち同じく三井系たる北海道炭礦汽船株式會社專務取締役磯村氏の知已に感じ、同社に轉じて其の秘書役兼人事課長に就任し以つて現在に及ぶ。

君や學識博大にして資性溫厚、而も恬澹且つ周密懇切にして君と接する何人も能く畏敬するところ、趣味頗る廣く就中將棋を能くし、俳句は三十余年の古き歴史を有し、殊に古書の蒐集に熱心にして漢學の如きに至りては已に書齊に滿ちて藏書家たるを失はざるべく、以つて其の人と爲りを知るべし、東京市外入新井町不入斗二五一番地に住し電話大森二四三番たり。

白鳥德之助君

東京市本郷區長

君は長野縣の人白鳥永吉君の二男にして、明治十四年二月二日を以つて諏訪湖に近き上伊那郡に生る。夙に鄕校を卒ふるや笈を負ふて上京し、研鑽大いに勉め然して明治三十二年浦和稅務署臨時雇員を振り出しに翌年東京市小石川區役所に轉勤し、爾來同區會計課、經理課等に恪勤精勵すること多年、同區の爲め貢献すること甚大なりき。

斯くて大正八年五月東京市役所に轉じて東京市主事、同道路局主計課長、同庶務課長等を歴任し、大正十一年拔擢せられて東京市小石川區長に擧げられ、大正十三年再び東京市に入りて同地理課長、經理課長等の要職を經て、大正十五年十二月東京市本鄕區長に任ぜられ以つて現在に至る。

君や天資穎明にして闊達、人と交るに又懇切、而して其の永き尊き體驗によりて磨き上げたる隱れたる德望と敬虔なる風貌とは、正に君の全人格の表徵とも謂ふべく、其の絶えざる奮鬪努力により今日の地位を贏ち得たる是れ現代立志傳中

の人として恥かしからざる人物にして、著者は本書刊行に際し敢へて君の畧歴を記するに躊躇せざるものなり。

夫人をミエ子と稱す、現に東京市牛込區原町三ノ七番地に住し電話牛込二六四〇番なり。

×

芝　染太郎君

ジヤパンタイムス主幹兼主筆

君は愛媛縣士族芝誠明君の長男にして明治三年九月三日を以つて生る。夙に愛知縣立中學校を卒ふるや青雲の志を抱いて東上し、青山學院に入り同校を卒業するやハワイに渡り、同地に於て四新聞を經營し同業界に活躍して名聲を博せり。

然して大正四年森村商事會社東京支店に入社し、後ち大正十年ジヤパンタイムス社に入りてその支配人に推され現に同社主幹兼主筆として知らる。趣味に讀書あり、余暇あればこれに耽溺するを常となす、現に東京市外荏原郡大井町瀧王子四六二〇番地に住す。

澁谷芳太郎君

石川縣多額納稅者
金澤米穀取引所員

君は石川縣の人三谷久次郎君の長男にして明治九年四月を以つて生る。夙に實業界に身を投じ現に地方財界に活躍して重きをなす。

夫人シゲ子は富山縣の人水谷コト子の令姉にして其の間に久一君及びたみ子、ふさ子等あり、現に金澤市中町二番地に住し電話長九〇七番なり。

白石禎美君

機倉電氣株式會社長

君は福島縣の人白石住之助君の長男にして明治十三年五月を以つて生る。現に櫛倉電氣株式會社々長にして且つ福島縣多額納稅者たり。

夫人ユキ子は栃木縣の人山田忠吾君の長女にして、君との間に三男三女ありて義明君、靜男君、禎亮君及び佐惠子、愛子、トシ子等あり、現に福島縣東白川笹原に住す。

×

下田助次郎君

土木建築請負業
下田組頭取

君は神奈川縣の人下田政右衛門君の長男にして、安政元年八月三日を以つて神奈川縣足柄上郡南足柄村に生る。夙に實業界に身を投じ初め米穀及び製油業を營みしが、後ち土木建築界に名を成さんとの大志を抱き、鹿島組、星野組等の下請負をなせしも明治三十六年獨力下田組を興し、敢然業界の陣頭に立つて活躍せしかば漸次業勢加はり、爾來風雨幾春秋幾多の波瀾曲折を經て遂いに今日の大をなすに至れり。

曾つて隅田川製紙株式會社々長たる外草津鐵道株式會社の重役として活躍し、然して君の知友には今日我が財界に名をなすもの多く、現に財界に勢力を有し且つ福島縣憲政會の牛耳を握つて中央政界に令名ある大島要三君の如きは君の最も親しき知友なりといふ。

夫人をたき子と稱し其の間に政造君、德三郎君及びたか子、錦子等あり、因に長男政造君は慈惠醫大の出身にして目下日本橋に開業し、東都刀圭界に聲名あり東京市芝區芝公園七號地に現住し電話青山二〇一六番たり。

×

平山清次君

理學博士
東京帝國大學教授

君は宮城縣士族平山廣次君の長男にして明治三十年東京帝國大學理科大學星學科を卒業し、更に大學院に入りて斯學の蘊蓄を積み又曩に編歴法研究の爲め米國に留學せしことあり、現に正五位勳四等にして東京帝國大學教授たり。

夫人のぶ子は同縣の人佐藤信忠君の令妹にして君との間に廣次君、しげり子、ゆきえ子等あり、現に東京市麻布區新龍土町に住す。

塩田爲五郎君

麻布銀行頭取

君は東京府の人塩田てつ君の令弟にして明治四年四月を以つて生る、現に麻布銀行頭取たり。

夫人壽々子は東京府の人石井三九郎君の三女にして君との間に二男三女ありて仁君、信道君及び信乃子、貞子、鏡子等なり、現に東京市麻布區新網町二ノ八番地に住し電話青山三八二六番たり。

平山信君

理學博士　從三位勳二等
東京帝國大學理學部教授

當家は舊幕臣にして幕末大砲指圖役を勤めし家柄として知られ、君は前海軍大學教授平山順君の令弟にして慶應三年九月を以つて生る。明治二十一年東京帝國大學理科大學星學科を卒業し、更に大學院に入りて斯學の研鑽を積み、後ち英獨二國に留學し造詣を深くして歸朝するや東京帝國大學教授に任じ、後ち理學博士の學位を授けらる、我が邦星學界の泰斗を以つて知られ現に前記の職にある外東京天文臺長兼技師たり。

夫人藍子は東京府士族伊藤常夫君の令妹にして君との間に三男四女ありて担君嵩君、健君及び百合子、多美子、厚子、千枝子等なり、現に東京市麻布區永坂町一番地に住し電話青山五五二四番たり。

庄司信吾君

北鄙製糸株式會社常務取締役
山形製紙株式會社監査役

君は山形縣の人庄司三郎君の五男にして明治二十五年八月を以つて生る。大正五年慶應義塾大學政治科を卒業するや、直ちに歸朝して地方實業界に投じ現に前記の外第一信託、早稲田商業銀行、日本薪炭各株式會社の重役たり。

夫人たけよ子は山形縣の人横萬治郎君の二女にして君との間に三女ありて俊子、槇子、光子と稱す、現に山形縣北村山大石田に住す。

鹽田世綱君

鹽田鐵工場主

養父誠太郎君は正六位勳四等退役海軍機關少佐にして、退官後鐵器製造業を開始して斯界に令名あり。

君は山口縣の人柳寛三郎君の二男にして明治二十四年十二月を以つて生る。大正六年東京帝國大學法科大學經濟學科を優秀の成績を以つて卒業するや、直ちに實業界に身を投じ、養父君の隠退により其の事業を繼承して鐵工業を營み、現に鹽田鐵工場主として斯界に令名高し。

夫人安喜子は養父誠太郎君の長女たり現に東京市小石川區西原町一ノ八番地に住し電話小石川一八二八番なり。

平野平兵衛君

帝國油脂株式會社取締役　×　大阪府多額納稅者

君は大阪府の人平野平兵衛君の長男にして明治二十七年十二月を以つて生る。夙に實業界に身を投じ小麥粉卸商を營む傍ら帝國油脂、中外護謨各株式會社の重役にして且つ大阪府多額納稅者たり。

夫人靜枝子は東京府の人原田鎭治君の四女にして學習院女學部を卒業し、君との間に平吉郎君、和三郎君、四郎君、五郎君等あり、現に大阪市東區備後町三ノ二四番地に住し電話本局六三四番たり。

島崎新太郎君

東京日々新聞副主幹

君は京都府の人島崎八藏君の二男にして明治十五年一月二十一日を以つて生る夙に鄕校を卒ふるや笈を負ふて東上し、明治三十九年早稻田大學文科哲學科を卒業し、直ちに大阪毎日新聞社に入りしがまもなく一年志願兵として入營す。

然して退營後は大阪毎日新聞社の特派員として奉天に駐在し、大正三年東京日々新聞社に轉じ同八年歐米を漫遊して歸朝し、同社政治部長より地方部長、社會部長等を歷任して大正十四年九月副主幹となり今日に至る、趣味として角力、野球、觀劇等あり。

夫人とく子は京都府の人横田清次郎君の二女にして其の間に正二君、良介君、友治君及びきぬ子、いそ子等あり、現に東京市芝區二本榎西町二番地に住し電話高輪一一三四番なり。

塩谷宇平君

鴻鳥銀行取締役　×

君は岐阜縣の人先代宇平君の長男にして明治十年五月を以つて生る。明治三十一年早稻田大學邦語政治科を卒業し現に前記の外岐阜縣多額納稅者たり。

夫人ため子は岐阜縣の人內原源吾君の三女にして其の間に一男二女ありて瀧雄君及び蔦枝子、峰子等なり、岐阜縣稻葉郡鏡島村に現住す。

柴田增次郎君

京都府多額納稅者　×

君は京都府の人柴田茂吉君の令弟にして、明治十七年十月を以つて生る。夙に實業界に投じて呉服問屋を營み、現に京都府多額納稅者として直稅三千五百三十余圓を納むといふ。

夫人ヨシエ子は京都府の人中村義輔君の三女にして君との間に尹夫君、候三君及び一子等あり、現に京都市下京區高倉六角下ルに住し電話中二二一七番なり。

平沼亮三君

青島製粉株式會社長　衆議院議員　×

横濱憲政會の重鎭として、且つ彼の關東大震火災當時東京から横濱まで驅け通して一躍マラソン界に謳はれ、而かも我が紳士的實業家として知らるゝ平沼亮三君は、神奈川縣の人平沼九右衛君の長男にして明治十二年二月十五日を以つて生る。

明治三十一年慶應義塾を卒業するや直ちに財界に投じ、現に南進公司護謨、青島製粉各株式會社々長たる外麒麟麥酒、ボルネオ護謨、古河電氣工業、日本タイプライター各株式會社の重役にして、曩に横濱市より推されて衆議院議員に當選し現に憲政會に屬す。

明治三十六年以來横濱市會議員に選ばるゝこと數回、神奈川縣會議員たること數回、且つ名縣會議長として鳴らし大正十一年市會議長に就任せり、尙ほ神奈川縣多額納稅者にして現に直接國稅三千九百四十余圓を納むといふ。

夫人婦美子は京都府の人高木豐三君の二女にして共立女子職業學校の卒業なり現に横濱市西平沼町七五番地に住し電話三〇八番なり。

定塚門次郎君

日比谷商店取締役　日比谷銀行取締役　×

君は富山縣の人定塚三右衛門君の四男にして明治十九年九月を以つて生る。現に前記の外武藏整織株式會社監査役たり現に東京市麹町區富士見町二ノ三十二番地に住す。

正田貞一郎君

日清製粉株式會社長

君は群馬縣の人正田作次郎君の長男にして、明治三年二月二十八日を以つて生る。明治二十四年東京高等商業學校を卒業するや歸鄕して醬油釀造業に從事し、同三十四年館林製粉株式會社を創立して自ら經營の任に當り、同四十年日清製粉株式會社設立と共に之に合併し同社專務取締役に擧げらる。

尙ほ曾つて正田醬油株式會社取締役、岡田商店、日本醬油、千代田工業、輸出國產各株式會社の監査役たりしが現時は日清製粉株式會社々長たる外東京製パン株式會社長、東武鐵道、日清紡績、日本共立火災保險各株式會社の重役として知らる。

夫人きぬ子は群馬縣の人正田文右衛門君の長女にして高等女學校の卒業たり、現に東京市小石川區小日向臺町一ノ二二番地に住し電話小石川九七二番なり。

勝田主計君

從三位勳一等　貴族院議員

君は舊高松藩士勝田久廉君の五男にして、明治二年九月十五日を以つて生る。夙に東京帝國大學法科大學を卒業するや直ちに官職を奉じ、大藏屬となり同廿九年文官高等試驗に合格し同卅年稅關檢査官に任ぜられ、爾來稅務監督官、函館稅關長兼函館稅務管理局長、稅關事務官、大藏書記官、臨時國債整理局書記官同局長、大藏省理財局長等に歷任す。

大正二年山本內閣成るや大藏次官に擧げられ同三年貴族院議員に勅選せられ、尋いで朝鮮銀行總裁となり寺內內閣の成立を見るや大藏次官に任ぜられ同五年十二月大藏大臣に親任せられ、同十三年清浦內閣成るや再び大藏大臣として臺閣に列す。

曩に明治卅四年より卅六年に亘り浦鹽斯德歐洲及清韓兩國に差遣せられ、大正三年再び歐洲に航し大正九年三度歐米各國を巡遊す、明治四十二年以降支那に漫遊すること數回に及ぶ、現に東京府豐多摩郡中野谷五六五番地に住し電話青山二〇四五番なり。

志水源兵衛君

小濱銀行取締役　福井縣多額納稅者

君は福井縣の人松田源助君の二男にして、明治二十五年十一月を以つて生れ先代源兵衛君の養嗣子となる。現に前記の外若州製糸、小濱運送倉庫各株式會社の重役として知らる、現に福井縣遠敷小濱門君の長女たり、現に大阪市南區玉屋町四十三番地に住し電話南六四五〇番なり

白井松次郎君

千日前土地建物株式會社長　京都府多額納稅者

君は京都府の人大谷榮吉君の長男にして、明治十年十一月を以つて生れ先代龜吉君の養嗣子となる。現に前記の外松竹キネマ、松竹座各株式會社取締役たり。夫人ヤエ子は京都府の人大久保傳右衛

幣原喜重郎君

男爵　從三位勳一等

君は文學博士幣原担君の令弟にして、明治五年八月を以つて生る。明治二十八年東京帝國大學法科大學を卒業し翌二十九年外交官及領事官試驗に合格す。

爾來仁川、倫敦各領事官補、アンヴェルス、釜山各領事、外務書記官、外務省取調局長、米國、英國各大使館參事官、和蘭兼丁抹駐劄特命全權公使、外務次官米國駐劄特命全權大使等を歷補し大正九年勳功に依り特に華族に列し男爵を授けらる。

大正十年米國駐劄ワシントン會議に全權委員として參列し、同十一年臨時外務省の事務に從事し同十三年加藤內閣成るや外務大臣に親任せらる、現に東京市本郷區駒込上富士前町に住す。

白塚大三郎君

松坂銀行取締役　日印通商株式會社監査役

君は三重縣の人間宮新助君の長男にして、明治二年七月を以つて生れ先代代三郎君の養嗣子となる。現に前記の外松坂鐵道、南勢紡績、三重土地、伊勢殖產、三重合同電氣各株式會社の重役たり。

尙ほ君は三重縣多額納稅者にして現に直接國稅二千六十余圓を納め當地方の勢力家たり、現に三重縣飯南郡松坂町に住す。

平田敏雄君

東京女子高等師範學校教授

君は和歌山縣士族平田綱一郎君の長男にして明治六年六月を以つて生る。明治三十年東京帝國大學理科大學を卒業するや、更に大學院に入りて研鑽を積み、明治三十二年東京女子高等師範學校教授に任ぜられ以つて現在に及べり。

夫人常子は故陸軍少將小島政利君の二女にして其の間に三男四女あり、現に東京市本郷區駒込西片町一〇番地に住し電話小石川三〇七二番たり。

斯波忠三郎君

男爵　從三位勳二等　工學博士　貴族院議員

當家は舊金澤藩の國老にして代々一萬石を領し、先代蕃君に至り男爵を授けらる。君は蕃君の長男にして明治五年三月八日を以つて生れ、同卅九年襲爵仰せ付けらる。夙に第一高等學校を經て東京帝國大學工科大學に學び、更に同大學院に進み舶用機關學を專攻せり。

明治廿九年工科大學助教授に任ぜられ同卅一年同教授に進み同年文部省に入り同省より選ばれて海外留學を命ぜられ、英獨佛の三ヶ國に遊び專心舶用機關學の蘊奧を極め、ディー、エス、シーの學位を得て歸朝す。

然して一千九百一年英國グラスゴーに工學會議開催せらるゝや、名譽會員として參列し、明治卅八年八月南清に於ける造船造機及び交通機關視察の爲め出張、同卅九年本邦最初の海底電線布設船の設計及監督を囑託せられ、同年海軍大學の教官を囑託せられ應用力學の講座を擔任し特許局技師を兼ねたり。

尙ほ又學習院評議員、特別都市計畫委員會委員、文政審議會學術研究會議員等を歷補し、大正六年貴族院議員に互選せられ、現に其の任にある外東京帝國大學教授、航空研究所長、帝國海軍協會理事機關學會々長等を兼ね本邦學界の泰斗たり、現に東京市本郷區駒込曙町一六番地に住し電話小石川四四番なり。

白崎仁三郎君

東亞工業株式會社常務取締役

君は福井縣の人白崎佐五右衛門君の長男にして明治七年七月を以つて生る。夙に實業界に志し、現に前記の外大福商店福井撚糸染工各株式會社の重役にして、且つ福井縣多額納稅者にして直稅千七百

九十余圓を納むといふ。

夫人ちか子は福井縣の人小川宇右衛門君の長女にして君との間に初君及び靜子等あり、福井縣吉田郡森田町に現住す。

志村源太郎君

従四位勲三等
貴族院議員

君は山梨縣の人志村宇平君の長男にして慶應三年三月一日を以つて生る。明治二十二年東京帝國大學法科大學政治科を卒業するや、直ちに官界に投じ農商務省參事官、同秘書官、法制局參事官、農商務省工務局長等を歴任す、曾つて勸業博覽會出品課長として功勞あり藍綬褒章を賜はる。

後日本勸業銀行相談役、横濱正金銀行檢査役、同外國課長等を經て再び日本勸業銀行に入り副總裁より總裁の要職に就き在職二十一年後辭して現に貴族院議員たる傍ら大藏省預金部資金運用委員會委員、農林省米穀委員會委員たり。

夫人を直子と呼び東京府士族藤岡正信君の令妹にして跡見高等女學校の出身たり、現に東京市小石川區金富町四〇番地に住し電話小石川一五八番なり。

平野忠太郎君

新潟貯蓄銀行取締役

君は新潟縣の人平野六平君の四男にして、明治三年一月を以つて生る。夙に實業界に投じ現に前記の外東洋物産株式會社專務取締役たり。

夫人クメ子は新潟縣の人早川寅次郎君の長女たり、現に新潟市西湊町通四ノ一番地に住し電話六三五番なり。

斯波貞吉君

大勢新聞社長
衆議院議員

君は斯波有造君の長男にして明治二年八月を以つて生る。明治二十二年より同二十四年迄英國オックスフォード大學に留學し、更に明治二十九年東京帝國大學文科大學英文科選科を卒業するや盛岡中學校及佛教大學に教鞭を執り、同三十二年萬朝報英文言論記者となり、同四十年同社編輯長に任ぜらる。

然して大正十四年大勢新聞社創立と共に其の社長兼主筆となり、大正十四年東京府郡部より推されて衆議院議員に當選し以つて現在に及ぶ、寫眞、書畫等に趣味を有すといふ。

夫人ヤス子は福井縣士族橋本知貞君の長女にして東京女子高等師範學校を卒業し、現に文華高等女學校長として令名あり、東京府豐多摩郡代々幡町代々木一六六番地に現住し電話四谷七八番なり。

篠原藏司君

千葉縣多額納稅者
小草畑銀行取締役

君は千葉縣の人先代篠原藏司君の三男にして明治二十五年十月を以つて生る。夙に實業界に入り現に小草畑銀行取締役にして、且つ千葉縣多額納稅者たり、

夫人サカエ子は愛媛縣の人德田波江君の令妹にして君との間に二女ありて菊子及びみどり子と稱す、現に千葉縣山武郡に住す。

白石元治郎君

實業家

我が財界の巨星白石元治郎君は新潟縣士族前山保太郎君の令弟にして、慶應三年七月を以つて生れ先代武兵衛君の養嗣子となる。夙に東京帝國大學法科大學英法科を卒業するや、淺野商店に入り明治二十六年石油部支配人に擧げられ、同二十九年總一郎翁東洋汽船會社を創立するや、之に參劃し同社の設立と共に支配人に擧げられ同三十一年歐米各國を歴遊して彼地の海運業を視察し歸朝後は專ら同社の經營に任ぜり。

次いで同社桑港支店長として赴任し同三十五年歸朝し、翌三十六年同社取締役兼支配人に推擧せられ、爾來各種の事業に關與し現に日本エナメル、帝國人造肥料、日支炭礦、中央製鐵各會社々長たる外日本鋼管、東京灣埋立、淺野造船所、淺野同族、淺野石材工業、淺野小倉製鋼所、大島製鋼所、東海鋼業、東洋汽船、樺太汽船、庄川水力電氣、關東水力電氣帝國蓄電池、磐城炭礦、大日本石油礦業大日本自轉車、京濱運河、淺野物産、山元オブラート等各株式會社の重役として令名高し。

夫人をまん子と呼び我が財界の巨頭淺野總一郎君の二女たり、現に東京市芝區三田功運町一番地に住し電話高輪四〇二番なり。

白鳥保五郎君

甲子製紙株式會社取締役

君は青森縣士族杉山壽之進君の令弟にして、明治六年五月を以つて生れ後白鳥家の養嗣子となる。明治二十六年中央大學法科を卒業するや、直ちに實業界に投じ第百銀行に入り、累進して京橋支店長たりしが後ち辭して現に前記の職にあり

夫人きや子は青森縣の人藤田武君の令姉にして君との間に達三君、武夫君及びゆき子等あり、現に東京市麻布區富士見町九番地に住す。

澁澤義一君

實業家

君は子爵澁澤榮一君の從弟たる澁澤喜作君の三男にして、明治十二年五月四日を以つて生る。明治三十八年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業するや、直ちに第一銀行に入りて實務を修得する事數ヶ月、後ち澁澤商店に入り經營者長太郎氏の沒後營業を繼承して蠶糸貿易商を營み傍ら横濱火災海上保險、横濱生命保險各株式會社の重役及横濱商業會議所副會頭たり。

曩に大正八年米國に遊ぶ、神奈川縣多額納稅者にして現に直接國稅一萬八千七百余圓を納め横濱に於ける有數の實業家として令名高し、趣味として文學あり。

夫人貞子は清野長太郎君の長女にして

御茶の水高等女學校の出身たり、現に東京市外荏原郡入新井町新井宿二八〇八番地に住す。

×

島居幸雄君

廣島縣多額納稅者
尾道銀行取締役

君は廣島縣の人島居儀右衛門君の令弟にして明治四年七月を以つて生る。夙に實業界に志し現に前記の外藝備銀行、尾道輕便鐵道、廣島合同貯蓄銀行各株式會社の重役たり。

尙ほ尾道商業會議所副會頭にして且つ廣島縣多額納稅者として、直稅二千四百十余圓を納むといふ、現に尾道市土堂町五三番地に住す。

清水近太郎君

加須銀行常務取締役

君は埼玉縣の人先代善兵衛君の令孫にして明治元年四月を以つて生る。現に加須銀行常務取締役にして、且つ埼玉縣多額納稅者たり。

夫人なか子は茨城縣の人長澤時之助君の叔母君にして其の間に晃一郎君、健次郎君、輝次君、敏三郎君及び豊子、きく子等あり、現に埼玉縣北埼玉郡加須に住す。

×

平井清君

實業家

君は兵庫縣の人平井清右衛門君の長男にして明治十三年一月を以つて生る。曾つて池田倉庫株式會社取締役たりしが現時は北攝銀行取締役、猪多川水力電氣株式會社常務取締役にして且つ桃園溫泉土地株式會社取締役たり。

夫人フジ子は大阪府の人小山定治郎君の二女にして其の間に一男三女あり、現に兵庫縣川邊郡東谷町に住す。

×

下村宏君

法學博士　從三位勳二等
朝日新聞社專務取締役

君は和歌山縣士族先代房次郎君の長男にして、明治八年五月を以つて生る。明治三十一年東京帝國大學法科大學政治科を卒業するや官界に投じ、爾來遞信書記官、北京郵便局長、爲替貯金局長、遞信官吏練習所長、臺灣總督府民政長官、同府總務長官等を歷任し、後ち官界を去りて歐米を巡遊し歸朝後朝日新聞社專務取締役に就任し現在に及べり。

曩に白耳義に留學し斯學の研鑽を積みて歸朝し、大正八年法學博士の學位を授けられ、曾つて中央法政早稻田東京商科各大學の講師たりしことあり、著書多く就中「財政學」「富と貯蓄」「貯蓄機關論」「日本國民性論」「歐米より放國」歌集「芭蕉の葉陰」等は著名なるものなり。

夫人ふみ子は東京府の人佐々木興一君の令妹にして君との間に一男あり、現に兵庫縣西宮市外苦樂園に住す。

清水義彰君

愛媛銀行取締役
松山土地建物會社監査役

君は愛媛縣の人清水藤三郎君の長男にして明治五年一月を以つて生る。明治二十八年中央大學を卒業するや直ちに地方財界に活躍し、現に前記の外南海電氣、三津濱煉瓦、伊豫電氣鐵道、松山瓦斯各株式會社の重役として知らる。

夫人ヤウ子は愛媛縣の人渡邊滿弘君の長女にして其の間に哲作君、卓三君及び年子、章子等あり、現に松山市湊町四番地に住す。

×

廣岡惠三君

加島銀行頭取
大同生命保險株式會社長

關西實業界の重鎭廣岡惠三君は子爵一柳末幸君の伯父君にして、明治九年二月を以つて生れ後ち先代信五郎君の養嗣子となる。明治三十六年東京帝國大學法科大學政治科を卒業するや直ちに三井銀行に入り幾許もなく同行を辭し、現に加島銀行頭取たる外廣岡合名會社代表社員、大同生命保險株式會社々長にして尙ほ白木屋呉服店、東洋綿花、神戸瓦斯各株式會社の重役として聲名あり。

夫人カメ子は養父信五郎君の長女にして君との間に喜一君及び多惠子、八重子、佐惠子、美惠子等あり、現に大阪市北曾根崎中町一ノ一〇六番地に住し電話長北六七八番なり。

×

下村正之助君

北海木材株式會社專務取締役
北海ホテル監査役

君は富山縣の人野村五右衛門君の令弟にして明治十一年二月を以つて生れ後ち先代長藏君の養嗣子となる。現に前記の外山田屋信託、丸肥旭川肥料、天鹽水電阿部式電氣時計製作所、上川市場各株式會社の重役たり。

夫人マキ子は北海道の人大山精一君の長女にして君との間に健一君、修二君及びソノ子、セツ子、サダ子等あり、現に北海道旭川市五番通六番地に住す。

×

匹田鋭吉君

岐阜日々新聞社長

君は岐阜縣士族匹田重秋君の長男にして明治元年四月を以つて生る。夙に東京專門學校政治經濟科を卒業し、曩に讀賣新聞記者、富山日報、九州日報、北陸タイムス各主事等を歷任し、又支那廣東、福建、江蘇、浙江、湖北、直隸各省及滿洲並に露領西比利亞を視察せしことあり。

然して岐阜縣民多數の輿望を擔つて衆議院議員に當選すること前後三回に及べり、夫人を貞子と稱す、現に東京府下大森町八幡に住す。

×

廣田精一君

神戸高等工業學校長

正五位廣田精一君は廣島縣士族廣田紋三郎君の二男にして、明治四年十月を以つて生れ先代アキ子の養子となる。明治

二十九年東京帝國大學工科大學電氣工學科を卒業するや直ちに獨逸に航し、伯林シーメンス、ハルスケ電氣會社電力部に入社し技術を研鑽すること二ケ年、而して在獨中高田商會の聘に應じ同倫敦支店詰となり、同三十一年歸朝するや電氣部長に推さる。

明治三十八年茨城電氣株式會社創立せらるゝや、其の取締役に擧げられ同四十年私立電機學校を創立し理事長となりしも、大正十年神戸高等工業學校長に任ぜられ以つて現在に至る。

廣瀨實光君

實業家

君は東京府の人廣瀨榮君の二男にして明治七年八月を以つて生る。現時は日本玩具株式會社々長たる外日本陶器、森村商事、坂部商會、南米商事、森村組、ミカド貿易、日本貿易、日本硝子各株式會社の取締役にして且つ東洋陶器株式會社監査役たり。

夫人沾龍子は東京府士族鄭永昌君の長女にして其の間に一男三女あり、現に名古屋市東區撞木町一ノ五番地に住す。

下村晴三郎君

畫家

君は東京府の人下村豐次郎君の三男にして明治六年四月を以つて生る。明治二十七年東京美術學校日本畫科を卒業せり雅號を觀山と稱し、大正三年斯界の泰斗横山大觀等と日本美術院を再興し、爾來文部省に對抗して毎年展覽會を開き、現に其の幹事として且つ日本畫界に令名あり。

夫人をせん子と稱し東京府の人山田鑑士君の四女にして君との間に時春君、英時君、豐君、弘君及び千代子、喜久代子等あり、現に横濱市本牧町一三三九番地に住す。

廣瀨德藏君

衆議院議員

從七位辯護士廣瀨德藏君は大阪府の人廣瀨種藏君の長男にして明治十一年五月を以つて生る。明治三十四年關西大學法科を卒業し現に辯護士にして大阪市選出衆議院議員たり、尚ほ曩に大阪府會議長、同市參事會員たりしことあり。

夫人を益江子と呼ぶ、現に大阪市北區本幡町六四ノ一番地に住し電話北二五七〇番なり。

白山茂次郎君

白山殖産株式會社取締役

君は兵庫縣の人白山保三郎君の二男にして明治二十三年五月を以つて生る。大正四年慶應義塾法律科を卒業するや身を財界に投じ、現に白山殖産株式會社取締役として知らる。

夫人フサ子との間に弘太郎君、武次郎君、勝三君、邦四郎君及び喜久子等あり現に兵庫縣武庫に住す。

柴山雄三君

正五位勳四等
東京鑛山監督局長

君は滋賀縣の人樋口外吉君の令弟にして、明治十六年一月を以つて生れ、後ち先代重幸君の養嗣子となる。明治四十二年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業するや、同年直ちに文官高等試驗に應じて首尾よく登第す。

斯くて、職を官途に奉じ、爾來、農商務省山林事務官、商工局事務官兼農商務省參事官、臨時產業調査局事務官、農商務書記官、農商務省畜產局畜政課長、商工事務官、特許局審判部長等を歷任し昭和二年六月東京鑛山局監督局長に榮轉し以つて現在に及ぶ。

夫人まつ江子は養父重幸君の長女にして君との間に幸雄君、正雄君、武雄君及び峯子、秀子、民子等あり、現に東京市小石川區表町一〇九番地に住し電話小石川六三二〇番たり。

白根松介君

男爵　從四位勳六等
宮內大臣秘書官兼宮內事務官
大臣官房庶務課長兼秘書課長

當家は世々山口藩士にして、祖父多助君は勤王家を以つて聞え、維新後任官して埼玉縣知事に至り、而して先代專一君は其の二男にして、夙に官界に職を奉じて秋田縣大書記官、內務省大書記官、愛媛、愛知各縣知事、內務次官、遞信大臣等を歷任し、明治三十年功に依り特旨を以つて男爵を授けらる。

君は其の二男にして、明治十九年十月を以つて生れ同三十一年襲爵仰せ付けらる。夙に學に厚く、明治四十四年東京帝國大學法科大學政治科を優秀の成績を以つて卒業するや官途に職を奉じ、爾來、爲替貯金局書記、帝室會計審査官補、同審査官等を歷任し以つて現在に及ぶ。

夫人喜美子は茨城縣の人金塚仙四郎君の長女にして君との間に精一君及び富美子、美穗子等あり、現に東京市麴町區一番町二番地に住し電話九段六一六番たり

日比野寛君

愛知商事株式會社常務取締役

正五位勳四等日比野寛君は愛知縣の人織田文信君の二男にして、慶應二年十一月を以つて生れ後ち日比野くに子の養嗣子となる。明治二十八年東京帝國大學法科大學を卒業し、愛知縣立第一中學校長に任じ、曾つては衆議院議員として中央政界に鳴らせしことあり。

斯くて後ち實業界に參じ、現に愛知商事株式會社常務取締役にして且つ本邦體育界に盡瘁すること尠からずマラソン王として知らる。

夫人をふさ子と呼び愛知縣の人山田常重君の三女にして其の間に五男一女ありて弘君、正君、進君、安君、明君及び千代子と呼ぶ、現に愛知縣愛知郡東山村に住し電話東一二一八番なり。

澁谷德三郎君

正七位勳七等
東京市京橋區長

君は宮城縣の出身にして、明治三年三月二十日を以つて同縣黑川郡大松澤村に生る。明治二十二年宮城縣師範學校を卒業するや、直ちに地方教育界に投じ、爾來、明治三十二年に至るまで十年一日の如く縣下各學校に訓導としてはた又名校長として盡瘁すること甚大、遂に同年六月拔擢せられて同縣名取郡視學に擧げられ、後ち栗原郡視學に轉じ、明治三十八年三月辭して上京す。

斯くて、直ちに文部屬に任じ、傍ら日本大學法科に入りて同校正科を卒業し、爾來、文部省普通學務局第一課長、日本大學教務部長囑託、東京高等師範學校講師、埼玉縣女子師範學校長、東京市主事教育課長、東京市學務課長、兼任東京市講師等を歷任す。

然して、大正十一年九月東京市麹町區長に擧げられ、更に本郷區長を經て大正十五年十二月東京市京橋區長に轉じ以つて現在に及ぶ。

現に東京市小石川區林町七十番地に住す。

廣川周造君

魚津銀行取締役
富山縣多額納稅者

君は富山縣の人廣川久松君の長男にして、明治十三年十月を以つて生る。夙に地方財界に活躍し、現に魚津銀行、實業銀行、入善銀行、泊銀行各株式會社取締役にして且つ富山縣多額納稅者たり。

夫人メッエ子は富山縣の人金木三郎君の長女にして君との間に久君及び久榮子文子等あり、富山縣下新川横川に住す。

志賀和多利君

辯護士　鐵道參與官
衆議院議員

君は岩手縣の出身にして志賀英之進君の長男にして、明治七年十月を以つて生る。夙に鄕校を卒ふるや笈を負ふて上京し、研鑽琢磨、明治三十三年日本大學法科を卒業するや直ちに文官高等試驗及び判檢事登用試驗に登第す。

斯くて、職を官途に奉じて司法官試補檢事代理たりしが、後ち辭して辯護士事務所を開設し一般法律事務を掌り、而して衆議院議員に當選すること前後二回、現に其の任にありて中央政界に重きをなし、昭和二年四月田中内閣成立するや鐵道參與官に任ぜらる。

夫人リセ子は新潟縣の人石山保吉君の二女にして君との間に學而君及びやな子等あり、現に東京市本鄕區本鄕五ノ十六番地に住し電話小石川四七六〇番たり。

白根竹介君

正五位勳五等
富山縣知事

當家は先々代多助君より其の家名を擧ぐ、同君は夙に埼玉縣令として國家に忠勤すること甚大なりき。

君は先代勝次郎君の長男にして、男爵白根松介君の從兄君に當り、明治十六年五月を以つて生る。明治四十一年東京帝國大學法科大學を卒業するや翌年文官高等試驗に登第す。

斯くて職を官途に奉じ、爾來、靜岡縣警視、同事務官補、同磐田郡長、山梨縣理事官、同警察部長、山形縣警察部長、岐阜、京都、東京各府縣内務部長等を歷任し、更に岐阜縣知事等を經て富山縣知事に任じ以つて現在に及ぶ。

夫人を末賓枝子と稱し君との間に五男三女あり、現に同縣知事官舍に住す。

社本劒次郎君

社本護謨合資會社長

最近我が國に於けるゴム工業は著しき發達を遂げたりと雖も、尙ほ斯業界に無限の進歩改良を加へらるゝは勿論、恐らくは將來ゴム萬能の時代到來すること疑なかるべし。

夙に斯業の將來有望なるに着眼して、專心これが改善發達に盡瘁する我が合資會社社本ゴム工場代表者社本劒次郎君は名古屋の產にして大正五年淺草區福井町に營業を開始し、爾來、多少の消長ありしも業績順調を辿るに至れり。

然して大正十四年十二月現在の地に移轉し、同時に組織を合資會社に變更して自ら同社代表社員として斯業の改善發達に日夜精勵し、君が斯業の蘊蓄と研究的精神とは相俟つてゴム工藝品に優秀なる製品を出し、殊に海水浴帽の製作は君獨特の塗料法を案出し內地に於ける同製品の到底追隨し得ざる優秀品を廣く需用者に提供して多大の好評を博せり。

尙ほ最近特許を得たる列車專用自由輕便枕の如きは從來の空氣枕と全く其の趣きを異にし、使用に際し形体及び使用法を七樣に變化し得るの特色を有し、汽車旅行は勿論家庭用としても最適品にして而も尙ほ該品は浮揚力と防水力とを具備する關係上船中に用ひて航海中の非常用救命具として其の効力絕大なるものにして、今や是等優秀品の製作其他一般ゴム工業品の製作販賣に精勵し、常に三十有余名の從業員を督勵して一ヶ年數十萬圓の製產額を示し、本邦ゴム工業界の白眉を以つて目さゝに至れり。

今や我が工業界は年と共に發展の步調を辿る季に際し、我が社本劒次郎君に俟つべきもの蓋し多々なるべく、斯業の爲め邦家に貢獻すること甚大ならん、東京市下谷區御徒町二ノ十六番地に住す。

廣海惣太郎君

貝塚銀行頭取
泉州物產株式會社監査役

君は大阪府の人廣海惣爺君の長男にして、明治十一年四月を以つて生る。夙に地方實業界に活躍して其の敏腕を斯界に鳴らし、現に貝塚銀行頭取たる外泉州物產、木辰酒造、岸和田煉瓦綿業、泉醬油東洋商工各株式會社重役として知らる。

夫人をノブ子と稱す、現に大阪市泉南貝塚に住し電話十一番たり。

白川義則君

正三位勳一等功三級
陸軍陸軍大將　陸軍大臣

君は愛媛縣士族先代義信君の令弟にして明治元年十二月を以つて生る。夙に陸軍士官學校及び陸軍大學校を卒業し、累進して大正十四年三月陸軍大將に陞進す。

其の間陸軍士官學校教官、守正王附武官、歩兵第二十一聯隊大隊長、人事局課員、歩兵第三十四聯隊長、第十一師團參謀長、中支那派遣隊司令官、歩兵第九旅團長、陸軍省人事局長兼俘虜情報局長官陸軍士官學校長、第十一師團長、第一師團長、陸軍次官兼航空局長官、鐵道會議々員、道路會議々員、馬政委員會議々員陸軍技術會議々長、港灣調査委員、海事委員會委員、中央統計會委員、關東軍司令官等を歷任し、昭和二年四月田中政友會内閣成るや臺閣に列して其の陸軍大臣に親任せらる。

夫人をタマ子と稱し君との間に義正君義直君、元春君、浩君及びキヨ子、ハマ子等あり。

島田七郎右衛門　君

高岡新報社監査役
高岡電燈株式會社取締役

君は富山縣の人島田七郎右衛門君の長男にして、明治十六年一月十六日を以つて生る。退役陸軍中尉にして大正十三年十一月北陸に擧行せられたる陸軍特別大演習の際御前講演の光榮に浴す。

現時は前記の外北陸製絹、中越土木、笹川窯業、岡吉商事各株式會社の重役にして且つ福岡町長たり。

夫人壽加子との間に二男三女あり、現に富山縣西礪波郡福岡に住す。

重松養二君

日進電機株式會社取締役

君は舊鳥取藩士重松貞幹君の二男にして、明治二年二月を以つて生る。明治二十五年東京帝國大學工科大學採鑛冶金科を卒業するや直ちに實業界に投ず。

斯くて、三菱合資會社に入りて同社技師として横峰、生野、佐渡各鑛山を歷勤し同四十年西谷鑛山長となり、大正元年高取鑛山長を經て本社詰を命ぜられ、更に大正五年鑛山部專務理事に榮進、同七年合資會社より分離して三菱鑛業株式會社成立するや擧げられて同社常務取締役に就任す。

然して後ち同社を辭し、現に日新電機株式會社取締役たり。夫人をあや子と稱し君との間に五男四女あり、現に東京市芝區高輪南町五三番地に住し電話高輪二九九番たり。

×

下村齋次郎君

日米商店常務取締役
中外護謨株式會社取締役

君は兵庫縣の人下村德郎君の長男にして、明治十九年三月を以つて生る。夙に實業界に活躍し、現に前記の外東海鋼業大日本自轉車、帝國蓄電池各株式會社の重役として知らる。

夫人をシン子と稱し君との間に三男一女あり、現に兵庫縣武庫郡御影に住す。

清水迦平君

松尾鑛業株式會社專務取締役

君は東京府の人清水忠助君の三男にして、明治二十年十一月五日を以つて生る。明治四十三年早稲田大學商科を卒業するや直ちに實業界に投ず。

斯くて增田貿易株式會社に入社し、上海支店長に擧げられ、大正十三年同社を辭して松尾鑛業株式會社に轉じ、同社常務取締役に推され以つて現在に及ぶ。

夫人君子は京都府士族市川亮明君の長女にして同志社女學校の出身たり、現に東京市牛込區市ヶ谷富久町一一三番地に住し電話牛込五九五三番たり。

下野直太郎君

正四位勳三等
東京商科大學教授

君は岐阜縣の人下野甚助君の長男にして、慶應二年十月を以つて生る。明治二十一年東京高等商業學校を卒業す。

曩に東京高等商業學校教授を勸め且つ東京海上火災保險株式會社の創立に參劃し、又商業學研究の爲め英國に留學せしことあり、現に東京商科大學教授たり。

夫人勢伊子は岡山縣士族岸本繁三郎君の三女にして君との間に一女あり、東京市麹町區富士見町二ノ一番地に現住す。

平川松太郎君

辯護士　特許辯理士
衆議院議員

君は神奈川縣の人先代久八君の長男にして、明治十年一月を以つて生る。明治三十四年中央大學法科を卒業するや直ちに辯護士登用試驗に登第す。

斯くて、辯護士事務所を開設して一般民事法律事務を掌り、現に傍ら衆議院議員たり。

夫人コマ子は神奈川縣の人田村信懋君の令妹にして君との間に憲一君及び和枝子あり、現に神奈川縣足柄下郡小田原に住す。

清水新平君

長江硝子工業株式會社取締役
中國工商株式會社取締役

君は秋田縣の人清水愛作君の二男にして明治二十年三月を以つて生る。明治四十二年東京高等商業學校を卒業するや直ちに實業界に投ず。

現に中日實業株式會社支配人たる外前記各株式會社の重役として知らる。東京市外下落合一四三七番地に現住す。

芝義太郎君

雄別炭礦鐵道株式會社取締役

君は愛媛縣士族芝義方君の長男にして明治六年二月八日を以つて生る。夙に實業界に投じ、曾つて龍田炭礦社長、北海道炭礦鐵道取締役たりしことあり。

夫人をムメ子と稱す、東京市外上目黒一七〇一番地に現住す。

志茂成保君

從七位　陸軍二等主計
大正活映株式會社常務取締役

君は舊幕臣星野豐後守の男成一君の長男にして、明治十六年二月を以つて生れ後ち宮城縣士族志茂家の養嗣子となる。

夙に仙臺東北學院文科に學び、次で早稲田大學政治經濟科に入り、明治四十年優秀の成績を以つて卒業するや直ちに實業界に投じ、明治四十四年東洋汽船株式會社に入社し、其の間本邦風土文物を映畫に收めて海外に輸出し、外遊團吸收策に効果を得たるに鑑み專念活映事業に盡瘁し、後ち大正活映株式會社を設立して同社常務取締役に任じ以つて現在に及ぶ。

然して大正十一年松竹キネマ株式會社と提携して各地に常設館を設置し、且つ研鑽會を組織して其總務となり舞踊所作及音樂の振興に精勵するを以つて知らる。

夫人をキヨ子と稱し君との間に英保君及び千里子、萬里代子、億代子等あり、現に東京市赤坂區青山南町七ノ二番地に住す。

廣田乙吉君

實業家

君は神奈川縣の人廣田德八君の三男にして、明治六年十月を以つて生る。現に回漕業を營み長福回漕店と稱し傍ら金剛ペイント會社横濱出張所長たり。

夫人ハル子は神奈川縣の人黑川繁松君の二女にして君との間に德富君、隆君、曠君等あり、現に横濱市北仲通三ノ四〇番地に住す。

柴山昌生君

男爵　正四位勳五等

當家は先代矢八君より家名を揚ぐ。矢八君は元帥大勳位東郷平八郎君の從弟君にして、且つ在郷海軍中將東郷吉太郎君の叔父君に當り、夙に海軍に志し明治七年海軍中尉に任じ同三十八年海軍大將に陞進す。

其の間水雷局長、參謀本部海軍部第二局長、横須賀鎮守府參謀長、海門、高千穗各艦長、海軍兵學校長、常備艦隊司令長官、海軍大學校長、吳、佐世保、旅順各鎮守府司令長官等を歷補し、明治四十年日露戰爭の功により特旨を以つて華族に列し男爵を授けらる。

君は其の長男にして、明治十七年八月を以つて生れ大正十三年襲爵仰せ付けらる。

夫人むめ子は東京府士族園田清彥君の令妹にして君との間に一男二女あり、東京市麴町區上六番町一九番地に現住す。

人見吉彥君

帝國堅紙株式會社監査役
日本擬革株式會社監査役

君は愛媛縣の人增井喜太郎君の令弟にして、明治十七年五月を以つて生れ、後ち新助君の養嗣子となる。大正二年東京帝國大學工科大學を卒業し現に前記諸會社の重役たり。

夫人良子は養父新助君の長女たり、現に東京市本郷區駒込動坂町三四番地に住し電話小石川一三一四番たり。

芝小路豐俊君

男爵　正四位勳四等功五級

當家は內大臣藤原鎌足の裔從五位豐訓君の分立するところなり、豐訓君は明治二年堂上の格を賜はり芝小路と稱し同八年特旨を以つて華族に列し男爵を賜はる。

君は豐訓君の長男にして、明治十一年七月を以つて生れ同十七年男爵を授けらる。夙に陸軍士官學校に學び現に騎兵第十六聯隊附たり、曩に陸軍大學校馬術教官騎兵第二十五聯隊附たりしことあり。

夫人を鈴子と稱し男爵川田龍吉君の令妹にして君との間に豐英君及び俊子、政子、豐和子等あり、現に千葉縣千葉市津田沼騎兵第十六聯隊官舍に住す。

弘世助太郎君

從七位勳五等
日本生命保險株式會社專務取締役

當家は江州彦根町の素封家にして、先代助三郎君に至り紙商を創めしが後ち國立銀行設立と共に其頭取に擧げられ、爾來、銀行家として名あり。

君は先代助三郎君の長男にして、明治四年十二月を以つて生れ、大正二年家督を相續すると共に父の遺業たる銀行業に從事して地方金融界に聲名あり。

尙ほ傍ら日本生命保險會社に關係し夙に同社專務取締役たる外百三十銀行、關西信託、都ホテル各株式會社の重役として地方財界に重きをなす。

夫人てつ子は滋賀縣の人故市田義一君の長女たり、現に滋賀縣犬上郡彦根町に住す。

志平作兵衛君

株式會社武內工業所取締役

君は東京府の人志平作兵衛君の長男にして、明治十六年十二月を以つて生る。夙に紀伊國屋と稱して藥種商を營み傍ら前記會社の重役たり。

夫人を喜美子と稱し東京府の人內田喜太郎君の長女たり、現に東京市日本橋區伊勢町二三番地に住す。

東三條實敏君

男爵　從四位

當家は故正一位大勳位公爵三條實美卿の第二子公美君の立つる所なり、公美君明治十五年別に一家を創立し同年華族に列し、同十七年男爵を授けられ後ち姓を東三條と稱し同十九年公美君三條公爵家に入りて其嗣子となるや君其後を承く。

君實は東三條公恭君の三男にして、公爵三條公輝君の從弟君に當り、明治十六年五月を以つて生る同四十一年明治大學法律科を卒業す。

夫人を龍江子と稱し其の間に二男一女あり、現に東京市淺草區船橋町四三番地に住す。

柴岡喜一郎君

從五位勳三等　後備海軍造船大佐
株式會社横濱ヨット工作所取締役

君は岡山縣士族柴岡文太郎君の令弟にして、明治六年三月を以つて東京に生る。明治三十年東京帝國大學工科大學を卒業す。

然して、海軍造船官となり、大正三年十二月造船大佐に進み豫備役に編入せられ後ち浦賀船渠株式會社取締役に推され現に横濱ヨット工作所取締役たり。

夫人榮子は岡山縣士族宮崎有終君の五女にして君との間に二男七女あり、現に横須賀市深田町一〇番地に住し電話横須賀九七五番なり。

廣岡伊兵衛君

京都府多額納稅者

君は京都府の人先代伊三君の長男にして、明治七年九月を以つて生る。現に京都府多額納稅者として直稅貳千七百三十余圓を納む。

夫人をツル子と稱す、現に京都市下京區室町五條上ルに住し電話長下三四〇番たり。

柴田極人君

四脇銀行取締役
太陽生命保險株式會社監査役

君は新潟縣の人柴田登那美君の長男にして、明治九年十月を以つて生れ後ち先代蔦江君の養嗣子となる。

夙に實業界に投じて活躍大いに努め、現に前記の外生氣嶺粘土石炭株式會社監査役たり。

夫人セイ子は新潟縣の人古川九郎治君の四女たり、現に東京市外澁谷町中澁谷九七一番地に住し電話青山一六番なり。

廣瀨久彦君

中央鑛業原料株式會社取締役
日本護謨製造株式會社監査役

君は愛知縣士族廣瀨正益君の長男にして、明治十年五月を以つて生る。夙に地方土木建築界に活躍して斯界に名聲を博し、現に前記諸會社の重役にして且つ愛知縣多額納稅者として直接國稅二千八百五十余圓を納む。

夫人いそ子は愛知縣の人石川芝太郎君の令妹にして君との間に二男二女あり。現に名古屋市東區北清水町五ノ二六七番地に住し電話東三〇〇三番たり。

柴田武治君

株式會社米田屋商店社長

君は東京府士族柴田光之助君の三男にして、明治二十一年十二月を以つて生る。明治四十二年大倉高等商業學校本科を卒業するや直ちに實業界に投じ、現に前記會社々長たり。

夫人を鈴子と稱し東京府士族岡崎橋彌君の三女にして君との間に武俊君及び婦美子、豐子等あり、現に東京市京橋區銀座二ノ六番地に住し電話銀座六三三六番なり。

廣瀨慶之助君

茨城縣多額納稅者

君は茨城縣の人山内彦兵衛君の長男にして、慶應元年四月を以つて生れ、明治五年十二月先代庄兵衛君の養嗣子となる。現に茨城縣多額納稅者にして直稅四千百五十余圓を納むるを以つて名あり。

夫人レン子は茨城縣の人永野忠兵衛君の令妹にして其の間に二男二女あり、現に茨城縣新治郡高濱町に住す。

鹽川三四郎君

從六位勳五等
北海道拓殖銀行副頭取

君は長野縣の人鹽川幸太君の令弟にして、明治六年四月を以つて生る。明治三十二年東京帝國大學法科大學を卒業するや更に大學院に入りて研鑽を積み、後ち職を官途に奉ず。

斯くて大藏大臣秘書官に任じ後ち辭して前大藏大臣渡邊國武君に隨ひ歐米視察の途に上り、更に英國牛津大學に政治經濟學を修め銀行實務を修得せり。

然して歸朝後は日本銀行檢査役、同行秘書役、營業局長、大阪、京都、名古屋各支店長、國庫局長、倫敦代理店監督役調査局長等を歷任し、現に北海道拓殖銀行副頭取たり、曩に日露事件の功に依り勳六等單光旭日章を賜り歐洲戰爭の功に依り勳五等に陞叙す。

夫人千夏子は伯爵渡邊昭君の叔母君に當り跡見高等女學校及學習院の出身にして君との間に三千勝君、佐久雄君、金城君及び桃子、國子等あり、現に東京市外中野町三〇七一番地に住し電話中野七七番なり。

平原庄兵衛君

山梨證券株式會社取締役
甲府電力株式會社取締役

君は山梨縣の人河内四郎君の令弟にして明治十年二月を以つて生れ、同三十三年十一月先代庄兵衛君の養嗣子となる。

現に前記會社の重役にして且つ山梨縣多額納稅者として直接國稅一千九百九十余圓を納むるを以つて知らる。

夫人との間に四男二女あり、現に甲府市綠町一五番地に住す。

鹽田廣重君

醫學博士　正五位勳四等

君は京都府士族鹽田重威君の長男にして、明治六年十月を以つて生る。明治三十二年東京帝國大學醫學科を卒業するや更に大學院に於て斯學の研鑽を積みぬ。

然して後ち同大學助手となり同三十五年同大學助教授に進み、同四十年私費を以つて海外に留學し歸朝後同四十四年醫學博士の學位を授けらる。

大正三年私費を以つて再び佛國に留學し蘊蓄を積みて歸朝し、現に東京帝國大學醫學部教授兼大學附屬醫院長たり。

夫人を紀久代子と稱し京都府の人齋藤仙也君の長女にして君との間に輝重君、義重君、直重君及び滿壽子、正子、安子等あり、現に東京市本郷區弓町一ノ一〇

番地に住し電話小石川一七一三番なり。

平林斧吉君

信州銀行頭取
長野貯蓄銀行取締役

君は長野縣の人平林茂樹君の二男にして、慶應二年十一月を以つて生る。現に前記銀行會社の重役たり。

夫人さく子は百瀬時三郎君の二女にして君との間に要三君、六彌君、格郎君及び靜子、ぬい子、とみ子等あり、現に長野縣東筑摩郡廣丘村に住す。

鹽崎集成君

江戸ゴム株式會社專務取締役

君は愛媛縣の人鹽崎富太郎君の二男にして、明治二十二年十一月を以つて生る現に江戸ゴム株式會社專務取締役たり。

夫人をウタ子と稱し愛媛縣の人河端銀太郎君の長女にして君との間に公移君、哲三君及び南枝子、桃美子、房子等あり現に東京市外品川町北品川七一八番地に住す。

平林中次郎君

池田商業銀行頭取
池田製糸株式會社常務取締役

君は長野縣の人平林庄太郎君の二男にして、慶應元年十一月を以つて生れ、大正六年四月亡兄庄太郎君の後を繼ぐ。

現に池田商業銀行頭取たる外池田製絲株式會社常務取締役にして且つ北安銀行監査役たり。尙ほ長野縣多額納税者として直税參千九百四十余圓を納む。

夫人ふじ子は長野縣の人平林萬四郎君の長女にして君との間に一男あり、現に長野縣北安曇郡池田に住す。

鎭目泰甫君

株式會社啓成社取締役

君は山梨縣の人鎭目五郎左衛門君の長男にして、明治十一年十一月を以つて生る。現に啓成社取締役たり。

夫人いさを子は山梨縣の人矢崎恭盛君の二女にして君との間に五郎君及び茂登子、千代子等あり、現に東京市赤坂區青山高樹町二番地に住し電話青山一七一一番たり。

平沼彌太郎君

名栗水電株式會社長
飯能銀行取締役

君は埼玉縣の人平沼源一郎君の長男にして、明治二十五年六月を以つて生る。現に名栗水電株式會社々長たる外飯能銀行取締役にして且つ埼玉縣多額納税者として直税參千八百五十余圓を納む。

夫人トミ子は福岡縣士族鬼一郎君の令妹にして君との間に二男二女あり、現に埼玉縣入間郡名栗村に住す。

松風嘉定君

京都商業會議所議員

君は京都府の人井上園七君の長男にして、明治三年十月を以つて生れ同二十四年七月先代嘉定君の養嗣子となる。

現に松風陶磁製造、日本硬質陶器各株式會社々長たる外大阪電機製造、松風工業日本硬化煉瓦、相互運輸倉庫、内外電球鶴谷商會、山陽炭礦、京都火災保險各株式會社取締役にして且つ内外電熱器株式會社監査役たり。

曩に大正十四年萬國勞働會議に際し本邦資本家代表に擧げられ瑞西に渡航せしことあり。

夫人ナカ子は養父嘉定君の長女にして君との間に二男三女あり、現に京都市下京區松原廣道東入に住し電話長下二八四番なり。

平井準輔君

東京電工株式會社專務取締役
ウルシ工業株式會社取締役

君は岡山縣の人平井準君の令弟にして明治二十年八月を以つて生る。夙に實業界に活躍し、現に東京電工株式會社專務取締役たる外ウルシ工業株式會社取締役たり。

夫人敏代子は和歌山縣の人山崎庄一郎君の令姉たり、現に東京市外淀橋町柏木に住す。

白井五郎君

合資會社三門商會代表社員
東亞製網株式會社取締役

君は福島縣の人白井遠平君の五男にして、明治十七年三月を以つて生る。

現に合資會社三門商會代表社員たる外東亞製網、中澤商事、札幌木材、近藤利兵衛商店、中澤貯蓄銀行各株式會社の重役たり。

夫人スミ子は山形縣の人寺島大浩君の長女にして女子英學塾を卒業し君との間に武彦君、喜久男君、泰四郎君及び愛子等あり、現に神奈川縣鎌倉町鎌倉一八二五番地に住す。

廣瀨清兵衛君

資産家　東京府多額納税者

君は東京府の人先代清兵衛君の長男にして、明治二年六月を以つて生る。夙に資産家として知られ且つ東京府多額納税者たり。

夫人きよ子は埼玉縣の人增田錄三郎君の長女にして君との間に二男五女あり、現に東京市赤坂區青山北町七ノ二番地に住し電話青山二五二〇番なり。

志賀和多利君

辯護士　衆議院議員

君は志賀英之進君の長男にして、明治七年十月を以つて岩手縣膽澤郡金ケ崎村に生る。同三十三年日本大學を卒業するや文官高等試驗判檢事登用試驗に合格す斯くて司法官試補檢事代理となり、後ち辭して辯護士を開業し以つて今日に及ぶ、衆議院議員に當選すること二回、現に其職にあり。

夫人リセ子は新潟縣の人石山保吉君の二女にして君との間に一男一女あり、現に東京市本郷區本郷五ノ一六番地に住し電話小石川四七六〇番なり。

平尾雅次郎君

廣島縣多額納稅者

君は廣島縣の人先代雅次郎君の長男にして、明治十九年三月を以つて生る。

現に太田川製鐵、廣島護謨各株式會社常務取締役にして且つ廣島商業會議所議員を勤め、尙ほ廣島縣多額納稅者として直稅貳千百七十金圓を納む。

夫人イト子は廣島縣の人倉田幾藏君の二女にして君との間に四女あり、現に廣島市塚本町一五番地に住し電話特長二〇三番なり。

白波瀨季次郎君

京都府多額納稅者

君は京都府の人白波瀨市兵衛君の長男にして、明治元年二月を以つて生る。現に京都府多額納稅者にして直稅五千余圓を納むるを以つて知らる。

夫人とみ子は京都府の人松田熊吉君の令妹にして君との間に季一君、次郎君、三郎君、四郎君及び福子等あり、現に京都市下京區寺町二條に住し電話上二二九五番たり。

宏　達　彌君

資產家

君は東京府の人宏虎童君の長男にして明治二十六年十月を以つて生る。夙に慶應義塾大學理財科を卒業す。資產家として知らる。

現に東京市麻布區市兵衛町二ノ六番地に住し電話青山一〇一六番なり。

鹽澤虎之助君

地方實業家

君は宮城縣士族鹽澤清廉君の四男にして、明治十年十二月を以つて生る。夙に地方實業界に投じ現に振興商事、東北殖林、東北館、大洋漁業各株式會社の重役にして、且つ宮城縣多額納稅者として直稅貳千十余圓を納む。

夫人とし子は宮城縣士族里見良顯君の長女にして君との間に七男二女あり、現に仙臺市北六番町九四番地に住す。

兵頭正通君

鑛業家

君は東京府士族兵頭正懿君の長男にして、明治八年三月を以つて生る。明治三十二年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し、爾來、鑛山業に從事し斯界に重きをなす。

夫人艶子は子爵伊達宗定君の令妹たり東京市淺草區今戸町一七番地に現住す。

白井勝治君

三河製絲株式會社取締役

君は愛知縣の人富安鷹次君の令弟にして、明治四年三月を以つて生れ、後ち白井直次君の養嗣子となる。夙に地方實業界に投じ、現に前記の外盃絲周旋株式會社の重役たり。

夫人とき子は養父直次君の長女にして君との間に二男あり、現に豐橋市札木町四三番地に住す。

平野豪君

從四位勳五等　辯護士

君は栃木縣士族平野長德君の長男にして、明治四年十一月を以つて生る。明治三十年東京帝國大學工科大學機械科を卒業す。

斯くて直ちに大阪高等工業學校教授に任じ、同四十年市立大阪高等商業學校教授を兼任し、大正四年辭して神戸製鋼所の顧問となり同六年工業視察の爲め米國に遊び、造詣を深くして歸朝す。

然して大阪製作所を創立して同社々長に任じ、同十年農商務技師に任ぜられ特許局抗告審判官勅任となり、同十四年十二月退職し以つて現在に及ぶ。

夫人を春榮子と稱し和歌山縣の人河合雄輔君の五女たり、現に東京市外千駄ヶ谷町原宿一七〇ノ八番地に住し電話青山四三番なり。

鹽野吉兵衛君

大阪府多額納稅者

君は大阪府の人鹽野吉兵衛君の長男にして、明治二十二年二月を以つて生れ、後ち前名光太郎を改稱す。現に大阪府多額納稅者にして直稅壹萬三百七十余圓を納むるを以つて知らる。

夫人ヒロ子は大阪府の人和田和八君の令妹にして君との間に太郎君、良之助君及び佐久子等あり、現に大阪市東區道修町三ノ一一番地に住し電話長本局一六八三番たり。

平野哲五郎君

藤倉工業株式會社取締役

君は千葉縣の人平野仁右衛門君の四男にして、明治七年八月を以つて生る。幼にして東京に出で罐詰製造業を習ひ同三十二年斯業研究の爲め英領加奈陀に航す

然して歸朝後再び米國及び中央亞米利加、墨西哥等を視察し同三十四年北海道に於て罐詰業を開始し、專ら海外輸出に從事し傍ら東京にてヒラノ荷札の製造を創始し、大正五年同業組合を設け同組長に推され現に藤倉工業會社の重役たり。

夫人惠以子は東京府の人石井善次郎君の長女たり、現に東京市四谷區愛住町三二番地に住し電話四谷三六八九番なり。

庄　晋太郎君

日本煤煙完全燃燒株式會社長
株式會社長門銀行取締役

君は山口縣士族庄俊輔君の長男にして明治三年三月を以つて生る。明治二十四年明治大學を卒業す。

斯くて、地方に歸つて地方產業及び公共事業に盡瘁し、村會議員たること六度縣會議員たること二度、現に山口縣々會議長にして且つ市會議員を勤め尙は前記會社の社長及び取締役たる外宇部鐵道、防長林業、日本石灰、德山開港、大日本組網、宇部銀行、東京石灰各株式會社の重役たり。

夫人チトセ子は山口縣士族俠田勘兵衛

君の六女にして君との間に三男四女あり現に山口縣宇部市に住す。

白石多士良君

松原炭礦株式會社長

君は故工學博士代議士白石直治君の長男にして、明治二十年十月を以つて生る明治四十五年東京帝國大學土木科を卒業す。現に松原炭礦株式會社々長たる外小松製作所、東京商業貿易、竹内鑛業、朝鮮農事各株式會社の重役たり。

夫人をさが子と稱し男爵岩村博君の叔母君にして君との間に三男二女あり、現に東京市麻布區飯倉町四ノ二二番地に住し電話青山二六一六番たり。

平田吉郎君

山形縣多額納稅者

君は山形縣士族平田安吉君の長男にして、明治九年一月を以つて生る。現に株式會社鶴岡鐵工所取締役にして且つ山形縣多額納稅者として直稅六千二百七十余圓を納む。

夫人を保子と呼び、山形縣の人中村保次郎君の長女たり、現に山形縣鶴岡市に住す。

島津長丸君

男爵　正四位勳四等

當家は修理大夫島津貴久君の子忠良君の後なり、忠良君は豐臣征韓の役に從つて功あり、宮地一萬七千石を食み代々宗家を輔けて國政を執り久治君に至る。

久治君は從一位大勳位久光君の二男にして夙に勤王の志厚く、元治年中藩主の命を受けて自ら兵馬を督して禁闕を警衛し長州の脫兵を擊退して功を奏し、且つ戊辰の役には軍資を自辨して兵を東北に出し軍功顯著なるものあり。

君は其の長男にして公爵島津忠重卿公爵島津忠承卿男爵島津忠備君同隼彥君の從兄君にして、明治四年九月を以つて生れ同五年一月家督を相續し同三十年十月華族に列し男爵を授けらる。現に貴族院議員にして、曩に鹿兒島電氣軌道會社の重役たりしことあり。

夫人ハル子は男爵島津壯之助君の令妹にして東宮妃附女官長たり。現に鹿兒島市清水町二一番地に住す。

平野豁然君

東洋製靴場株式會社取締役

君は東京府の人平野好君の長男にして明治十四年十一月を以つて生る。現に東洋製靴場株式會社の重役たり。

夫人を萩野子と稱し新潟縣の人鈴木峯映君の令姪にして君との間に二女あり、現に東京市四谷區傳馬町一ノ二三番地に住し電話四谷二一一二番たり。

島德藏君

關西財界の巨頭

君は大阪府の人島德治郎君の長男にして、明治八年四月を以つて生る。

夙に大阪財界に令名を馳せ、現に株式會社上海取引所々長たる外大阪株式取引所、天津取引所、漢口取引所各株式會社理事長及び日本信託銀行、豐國火災保險朝鮮煙草、阪神電氣鐵道、大阪電燈、關西信託、門司築港、大同電力、朝鮮森林鐵道、大阪北港、大同肥料、天津信託、朝鮮電氣工業各株式會社取締役にして、且つ日本郵船、中央毛糸紡績各株式會社監査役たり。

夫人ハナ子は大阪府の人永井源兵衛君の令妹にして君との間に三男一女あり、現に大阪市東區高麗橋五ノ三番地に住し電話本局一五八番なり。

平野勇作君

内外土地株式會社取締役
スマトラ產業株式會社取締役

君は富山縣の人平野太左衛門君の長男にして、明治十七年十月を以つて生る。

現に内外土地株式會社取締役たる外スマトラ產業、大丸商事各株式會社の重役たり。

夫人こと子は富山縣の人吉江幸三郎君の令妹にして君との間に啓一君、勇二君太四郎君、正男君、清君及び節子等あり現に富山縣東礪波郡福野に住す。

白川資長君

子爵　正四位

當家は華山院の皇子彈正尹清仁親王の子延信王の末なり。延信王萬壽二年三月神祇伯に任じ、爾來、代々之を繼承し慶長以來八神殿(今の賢所)の事務を掌る。其の子康資を經て從五位上安藝權守顯康に至り姓を源氏と賜ひ白川と稱す。

累世王家として當代に至る迄連綿九百餘年に及び、且つ典例として天皇即位の際同家の女王寨帳を勤むるの榮あり、又家に永宣旨の印あり以つて新に神社たるの資格を授くる特權ありといふ。

然して後ち二十四世を經て右近衛權中將子爵資訓君に至る、同四年神祇省の命により賢所を同省神殿へ遷座被仰出慶長以來當家に守護すること四百餘年にして神祇省に其の事務を移せり。

當家には皇典に關する古書極めて多く考古參考資料堆積せりといふ。

君は先代資訓君の長男にして、明治三年十二月を以つて生れ同三十九年家督を相續し襲爵仰せ付けらる。明治三十八年東京外國語學校佛語科を卒業し、佛文學に造詣深し。

夫人リウ子は福岡縣士族飯野盛谷君の長女たり、現に東京市外大久保町西大久保四二一番地に住し電話四谷五七番なり

平野與次左衛門君

北海道多額納稅者

君は兵庫縣の人平野與次郎君の長男にして、明治四年二月を以つて生る。現に合資會社大正木工場代表社員にして、且つ北海道多額納稅者として直稅一千三百七十余圓を納む。

現に北海道旭川市ウシシュペツ三ノ一番地に住す。

篠原武君

從五位勳三等　陸軍士官學校教授

君は茨城縣士族先代節君の長男にして明治二年十二月を以つて生る。明治二十九年東京帝國大學理科大學物理學科を卒業し以つて現在に及ぶ。

夫人こま子は東京府の人杉浦卯三郎君の令妹たり、現に東京市麹町區三番町七五番地に住す。

日高直次君

住友ビルディング株式會社取締役
株式會社高島組監査役

君は大阪府の出身にして明治八年一月を以つて生る。明治三十三年日本大學を卒業するや直ちに辯護士試驗に合格し、後ち法曹界に活躍すること數年に及ぶ。

然して明治三十八年住友家に入り、大正八年より九年に渉り住友總本店支配人として歐米巡視をなし、同十年住友合資會社組織せらるゝや同社總務部長に擧げられ、現に其の傍ら株式會社住友ビルディング及高島組の重役たり。

夫人みひさ子と稱し大阪府の人加藤榮君の令妹にして君との間に二男二女あり現に大阪市東區谷町二ノ三一番地に住し電話東一二一二番なり。

清水文之輔君

太陽生命保險株式會社專務取締役
生氣嶺粘土石炭株式會社取締役

君は福井縣の人清水九十郎君の長男にして、明治元年一月を以つて生る。明治二十二年第一高等學校英法科を卒業す。

斯くて志を立て米國に航し、ホノルゝに於て米人と共同して法律事務所を設け傍ら邦字新聞を發刊して大いに啓蒙開發に盡瘁す。

然して歸朝後第二高等學校教授、長崎商業會議所書記長、長崎十八銀行元山支店長、元山商業會議所會頭、長崎十八銀行京城支店長等を歷任し、太陽生命保險株式會社の創立に當り其幹部となり、現に同社專務取締役として知られ、尙ほ生氣嶺粘土石炭會社の取締役たり。

夫人エイ子は鹿兒島縣士族渡瀨正衛君の令妹にして君との間に公一君及びアキ子、セン子等あり、現に東京市外澁谷町下澁谷八〇〇番地に住し電話青山三二六二番なり。

樋口誠康君

子爵　正三位勳三等
貴族院議員

當家は藤原鎌足七代の孫權大納言長良の後裔にして、高倉大納言永家の二男入道左中將親具より出で、親具の二男信孝岐れて一家を創立し樋口と稱し夫より九代靜康君に至る。

君は靜康君の四男にして、慶應元年九月を以つて生れ明治十七年子爵を授けらる。明治二十一年陸軍歩兵少尉に任じ同三十年大尉に昇進す、貴族院議員に互選せらるゝこと三回、以つて現在に及ぶ。

現に神奈川縣鎌倉町鎌倉に住す。

島連太郎君

田邊國譽株式會社取締役

君は福井縣の人島伴平君の長男にして明治三年三月を以つて生る。三秀舍と稱し印刷業を營み現に前記會社の重役たり

夫人とし子は東京府士族淺利信隣君の二女にして君との間に誠君、裕君及び美惠子、きり子等あり、現に東京市神田區美土代町二ノ一番地に住し電話大手五七二〇番なり。

廣岡久右衞門君

加島銀行監査役

君は鳥取縣士族三澤糾君の令弟にして明治二十三年一月を以つて生れ、大正三年四月先代久右衞門君の養嗣子となる。大正三年同志社大學經濟科を卒業するや三井銀行本店に勤務し、後ち、米國ハーバート大學大學院銀行科に學び、更にボストン第一國立銀行及紐育メトロポリタン生命保險會社に入りて實務を見學して歸朝し、現に前記の外大同生命保險會社監査役たり。

夫人をイク子と稱し君との間に正莊君及び允子、千鶴子、瑠璃子等あり、現に大阪府住吉天王寺二六五八番地に住し電話南二七四〇番なり。

島田竹三郎君

株式會社府中銀行頭取

君は故衆議院議員綾部惣兵衛君の令弟にして、明治四年三月を以つて生れ、同二十八年先代澤吉君の養嗣子となる。現に府中銀行頭取たる外玉南鐵道、京王電氣軌道各株式會社の重役たり。

夫人をキン子と稱し養父澤吉君の二女にして君との間に清次郎君、金三郎君、榮之助君等あり、現に東京府豊多摩郡府中に住す。

平間彌五郎君

日東酒造株式會社取締役

君は宮城縣の人平間彌五郎君の長男にして、明治十三年十二月を以つて生れ、後ち前名養之助を改めて襲名す。

夙に地方財界に投じ、現に日東酒造株式會社取締役にして、且つ宮城縣多額納稅者として直稅四千八百二十余圓を納むるを以つて知らる。

夫人をきくよ子と稱し君との間に五男三女あり、宮城縣名取郡岩沼に現住す。

島田新助君

東京揮發油株式會社取締役

君は埼玉縣の人北村幸之助君の令弟にして、明治元年二月を以つて生れ同二十九年四月先代勇之助君の養嗣子となり前名惣兵衛を改稱す。

現に島屋と稱し諸機械荒物商を營み兼て東京揮發油株式會社取締役たり。

夫人をてう子と稱し養父新助君の長女にして君との間に增次郎君、洋三君、邁三君、惠司君及び孝子、愛子、智惠子、健子等あり、現に東京市日本橋區小網町二ノ六番地に住し電話浪花一八〇七番なり。

肥田誠三君

大阪府多額納稅者

君は大阪府の人肥田俊藏君の長男にして、明治二十一年五月を以つて生る。明治四十三年大阪高等商業學校を卒業す。

然して直ちに關西實業界に投じ、現に虎屋信託、河內紡績各株式會社の重役にして且つ大阪府多額納稅者として直稅四千四百九十余圓を納む。

夫人をキヌ子と稱し奈良縣の人吉川善重郎君の二女にして君との間に穎三君、裕三君及び喜美子等あり、現に大阪市南區安堂寺橋通二ノ三五番地に住し電話船場七九五番なり。

澁谷米太郎君

三菱內燃機株式會社常務取締役

君は山形縣の人澁谷五右衛門君の四男にして、明治十年十二月を以つて生る。明治三十六年東京帝國大學法科大學英法科を卒業す。

曩に三菱合資會社香港支店長、同神戸支店長及び三菱商事株式會社常務取締役等を歷任し以つて現在に及ぶ。

夫人ミサ子は東京府の人山口銳之助君の長女にして君との間に武彥君、民雄君及び光子、美枝子等あり、現に東京市外入新井町入不斗二七四番地に住し電話大森六五番たり。

樋口達兵衛君

百三十七銀行業務取締役
鐵山電燈株式會社取締役

君は兵庫縣多紀郡の門閥家樋口市郎兵衛君の長男にして、慶應三年十二月を以つて生る。

夙に横濱商業學校を經て第三高等學校に學び同校を卒ふるや直ちに實業界に投じ、曩に共同貯蓄銀行を創立し後ち百三十七銀行と合併以來其の專務取締役に擧げられ尙ほ諸會社の重役たり。

夫人とま子は大阪府の人森村三良平君の令妹にして君との間に一男あり、現に兵庫縣多紀郡篠山に住す。

島村友三郎君

大日本製糖株式會社監査役

君は東京府の人先代友三郎君の長男にして、明治十四年七月を以つて生る。現に大日本製糖株式會社監査役たり。

夫人をひと子と稱し東京府の人柿沼由兵衛君の長女にして君との間に一男三女あり、現に東京市神田區東龍閑町九番地に住す。

廣川長八君

新潟縣多額納稅者
三條銀行頭取

君は新潟縣の人廣川長八君の長男にして、明治十九年九月を以つて生る。現に三條銀行頭取たる外新潟硫酸株式會社重役にして且つ新潟縣多額納稅者として直稅二千六百四十余圓を納む。

夫人をセン子と稱し新潟縣の人廣川莊三君の長女にして君との間に一男あり、現に新潟縣南蒲原郡三條に住す。

澁谷權之助君

株式會社佐藤製衡所取締役

君は東京府の人澁谷喜助君の養弟にして、明治十六年一月を以つて生る。現に前記會社の重役たる外帝國自動車、上海印刷各株式會社の重役として知らる。

夫人をいさ子と稱し東京府の人渡邊和久太郎君の養女にして君との間に忠三君濱雄君、義助君等あり、現に東京府北多摩郡吉祥寺二六二七番地に住す。

廣川周造君

富山縣多額納稅者

君は富山縣の人廣川久松君の長男にして、明治十三年十月を以つて生る。現に地方實業界に重きをなし、魚津銀行取締役たる外實業銀行、入善銀行、泊銀行の重役にして尙ほ富山縣多額納稅者として直稅一千三百三十余圓を納む。

夫人をメッエ子と呼び富山縣の人金木三郎君の長女たり、現に富山縣下新川郡横川に住す。

清水竹次郎君

石川縣多額納稅者

君は石川縣の人北本喜兵衛君の三男にして、慶應元年四月を以つて生れ、後ち先代善右衛門君の養嗣子となる。

夙に地方實業界に活躍して其の敏腕を鳴らし、現に羽二重織業を營みて斯界に重きをなし、尙ほ石川縣多額納稅者として直稅二千二百三十余圓を納む。

夫人リウ子は石川縣士族上田忠太郎君の令妹にして君との間に善次郎君、清三郎君、正治君、保治君及び初榮子、タケ子等あり、現に金澤市長川町岸五八番地に住す。

平松藤太郎君

從七位勳六等　機關隊軍中尉
東京テレヂング商會代表社員

君は東京府の人平松嘉市君の二男にして、明治十一年一月を以つて生る。明治三十二年東京高等工業學校機械科を卒業す。

然して直ちに鐵道作業局に入り同年一年志願兵として入營し、翌年陸軍砲兵少尉任官と共に豫備役に編入せられ、後ち臺灣總督府鐵道部に入り同三十四年辭して外國商館に入り勤續すること十五年、其の間大正元年商業視察の爲め歐米諸國に渡航し偶々歐洲戰亂に際會して歸朝す。

斯くて大正四年五月同商館を辭して自ら東京テレヂング商會を興し現に同社業務擔當社員たり、曩に日露戰役に從軍して砲兵中尉に陞進す。

夫人キヌ子は岡山縣の人赤木常太郎君の二女たり、現に東京市麴町區紀尾井町六番地に住し電話四谷五三二八番たり。

島田平右衛門君

六十八銀行取締役

君は大阪府の人土地の豪農小谷力三郎君の二男にして、明治六年九月を以つて生れ、後ち先代平右衛門君の養嗣子となる。

古くよりの素封家にして現に六十八銀

行取締役を勤め尚ほ奈良縣多額納稅者として直稅八百四十余圓を納む。

夫人キク子は大阪府の人鳥田平四郎君の二女にして君との間に平一君、保君、武之助君、恒之君、平二君及びマサ子、トヨ子、ヌイ子等あり、現に奈良市角振新屋町一番地に住す。

久田益太郎君

帝國土地興業株式會社專務取締役

君は東京府士族久田升美君の長男にして、明治三年一月を以つて生る。夙に鴻池家に仕へ、鴻池銀行副支配人兼東京支店長及び日本信託興業株式會社相談役等を歷勤す。

然して現時は前記會社の專務取締役たる外帝國朝日銀行專務取締役にして且つ原田積善會理事たり。

夫人ツネ子は大阪府の人岩名政吉君の長女にして君との間に三男二女あり、現に東京市日本橋區濱町一ノ二番地に住し電話浪花六八一〇番なり。

繁田武平君

埼玉縣多額納稅者
武州銀行取締役

君は埼玉縣の人繁田滿義君の二男にして、慶應三年二月を以つて生る。夙に龜甲武醬油釀造元として知られ、且つ武州銀行取締役にして尚ほ埼玉縣多額納稅者として直稅八千二百余圓を納む。

夫人とう子は埼玉縣の人高山仁兵衛君の令妹にして君との間に四男一女あり、現に埼玉縣入間郡豐岡に住す。

肥田七郎君

醫學博士　肥田病院長

君は山梨縣の人肥田殿守君の五男にして、明治二年六月を以つて生る。明治三十二年東京帝國大學醫科大學醫學科を卒業し、大正元年醫學博士の學位を授けらる。現に肥田病院を經營し同院長たり。

夫人八重子は東京府の人守田潤三君の二女にして君との間に千枝子、春江子、茉莉子、菊江子、倭文子等あり、現に東京市日本橋區松島町二七番地に住す。

島田勇次君

商業ビルブローカー銀行常務取締役

君は宮城縣士族高橋景吉君の令弟にして、明治二十一年五月を以つて生れ、後ち先代のお子の入夫となる。明治三十八年大倉高等商業學校專科を卒業するや直ちに實業界に投じ、現に商業ビルブローカー銀行取締役たり。

夫人のお子は東京府の人島田忠兵衛君の二女にして君との間に勇夫君及び純江子、良江子等あり、現に神奈川縣鎌倉町に住す。

樋口繁次君

醫學博士　樋口病院長

君は新潟縣の人樋口良助君の令弟にして、明治九年十二月を以つて生る。明治三十二年千葉醫學專門學校を卒業す。然して卒業後は專ら產科婦人科を研究し、同四十四年醫學博士の學位を授けらる。

現に樋口病院を經營して其の院長たる外東京慈惠會大學教授並に慈惠會醫院產科婦人科部長たり。

夫人せい子は男爵高平小五郎君の長女にして君との間に一成君及び多嘉子、爲之子、不二子等あり、現に東京市芝區西久保城山町八番地に住し電話高輪六一二五番なり。

信太儀右衛門君

衆議院議員

當家は菅原道眞公の嫡流にして藩祖佐竹氏と共に古くより秋田に入りて未開の地を開拓し、殊に植林事業に功勞ありしを以つて苗字帶刀を許されたる舊家なり。

君は先代鶴治君の長男にして、明治十五年十月を以つて生る。夙に北海道帝國大學農科大學及び早稻田大學等に學び、後ち歸鄉して專心產業立國を主眼として農產開發に盡瘁し、而して幾多民黨の推すがまゝに衆議院議員として中央政界に送られ、尚ほ其の他金岡村長、縣會議員等に擧げられ、斯くて君が公共の爲めに貢獻する蓋し尠少ならざるべし。

夫人をヒサ子と稱し秋田縣の人兒玉要助君の長女にして君との間に一男一女あり、現に秋田縣山本郡金岡村に住す。

東久世通敏君

伯爵　從三位勳五等

當家は中務卿具平親王の子右大臣源師房の裔正二位權大納言通堅の三男參議通廉君の後なり。

夫より數世を經て通禧君に至り明治十七年伯爵を授けらる。通禧君は夙に王政復古の大業を企圖し幕府の忌む所となり三條實美等六卿と難を長州に避け明治元年參與職を仰付けられ、爾來、議定職、神奈川縣知事、外國官副知事、開拓使長官、侍長元老院幹事、同副議長、貴族院副議長、樞密顧問官、同副議長、議定官等を歷任し從一位勳一等に叙せらる。

君は通禧君の二男にして、明治二年十一月を以つて生れ同四十五年爵位を付けらる。夙に獨逸に留學し曩に御料局技師、帝室林野管理局技師を歷任す。

現に東京市外澁谷町下澁谷豊分一六六番地に住す。

重城敬君

千葉縣多額納稅者

君は千葉縣の人重城伊三郎君の長男にして、慶應二年七月を以つて生る。現に千葉貯蓄銀行取締役たる外千葉縣水產、仁優酒造、木更津酒造各株式會社の重役にして、且つ千葉縣多額納稅者として直稅九百六十余圓を納む。

夫人をせき子と呼び千葉縣の人鮎川清右衛門君の三女たり、現に千葉縣君津郡巖根村に住す。

姫沼久藏君

東京洋傘骨原料株式會社監査役

君は東京府の人川村政藏君の令弟にして、明治十五年三月を以つて生れ、後ち先代喜野君の養嗣子となる。夙に東都財

界に活躍して敏腕を振ひ、現に東京洋傘骨原料會社の重役たり。

夫人をはな子と稱し東京府の人古川貞次郎君の長女にして君との間に二男二女あり、現に東京市本所區長崎町四〇番地に住し電話墨田二九八八番たり。

清水留三郎君

衆議院議員

君は群馬縣の人清水道三郎君の三男にして、明治十六年四月を以つて生る。夙に東京專門學校を卒業するや志を立てゝ海外に航し、ワシントン大學及びミネソタ大學等に學びマスターオブアーツの學位を受け、曩に紐育市に於て貿易業を營みしことあり。

然して歸朝後は產業新聞社々長及び上野新聞專務取締役等として活躍し、大正九年以來衆議院議員に當選し、中央政界に名を鳴らす。

現に前橋市曲輪に住す。

肥田金一郎君

鄙山土地建物株式會社取締役
只見川水力電氣株式會社取締役

君は東京府の人先代昭作君の長男にして、明治七年七月を以つて生る。現に前記諸會社の重役たり。

夫人をりん子と稱し君との間に三男二女あり、東京市牛込區市ヶ谷甲良町四一番地に現住し電話牛込四一五一番なり。

下元鹿之助君

從七位　衆議院議員
片岡製絲株式會社支配人

君は高知縣士族下元興行君の三男にして、明治八年八月を以つて生る。曩に高知縣技師、高知縣會議員たりしことあり。

現時は片岡製絲株式會社支配人にして曩に衆議院議員に推され、現に憲政會所屬代議士として中央政界に名あり。

夫人民惠子は高知縣士族下元琢吾君の長女にして君との間に二男三女あり、現に高知縣高岡郡東又村に住す。

日野信次君

日野病院長

君は岐阜縣の人羽根田彌一君の令弟にして、明治十一年三月を以つて生れ、後ち明治四十二年三月日野常太郎君の養嗣子となる。

夙に獨逸に留學し醫學の研鑽を積みて歸朝し現に日野病院長たり。

夫人みち子は養父常太郎君の長女たり現に東京市下谷區龍泉寺町四一四番地に住し電話下谷三七六〇番たり。

柴田忠次郎君

福岡縣多額納稅者

君は福岡縣の人箱島甚作君の三男にして、慶應元年九月を以つて生れ、明治二十四年十月先代宗平君の養嗣子となる。

現に福岡縣多額納稅者として直稅一千八百六十余圓を納むるを以つて知らる。

夫人をツル子と稱し福岡縣の人松村半三郎君の二女たり、現に福岡市瓦町二五番地に住し電話五五三番なり。

氷見谷久四郎君

丸三釀造株式會社長
中外製菓株式會社專務取締役

君は東京府の人氷見谷直次郎君の二男にして、明治二十六年十一月を以つて生る。夙に實業界に投じて君が敏腕を縱横に振ひ、現に丸三釀造株式會社々長たる外中外製菓株式會社專務取締役として知らる。

夫人ヒデ子は大阪府の人山本久吉君の長女にして君との間に巖君、豊君等あり現に東京市日本橋區濱町二ノ一二番地に住す。

四條隆愛君

侯爵　從三位勳四等
貴族院議員

當家は藤原鎌足曾孫魚名の裔正二位大納言隆季の後なり、隆季に至り姓を四條と稱す、夫より二十一代を經て隆愛君に至る。

隆愛君は弓術に長じ、畏くも明治天皇の御師範役を勤め、又文久年間筑前に落ちし七卿の一人にして、戊辰の役には大總督府參謀として勳功あり陸軍中將に任じ、同十七年勳功に依り特旨を以つて華族に列し侯爵を授けらる。

君は其の九男にして男爵四條隆英君の養父に當り明治十三年六月を以つて生れ明治三十一年十二月襲爵仰せ付けらる。明治三十三年陸軍士官候補生となり、陸軍騎兵少佐に陞り、大正六年十二月宮內省御用掛を仰せ付けられ主馬寮勤務を命せられ以つて現在に及ぶ。

夫人糸子は公爵德川慶光君の叔母君にして君との間に隆德君及び富士子あり、現に東京市外代々幡町代々木八二二番地に住し電話四谷一七七六番たり。

一柳仲次郎君

一柳商會代表社員

君は北海道の人一柳淺右衛門君の二男にして、明治元年十月を以つて生る。

夙に神戸に至り貿易商を營み現に一柳商會代表社員にして、曾つて札幌區會議員、北海道會議員、同議長、札幌商業會議所議員、同副會頭等に擧げられ、大正九年以來衆議院議員に當選すること前後二回に及べり。

夫人テル子は北海道の人笹間多兵衛君の五女にして君との間に二郎君あり、現に兵庫縣武庫郡御影町に住す。

志田鉀太郎君

法學博士　從四位勳四等
實業家

君は千葉縣士族志田知義君の長男にして、明治元年八月を以つて生る。明治二十七年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し後ち商法研究の爲め獨逸に留學す。

斯くて、歸朝後は東京高等商業學校教授兼學習院教授、東京帝國大學法科大學教授等を歷任し後ち法學博士の學位を授けらる。

然して辭して實業界に投じ現に第九十八銀行、共濟生命保險、秋田瓦斯各株式

會社取締役にして、且つ東京火災保險、秋田電氣、帝國海上運送火災保險、東洋火災海上再保險各株式會社監査役たり。

夫人を良子と呼び和歌山縣士族畠中彌三郎君の長女にして君との間に一郎君、三郎君、四郎君及び婦美子等あり、現に東京市小石川區小日向臺町三ノ一三番地に住し電話牛込三〇七〇番たり。

廣岡助五郎君

加島屋株式會社長

君は東京府の人先代廣岡助五郎君の長男にして、明治十五年一月を以つて生る。夙に賀鳳に加島屋と稱して清酒問屋を營み尚ほ大日本酒造、共新運輸各株式會社の重役たり。

現に東京市京橋區四日市町二番地に住し電話銀座五〇九四番なり。

信保利平君

株式會社信保商店社長

君は德島縣の人阪東喜八君の令弟にして、慶應二年一月を以つて生れ、後ち先代クニ子の養嗣子となる。夙に關西財界に投じ、現に株式會社信保商店社長として知らる。

夫人をクニ子と呼び大阪府の人信保與次平君の長女にして君との間に三男一女あり、現に大阪市西區九條通一ノ八一番地に住し電話西一八二九番なり。

廣瀨鉞太郎君

共同火災保險株式會社取締役

君は愛媛縣士族廣瀨坦君の長男にして明治十三年十月を以つて生る。明治三十九年京都帝國大學法科大學を卒業す。現に共同火災保險株式會社取締役たり。

夫人文子は石川縣の人横地石太郎君の二女にして君との間に二男二女あり、現に東京市牛込區二十騎町九番地に住し電話牛込一四三七番なり。

椎葉紀義君

北日本礦業株式會社取締役

君は長崎縣士族椎葉主馬造君の長男にして、明治二年十一月を以つて生る。現に北日本礦業株式會社取締役たり。

夫人ヨシ子は長崎縣士族山川端夫君の令妹にして君との間に二男二女あり、現に東京市外千駄ヶ谷町原宿一七〇番地に住し電話青山二五七〇番たり。

久野春之助君

關門汽船株式會社專務取締役

君は山口縣の人久野勝藏君の養嗣子にして、明治十四年八月を以つて生る。現に前記の外梶永鐵工所、下關商事、第百十銀行、下關米穀取引所各株式會社の重役として知らる。

夫人かね子は東京府の人湯淺長吉君の長女にして君との間に保君、四郎君、五郎君、勝文君及び峰子、雪子、華子等あり、現に下關市關後地村一六八四番地に住す。

柴仁三郎君

株式會社柴仁商店取締役

君は兵庫縣の人柴仁兵衛君の長男にして、明治九年五月を以つて生る。夙に賀鳳商を營み、柴仁商店と稱して斯界に重きをなし、現に同社取締役にして、尚ほ傍ら神戸商業會議所議員たり。

夫人をすて子と稱し滋賀縣の人目賀田三郎平君の三女たり、現に神戸市多聞通六ノ六番地に住し電話長本局二〇八五番なり。

廣木八郎君

株式會社大崎機械製作所社長

君は佐賀縣士族廣木良溫君の令弟にして、明治三年二月を以つて生る。明治二十六年東京高等工業學校を卒業す。

斯くて海軍技手、同技師を經て日本精工株式會社專務取締役兼技師長となり、大正十一年前記會社の專務取締役社長に擧げられ以つて現在に及ぶ。

夫人壽子は東京府士族高山信明君の二女にして君との間に作夫君及び壽美子等あり、現に東京市外駒澤村上馬引澤一七一番地に住す。

下條康麿君

從四位勳二等

內閣統計局長兼內閣恩給局長

君は舊松本藩御典醫頭贈從五位下條鋼吉君の二男春君の長男に當る醫師下條鋼吉君の二男にして、明治十八年一月を以つて生る。明治四十二年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業す。

斯くて直ちに文官高等試驗に登第するや職を官途に奉じ、爾來、東京府試補、佐賀縣事務官、內閣書記官、法制局參事官等を歷任し以つて現在に及ぶ。

夫人を榮子と呼び岐阜縣の人上松泰造君の二女にして君との間に進一郎君及び八重子、愛子、朝子等あり、現に東京市麹町區下六番町二六番地に住し電話九段一八八〇番たり。

廣谷新太郎君

東洋自動車株式會社常務取締役

君は大阪府の人廣谷新藏君の長男にして、明治十五年四月を以つて生る。現に前記會社の重役たり。

夫人をタツ子と呼び大阪府の人國中五兵衛君の二女たり、現に大阪市北區曾根崎新地一ノ四九番地に住す。

志村保一君

東北桐材株式會社取締役

君は神奈川縣士族志村保和君の長男にして、慶應二年九月を以つて生る。夙に修文館に學び曩に工部省會計局及び鐵道作業局等に勤務せり。

然して後ち横濱銀行、横濱電氣、扇橋製藥、東京輸出メリヤス、北海道炭礦汽船、横濱蠶業銀行、日本植民、八卷志村日本坩堝、横須賀瓦斯電燈、中外貯金銀行、日東油脂、日本亞砒酸工業、壽榮銀行、西武軌道各株式會社の重役に擧げられ現に前記の外池上電氣鐵道、戰友共濟

生命、羊毛整製、日出鑛業各株式會社重役として知らる。

夫人をイソ子と呼び東京府の人伊勢重次郎君の令妹にして君との間に四男一女あり、現に東京市牛込區辨天町一七番地に住し電話牛込二六九番なり。

廣橋彌太郎君

大和織物株式會社常務取締役

君は奈良縣の人廣橋平治郎君の長男にして、明治八年十月を以つて生る。現に大和織物株式會社常務取締役たる外奈良新温泉株式會社の重役にして、且つ奈良縣多額納稅者として直稅二千百二十余圓を納む。

夫人をフジ子と稱し奈良縣の人岡田平治郎君の令姪たり、現に奈良縣北葛城郡箸尾村に住す。

神藤利政君

日東炭礦株式會社常務取締役

君は神奈川縣の人神藤利君の長男にして、明治十一年二月を以つて生る。現に日東炭礦株式會社常務取締役たり。

夫人をトキ子と稱し東京府の人小倉時次郎君の三女にして君との間に利一君、英保君、正七君、文雄君及びトキ子、治子、幸子等あり、現に東京市外西巣鴨町向原三四八二番地に住す。

平林秀吾君

安藝電氣株式會社取締役
信濃鐵道株式會社取締役

君は長野縣の人森本省一郎君の令弟にして、明治三年十月を以つて生れ、後ち先代歡次郎君の養嗣子となる。

現に安藝電氣株式會社取締役たる外前記會社の重役にして尙ほ長野縣多額納稅者として直稅一千九十余圓を納む。

夫人をあや子と稱し養父歡次郎君の長女たり、長野縣北安曇郡大村に現住す。

椎橋德次郎君

株式會社淺井商店專務取締役
淺井保財株式會社監査役

君は東京府の人山西忠吉君の令弟にして、明治十三年十一月を以つて生れ、後ち先代德次郎君の養嗣子となり前名隆吉を改稱す。

夙に東洋協會植民專門學校を卒業するや直ちに財界に投じ、現に紀伊國屋と稱し鐵物商を營み尙ほ前記各會社の重役たり。

夫人をてい子と稱し君との間に二男あり、現に東京市日本橋區大傳馬町二番地に住し電話浪花五六〇二番たり。

平泉平右衛門君

大阪府多額納稅者

君は大阪府の人平泉平右衛門君の二男にして、明治十二年五月を以つて生る。現に大阪府多額納稅者として直稅四千六百八十余圓を納む。

夫人をハナ子と稱す、現に大阪市南區心齋橋筋二ノ三三番地に住し電話南三七三番なり。

鹽谷良吉君

秋田木工株式會社常務取締役

君は秋田縣の人鹽谷長兵衛君の二男にして、明治六年八月を以つて生る。夙に東都財界に投じて敏腕を振ひ、現に秋田木工株式會社常務取締役たる外秋田土地信託株式會社監査役たり。

夫人をナホ子と呼び秋田縣の人柳田清兵衛君の二女たり、現に東京市外澁谷町中澁谷三〇七〇番地に住す。

平尾贊平君

株式會社平尾贊平商店社長

君は東京府の人先代平尾贊平君の長男にして、明治七年八月を以つて生れ、後ち前名貫一を改稱す。明治二十六年慶應義塾大學理財科を卒業す。

然して後ち歐米各國を歷遊して具さに彼の地の經濟狀況を視察見學して歸朝し明治三十八年以來レート化粧料の本舗として知られ、其の製造發賣にかゝる各種化粧料は今や東西を問はず、貴顯紳士淑女の別なく廣く愛用せられ、正に斯界の覇王として喧傳せらるゝに至りしは蓋し君の多年の奮鬪と研究の結果たらずんばあるべからず。

君今や同社々長として內外の社務を鞅掌し本邦斯界の第一人者として令名內外に普ねし。

夫人てう子は靜岡縣の人野崎衛七君の三女にして君との間に贊之輔君、貫二君、貫三郎君、貴四男君、賢吾君、賀六君及び貴美子、富貴子、久子等あり、現に東京市日本橋區馬喰町一ノ六番地に住し電話大手六一番なり。

庄司兵藏君

秋田縣多額納稅者

君は秋田縣士族庄司兵藏君の長男にして、明治二十年九月を以つて生る。

當家は縣下資產家として知られ尙ほ秋田縣多額納稅者にして直稅一萬九百六十余圓を納む。

夫人いね子は秋田縣の人佐々木乙吉君の長女にして君との間に三男あり、現に秋田縣北秋田郡前田村に住す。

平井文三君

東京府多額納稅者

君は茨城縣の人平井惣太郎君の令弟にして、明治十八年五月を以つて生る。

現に平井商店と稱し東京米穀商品取引所取引員にして、且つ東京府多額納稅者として直稅七千四百七十余圓を納むるを以つて知らる。

夫人をとり子と稱し埼玉縣の人今井虎六君の令妹たり、現に東京市日本橋區蠣殼町一ノ二番地に住し電話浪花三四九五番なり。

庄司乙吉君

東京紡織株式會社取締役

君は秋田縣の人庄司龜治君の令弟にし

て、明治六年五月を以つて生る。現に前記會社の重役たり。

夫人をヤイ子と稱し東京府の人北島亘君の養妹にして君との間に三男五女あり現に兵庫縣武庫郡住吉に住す。

平野猷太郎君

從三位勳二等　判事

君は岡山縣士族平野耕耘君の長男にして、慶應元年七月を以つて生る。明治二十五年東京帝國大學法科大學を卒業す。

斯くて職を官途に奉じ、爾來、京都神戸各地方裁判所檢事、司法省參事官兼檢事、大阪名古屋各控訴院檢事等を歷任し以つて現在に及ぶ。

夫人千年子は岡山縣士族片山捷之進君の長女にして君との間に三男一女あり、現に東京市外入新井町新井宿二一九二番地に住す。

白木周次郎君

愛知縣多額納稅者

君は愛知縣の人先代梅吉君の長男にして、明治十年七月を以つて生る。現に志那忠支店と稱して中京一流の旅館業を營み、尙は愛知縣多額納稅者として直稅二千六百四十余圓を納む。

夫人をのぶ子と稱す、現に名古屋市中區禰宜町一〇三番地に住し電話長本局一九九番なり。

平田榮二君

伯爵　正五位

畫家

當家は先代東助君より家名を揭ぐ。東助君は舊米澤藩士にして、明治初年露國及び獨逸に留學し歸朝後大學南校大舍長に擧げられ、明治四十一年大藏兼太政官少書記官に任ぜらる。

爾來、法制局部長、樞密院書記官長、樞密院顧問官、法制局長官等を歷任し、明治二十三年貴族院議員に勅選せられ明治三十四年農商務大臣に親任し、翌年勳功に依り華族に列し男爵を授けらる。

斯くて後ち再び臺閣に列して內務大臣に親任し、明治四十四年挂冠するに先立ち子爵に陞爵せらる又外交調査委員、臨時教育會議總裁、濟生會副會長、學習院評議會會員等に推され、大正十一年內大臣に任じ同年伯爵に陞爵せらる。

然して大正十四年三月病軀の故を以つて之れを辭し、特に前官の禮遇を賜はりしが同年四月逗子鳴鶴山莊に於て長逝し位階正二位勳一等に叙せらる。

君は其の二男にして、伊東祐彥君の從弟君に當り、明治十五年二月を以つて生れ大正十四年家督を相續すると共に襲爵仰せ付けらる。夙に東京美術學校を卒業して研鑽するところ多年、今や松堂と號して本邦畫壇に令名あり。

夫人を靜子と稱し子爵前田利定君の令妹たり、現に東京市神田區鈴木町一一番地に住し電話大手七三五九番なり。

庄司廉君

米子銀行取締役

君は鳥取縣士族庄司昇造君の二男にして、明治二十年四月を以つて生る。夙に地方財界及び操觚界に令名を鳴らし、現に前記の外山陰日々新聞、境電氣、博愛病院各株式會社の重役にして、且つ鳥取縣多額納稅者として直稅二千九百十余圓を納む。

夫人を清子と呼び島根縣の人木村吉郎君の令妹たり、現に神奈川縣足柄下郡酒匂村に住す。

平山午介君

臺灣拓殖製茶株式會社取締役

君は茨城縣士族平山貞吉君の三男にして、明治三年四月を以つて生る。現に前記會社の重役たる外高砂興業製糖株式會社取締役にして、曩に逓信省貯金局管理所に勤務せしことあり。

夫人はつゑ子は和歌山縣の人小西德松君の長女にして君との間に二男一女あり現に東京市麻布區本村町二〇〇番地に住し電話高輪二四九九番なり。

島安次郎君

工學博士　正五位勳三等

君は和歌山縣の人島吉兵衛君の二男にして、明治三年八月を以つて生る。明治二十七年東京帝國大學工科大學機械科を卒業す。

然して參宮鐵道會社技師となり、後ち關西鐵道會社汽車課長より同三十四年遞信技師に任じ、同三十六年日本鐵道會社に入り歐米へ渡航し翌年歸朝す。

後ち明治四十一年帝國鐵道廳技師に任じ同四十二年東京帝國大學工科大學教授を兼任し更に鐵道院理事に任じ工作局長に補せられ、大正七年技監に陞進す。

夫人順子は滋賀縣の人原田金之祐君の二女にして君との間に秀雄君、茂雄君、邦雄君、恒雄君及び和歌子等あり、現に東京市芝區高輪南町四四番地に住し電話高輪九七五番なり。

平井權七君

中央土地株式會社長
平井合名會社長

君は京都府の人平井うた子の令弟にして、明治十七年四月を以つて生れ、同三十年十二月先代權七君の養嗣子となる。明治四十二年慶應義塾理財科を卒業す。

斯くて直ちに實業界に投じ現に前記の外歐亞通商、小畑商工、日本硬化煉瓦、相互運輸倉庫、旭家具裝飾、松竹キネマ各株式會社の重役たり。

夫人をタマ子と稱し君との間に三男一女あり、現に京都市上京區衣棚通出水下ル常泉院一三三番地に住す。

進藤紫朗君

八千代海上火災保險株式會社取締役

君は東京府の人進藤春吉君の三男にして、明治二十二年一月を以つて生れ、大正九年九月先代はる子の後を承けて戶主となる。現に八千代海上火災保險株式會社取締役たり。

夫人をゆき子と稱す、現に東京市京橋區五郎兵衛町一六番地に住す。

廣川貞吉君

新潟縣多額納稅者

君は新潟縣の人廣川貞吉君の長男にして、明治十一年一月を以つて生る。

現に三條銀行取締役にして且つ新潟縣多額納稅者として直稅七千九百六十余圓を納む。

夫人をハル子と稱し新潟縣の人山崎忠太郎君の養妹たり、現に新潟縣南蒲原郡三條に住す。

篠崎友三君

中央セメント株式會社專務取締役
セメント工業株式會社取締役

君は栃木縣の人篠崎平一君の四男にして、明治元年一月を以つて生る。明治二十五年東京高等工業學校窯業科を卒業するや直ちに財界に投ず。

斯くて北海セメント株式會社に入社し同社よりセメント製造研究の爲め獨逸に留學すること三ケ年、後ち再びセメント製造視察の爲め歐米各國を巡遊す。

現に中央セメント株式會社專務取締役たる外セメント工業、日本硫黄各株式會社の重役として知らる。

夫人を奈尼子と稱し東京女子高等師範學校の卒業にして君との間に二男一女あり、現に東京市本郷區駒込片町一〇番地に住し電話小石川二八八四番なり。

平野光雄君

日本茶精株式會社專務取締役
東京荷造材料會社取締役

君は靜岡縣の人平野房次郎君の二男にして、明治十四年一月を以つて生る。明治四十三年慶應義塾大學政治科を卒業す然して直ちに實業界に投じ、現に前記の諸職にありて知らる。

夫人ひで子は靜岡縣の人笠井胤次郎君の三女たり、現に東京市芝區白金今里町九六番地に住し電話高輪二〇二二番たり。

篠原三千郎君

服部時計店取締役
田園都市株式會社取締役

君は岐阜縣の人鈴木錢次郎君の二男にして、明治十九年三月を以つて生る。明治四十四年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業す。

現に東都財界にありて令名を馳せ、前記各會社の重役たる外服部貿易、目黒蒲田電鐵各株式會社の重役たり。

現に東京市小石川區金富町四七番地に住し電話小石川一一五三番たり。

平泉喜八君

北秋木材株式會社常務取締役

君は秋田縣の人平泉六助君の長男にして、明治二十一年三月を以つて生る。現に北秋木材株式會社常務取締役たり。

夫人をタカ子と稱し秋田縣の人島出儀八君の令孫たり、現に秋田縣北秋田郡大館に住す。

平岡正次郎君

化學化粧品界の權威
平岡化學研究所長

今や本邦化學界就中、一般化學應用化粧品の研究製造家として、嶄然頭角を現はし、斯界に於ける新進の聞えあるを我が平岡研究所長平岡正次郎君となす。

君は舊小笠原藩士にして、馬術の達人を以つて令名高かりし祖父平岡彦左衛門君の令孫にして、明治十一年一月を以つて生る。夙に慶應義塾に學び、後ち獨逸人ウインクラー氏に就きて一般商事經濟に關する學理と實際とを修得すること六ケ年、更に理化學化粧品の製造を研鑽すること數年、其の造詣すること蓋し淺からざるべし。

斯くて聘するがまゝに三共製藥株式會社に入りて恪勤すること十二年、同社營業部長として君の敏腕を縱横に振展して同社の發展に盡瘁すること甚大なりき。

然して、後ち同社を辭して獨力以つて花月洗粉の製造を開始し、後ち ニード商會を設立してニード洗粉其他ニード化粧品の製造に盡瘁せしも、同社々長との折衝面白からざるに慨して同社を辭す。

斯くて大正七年奮然として起ち、獨力以つて平岡化學研究所を開設して一般高級化粧品の研究と製造とに專念し、今や同所の製造にかゝる各種化粧品は斯界に令名高く、其の品質の優秀なると、其の製造高の大量なると、其の賢實なる營業方針とは、能く斯界に伍して本邦同業者を壓するのみならず、君のモットーとも謂ふべき、外國品の輸入抑壓に絶大なる力を有し、正に新日本斯界の權威として前途を囑望せらる、蓋し君の全人格の象徴とも謂ふべきなり。

今や竹田宮家、北白川宮家、東久邇宮家を初め奉り諸名家の御用命を恭ふし、而も各宮家の御用技師として斯界に活躍する君の前途又洋々たりと謂ふべし。

夫人トル子は名にしあふ京都一力亭の主人杉浦次郎左衛門君の長女にして、君との間に一男あり、現に東京市外中澁谷町字田川九四一番地に住し電話青山四四八番たり。

島芳藏君

共榮不動產株式會社監査役

君は大阪府の人奥野平太郎君の令弟にして、明治九年八月を以つて生れ、後ち島都太郎君の養嗣子となる。

明治三十七年京都帝國大學法科大學を卒業するや、直ちに財界に身を投じ、橫濱正金銀行に入りて同行海外支店に在勤すること多年、爾來、同行支店長、副支配人、東洋課長等を歷任し、現に同行頭取席借款課長たる外前記の職にあり。

夫人いく子は養父都太郎君の長女たり現に東京市外千駄ヶ谷町五〇番地に住し電話青山一一四七番たり。

汐見儀兵衛君

實業家

東都財界にありて鋒々の名あるのみならず、又相當の地主として權勢を振ふを

我が新進實業家汐見儀兵衛君となす。

君は東京府の人先代汐見儀兵衛君の二男にして、明治二十一年五月二十二日を以つて生れ、大正八年二月二十五日家督を相續すると共に前名深次郎を改めて襲名せり。

君夙に財界に投じ、先代よりの内外化粧品商を經營して斯界に敏腕を振ひ、今や操白粉、操洗粉の本舗として、富士屋の名都下に普ねく知れ亘り前途洋々たるが如し。

夫人をきみ子と稱し千葉縣の人青柳庄太郎君の五女たり、現に東京市日本橋區横山町一ノ十三番地に住す。

平岡權八郎君

花月樓經營者
東京府多額納稅者

我が花月樓の離價今や東都に普ねし。而して同經營者平岡權八郎君は東京府の人多賀半藏君の長男にして、明治十六年三月を以つて生れ、後ち平岡廣助君の養嗣子となる。

夙に東京美術學校洋畫科を卒業するや君の天禀は早くも本邦畫壇に遺憾なく發揮せられ、文展、帝展等に出品して入選すること數回、一躍斯界に名聲を博し、後ち帝國劇場等の舞臺裝置に君の神妙なる筆を揮ひぬ。

然して、期するところありて畫筆を捨てゝ本邦割烹界に投ずるや、常に東西の粹を以つて其の嶄新を謳はれ、今や、花月樓の令名と共に君の信望又甚大、尚ほ東京府多額納稅者として直稅五千四百數十圓を納むるを以つて知らる。

夫人やゑ子は東京府の人植松孫太郎君の令妹にして、君との間に二女あり、現に東京市京橋區竹川町二一番地に住し電話銀座二二九一番たり。

芝義太郎君

雄別炭礦鐵道會社取締役

君は愛媛縣士族芝義方君の長男にして明治六年二月八日を以つて生る。夙に實業界に雄飛せんとの大志を抱き、即ち斯界に投じて君が敏腕を振ひぬ。

斯くて龍田炭礦株式會社々長を始めとして、北海道炭礦鐵道株式會社取締役等を歴勤し、現に雄別炭礦株式會社の重役として知らる。

夫人ムメ子との間に三男二女あり、現に東京府下上目黒一七〇六番地に住し電話青山一七九〇番たり。

平野復男君

日本製粉株式會社取締役

君は法學博士上杉愼吉君の令弟にして明治十八年七月を以つて生れ、後ち先代いち子の養嗣子となる。

明治四十二年東京帝國大學法科大學英法科を卒業するや、直ちに財界に投じ、曩に東洋製粉株式會社々長、日本絹毛紡績株式會社取締役等を歴勤し以つて現在に及ぶ。

夫人をいち子と稱す、現に大阪府西成郡東濱田九五一番地に住す。

元田肇君

從三位勳一等
衆議院議員

當家は舊豐後臼杵藩の儒家にして、古より松平家に仕へ代々藩主に儒學を進講したる家柄なり、先々代彝君は號を伯倫と稱し、尚書集解、大學標註等の名著あり、其の二男直君家督を繼ぎ漢學を修め古代法制を研究し、維新後江戸に出でて私塾を開き子弟の育英に盡瘁せり。

君實は大分縣の人猪俣榮造君の二男にして、安政五年一月を以つて生れ後ち先代直君の養嗣子となり明治二十三年三月家督を相續す。初め養父に就きて和漢の學を修め、同五年開拓貸費生として開成校に學び、後ち東京帝國大學に轉じ同十三年同學法科を卒業するや、辯護士となり一般訴訟事務に從事せり。

然して明治二十三年大分縣第一區より選出せられて衆議院議員に當選し、爾來改選毎に選出せられ、初期以來議政壇上に立つこと三十有余年立憲政友本黨の元老にして現に同黨總務として知らる、曾つて衆議院副議長、逓信大臣、外交調査會委員、鐵道會議員、拓殖局總裁、鐵道大臣等を歴任す。

現に東京市麹町區紀尾井町八番地に住し電話四谷二三一六番なり。

望月小太郎君

勳三等　衆議院議員
英文通信社長

君は山梨縣の人望月善左衛門君の三男にして、慶應元年十月を以つて生る。夙に慶應義塾に學び卒業後英國に留學しミッツルテンブル、ロンドン兩大學に入りパリスツルの學位を受けて歸朝す。

明治二十九年故山縣公に隨行して露國戴冠式に列し、明治三十年故伊藤公に從ひ英國に航し、女皇六十年式に參列し且つ夙に英文通信社を起し其社長として活躍し、明治三十五年山梨縣郡部より推されて衆議院議員に當選し、爾來衆議院議員たること前後七回現に其の任にありて中央政界に令名高く立憲々政會の元老として知らる、曩に日獨事件の功に依り勳三等に陞叙せらる。

夫人をカヨ子と呼び東京府の人親見七之丞君の長女たり、東京市赤坂區臺町三三番地に現住し電話青山七二二番なり。

芹澤多根君

能登燐礦株式會社長
伊豆銀行取締役

君は靜岡縣の人芹澤伊三郎君の長男にして、明治十年七月二十八日を以つて生る。夙に實業界に活躍し曩に佐野原委托倉庫、渥美養魚、日本化學製油、富士煉乳各株式會社取締役及び御殿場馬車株式會社監査役として盡瘁す。

現に能登燐礦株式會社々長たる外伊豆銀行、駿豆銀行、産業銀行、芹澤銀行、東駿銀行、御厨銀行、三島商業銀行各株式會社取締役にして且つ廣根鑛泉、富士鑛業、芝電氣工業、京濱運輸、千代田興業、駿河電化工業、三河鐵道、東京亞鉛

鐵工、東海石炭、東洋耐火煉瓦各株式會社の重役として知らる。

夫人きわ子との間に一男ありて岩夫君と稱す、因に令弟清根君は其の夫人りつ子と共に子女を伴ひて分家し、令妹さく子は靜岡縣の人勝俣瀧雄君に嫁す、靜岡縣駿東郡泉村に現住す。

關　和知君

從五位勳四等
衆議院議員

君は千葉縣の人關八藏君の長男にして明治三年十月七日を以つて生る。夙に鄕校を卒ふるや直ちに上京し、明治三十八年東京專門學校政治科を卒業し、更に米國に航してエール大學、プリンストン大學等に學び造詣を深くして歸朝す。

曩に新房總、萬朝報各新聞記者、東京毎日新聞編輯長たりしのみならず、又內務大臣秘書官、司法省副參政官、明治神宮造營局參事官、陸軍省政務次官等を歷任し、現に新房總新聞業務監督にして且つ衆議院議員として政界に令名高し。

夫人むめ子は千葉縣の人岡本七右衞門君の長女にして君との間に一男一女ありて和一君及びひさ子と呼ぶ、現に東京市牛込區市ヶ谷五五番地に住し電話四谷三〇〇八番たり。

森垣龜一郎君

工學博士　從四位勳三等

君は兵庫縣の人森垣宇市郎君の令弟にして、明治七年三月を以つて生る。明治三十一年東京帝國大學工科大學土木學科を卒業し、同三十二年大阪市築港事務所技師に任じ、同三十九年大藏省臨時建築部技師に任ぜらる。

然して明治四十年歐米に差遣せられ、歸朝後大正二年大藏技師に任命せられ同八年內務技師を兼ね、大正十二年神戶市都市計畫部長兼港灣部技師長に任ぜられ現に其の職に在り、大正八年工學博士の學位を授與せらる。

夫人ふみ子は兵庫縣士族神矢肅一君の二女にして君との間に茂君、誠君、清君勉君及び花子等あり、現に神戶市籠池通七ノ二四番地に住す。

×

關　一君

法學博士　正六位勳六等
大阪市助役

君は東京府士族關近義君の長男にして明治六年九月を以つて生る。明治二十六年東京商科大學の前身たる、東京高等商業學校を卒業するや直ちに育英界に身を投じ、爾來斯界に貢獻すること甚大、其の間高等商業學校教授、文部省視學官等を歷任す。

然して後ち教育界を辭して大阪市助役となり、現に大阪市長にして且つ大阪商業會議所特別議員たり、尙ほ曩に商業學研究の爲め白耳義に留學し、又淸韓兩國に差遣せられしことあり。

夫人けん子は千葉縣の人大塚源左衞門君の四女にして君との間に俊雄君、秀雄君、義雄君及び武子、和代子等あり、現に大阪市南區天王寺勝山通一ノ四四番地に住す。

森本厚吉君

法學博士　正五位勳四等
北海道帝國大學教授

君は京都府の人增山純一郎君の三男にして明治十年三月を以つて生れ、明治二十九年八月森本治造君の養嗣子となる。夙に札幌農學校を卒業するや米國に渡りジョンスホプキンス大學に學び造詣を積みて歸朝す。

然して明治四十年東北帝國大學農科大學豫科教授となり、同四十一年同大學助教授に轉じ、大正四年九月經濟學財政學研究の爲め再び米國に留學し、同七年三月歸朝と共に北海道帝國大學教授に任じ以つて現在に至る。

大正八年法學博士の學位を授けられ大正十二年財團法人文化普及會を東京に設立して其の理事長となり、社會改善事業殊に住宅問題解決の一手段として五十萬圓を投じ模範アパートメントハウスを建設し、消費經濟學理の應用と研究に從事し、其の教育機關として月刊雜誌「文化生活」を監輯す。

夫人靜子は大阪府の人增山乾三君の二女にして其の間に武也君、文子、和子等あり。

×

諸新平君

福井織工株式會社常務取締役
北陸絹布株式會社常務取締役

君は福井縣士族齊藤政太郎君の令弟にして、慶應元年十月を以つて生れ先代諸ひさ子の入夫となる。

夙に實業界に身を投じ、活躍大いに努め現に前記の諸職にありて地方財界に相當の勢力を張り、尙ほ福井縣多額納稅者として知られ、現に直稅壹千七百四拾余圓を納むといふ。

夫人ひさ子は養父新平君の三女にして君との間に二男三女ありて要君、孝次君及び靜子、しか子、つや子と稱す、現に福井市足羽下二九番地に住す。

望月圭介君

正四位勳三等　逓信大臣
衆議院議員

君は廣島縣の人望月東之助君の二男にして、慶應三年二月廿七日を以つて生る夙に攻玉社共立學校、明治英學校等に學び、傍ら政治法律經濟學を修め學業成るや實業界に入り、鑛山業に從事せり。

然して後ち政治家たらんと志し、推されて衆議院議員に當選すること前後八回現に其の任に在りて政友會の重鎭として永く幹事長を勤め、原內閣時代に擧げられて農商務省參事官たりしことあり。

現に同會總務として令名あり尙ほ中央新聞社取締役にして曩に日獨事件の功に依り勳四等に叙せらる、圍碁音曲等を趣味となす。

現に東京市芝區車町四四番地に住し電話高輪一六一六番なり。

森岡守成君

従三位勲一等功三級
陸軍中將

君は山口縣の人森重五衛門君の三男にして明治二年八月を以つて生れ、後ち先代正奇君の養嗣子となる。明治二十五年陸軍士官學校を卒業し陸軍騎兵少尉に任じ、同三十年陸軍大學を卒業し、大正八年陸軍中將に陞進せり。

其の間軍馬補充部員、軍務局課員、陸軍大學校教官、第五師團參謀、墺國大使館附武官、騎兵第十六聯隊長、騎兵實施學校長、參謀本部課長、青島守備軍參謀長、軍馬補充部本部長、近衛師團長等を歴任し、大正十四年五月軍事參議官に任ぜられ以つて現在に及ぶ。

夫人せつ子は東京府士族和田由恭君の令姉にして君との間に一成君、二郎君、守君及びヒノ子、義子等あり、現に東京府豐多摩郡中野町一六一八番地に住す。

關戸守君

安藝銀行專務取締役
北安銀行取締役

君は長野縣の人關恒司君の長男にして明治六年三月を以つて生る。夙に鄕校を卒ふるや笈を負ふて上京し、早稲田大學邦語政治科を卒業す。

現時は安藝銀行專務取締役たる外北安銀行取締役として地方金融界に活躍し、尙ほ傍ら安藝電氣株式會社取締役として令名あり。

家族は長男恒夫君、二男和親君等を始めとして養子篤君、長女芳子、二女秀子三女愛子、四女滿子等あり、現に長野縣北安曇郡池田町に住す。

泉一新熊君

法學博士　従四位勲三等
司法省行刑局長

君は鹿兒島縣の人泉二當整君の長男にして、明治九年一月を以つて同縣大島郡中勝村に生る。夙に鄕校を卒ふるや笈を負ふて東上し、郁文館中學校に學び明治二十八年同校を卒へて熊本第五高等學校に入り、進んで東京帝國大學法科大學に入り、明治三十五年優秀の成績を以つて同學を卒業す。

然して直ちに身を官界に投じ司法官試補を命ぜられ、同三十八年四月檢事に任じ、四十年四月司法省參事官を兼ねて君が驥才を發揮し、同年法律取調委員同幹事を仰せ付けられ、後ち東京帝國大學法科大學講師並に私立五大法律學校の講師に任じ、其の蘊蓄を傾注して幾多學徒の薫陶に盡瘁せり。

明治四十五年四月司法事務視察の爲め歐米各國に差遣せられ、大正二年三月歸朝するや兼官を免じ東京控訴院檢事に專補せられ、大正五年三月博士會の推薦に依り法學博士の學位を授けらる、現に前記の職にありて錚々の名あり。

現に東京市外下澁谷町一七八三番地に住し電話高輪五二二五番なり。

守屋荒美雄君

株式會社帝國書院社長

曾つては教育界に盡瘁して令名を馳せ今また文化の源泉たる出版界に錚々の名あるを我が守屋荒美雄君となす、君は岡山縣の人守屋鶴松君の三男にして、明治五年五月十五日を以つて生る。

幼にして早くも才幹衆を拔き、年齒僅かに十五歳にして小學教員の檢定試驗に合格して地方教育界に投じ、更に研鑽琢磨、螢雪の功空しからず、二十四歳にして最も困難なる中等教員檢定試驗に首尾よく登第し、直ちに中等學校の教諭に任じ、傍ら中等教科書を著はす等君が育英の道に盡瘁すること甚大なりき。

然して後ち感ずるありて斷然教育界を退き、大正七年獨力帝國書院を創立して圖書出版業を始め、各中等學校の教科書其他一般圖書を刊行し、今や帝國書院の名全國に普ねく、曩に組織を改めて株式會社となし、現に同社取締役社長にして斯界の重鎭たるを失はざるべし。

趣味多樣なる中にも讀書は君の最も好くするところ、就中、地理學の研究家として知らる。

夫人マツ子は神奈川縣の人押田治郎作君の長女にして、神奈川縣立高等女學校の卒業たり、現に東京市牛込區矢來町三九番地に住し電話牛込四一七六番なり。

森田政義君

衆議院議員

君は熊本縣の人森田實政君の令弟にして、明治十七年九月を以つて生れ後ち分家して一家を創立す。大正三年明治大學法科を卒業するや辯護士試驗に合格し大阪市に開業す。

大正十三年の總選擧に際し大阪府郡部より推されて衆議院議員に當選し、現に其の職にありて政友本黨に屬し中央政壇の一異彩たるを失はず。

夫人トクノ子は大阪府の人柴谷伊之助君の二女にして其の間に大造君及びサジ子、政子等あり、現に大阪市住吉町天王寺に住す。

守屋善兵衛君

東北板紙株式會社取締役
東京動產火災保險會社監査

君は岡山縣の人守屋彌作君の長男にして、慶應二年一月を以つて生る。夙に官界に職を奉じ曩に太政官御用掛兼制度取調局御用掛、文部屬等を歴任し、後ち臺灣に航して臺灣日々新報を創刊し更に滿洲日々新聞社々長に轉任し、又歐米諸國を巡遊して新聞通信事業及び印刷工業等を視察見學して歸朝す。

現に東北板紙、東京動產火災保險各株式會社の重役たる外吉林林業、東神火災保險各株式會社の重役にして我が財界に令名あり。

夫人キヨ子は栃木縣の人須永元君の令妹にして君との間に時郎君及び智子、行子等あり、東京市外目黑町一一八五番地に現住し電話高輪一一七番なり。

森永太一郎君

森永製菓株式會社長

君は佐賀縣の人森永常次郎君の長男にして、慶應元年六月を以つて生れ、明治廿一年十一月絶家森永家を再興す。明治十八年横濱に出でて陶磁器貿易店員となり、同廿二年桑港に渡航し實業に從事せしが失敗に歸し、即ち志を轉じて菓子製造業者につき其の職工となり、つぶさに辛酸を嘗めて刻苦精勵十ヶ年、菓子製造の技術を研究して同卅二年歸朝す。

斯くて赤坂溜池附近に西洋菓子商店を開き、數年後にして赤坂田町五丁目に店舗を移し、更に明治四十年芝區田町一丁目に營業所を移轉し、自ら職工に伍して鋭意斯業の擴張發展を計り、爾來業運隆盛に赴きしかば更に斯業の一大擴張を企圖し、之が組織を變更して森永製菓株式會社と改稱し、支店及び製菓工場を全國各地に設け、今や東洋一の製菓會社を以つて目せらるゝに至る、蓋し君の多年の奮闘の賜と云ふべく、「森永……」の名聲内外に普し。

現に東京府荏原郡品川宿御殿山三四四番地に住し電話高輪一九番なり。

森村堯太君

伊勢崎銀行專務取締役

君は群馬縣の人先代堯太君の長男にして、明治二十年二月を以つて生れ、大正十二年家督を相續し前名貞策を改む。

明治四十五年慶應義塾大學を卒業するや、東京渡邊銀行に入りしが大正七年同行を辭し現時利根運河會社長、森堯合名會社代表社員たる外伊勢崎銀行、群馬銀行、森村土地各株式會社の重役として知られ尚ほ群馬縣多額納稅者にして現時直接國稅一千二百五十余圓を納むといふ。

夫人富士子は岡村謙次郎君の長女にして貞淑の譽れ高し、現に群馬縣佐波郡宮郷町に住す。

最上謙吉君

角間川機業株式會社長
平鹿銀行常務取締役

君は秋田縣の人最上廣胖君の三男にして、明治八年三月を以つて生る。明治二十九年慶應義塾大學正科を卒業するや、直ちに歸郷して地方産業の發達に盡瘁し現に角間川機業株式會社々長たる外平鹿銀行常務取締役にして、且つ秋田貯蓄銀行取締役として地方財界に聲名あり。

夫人イシ子は秋田縣の人久米良助君の長女にして君との間に義胖君及び榮子、とみ子、眞佐子、富美子、雪子等あり、現に秋田縣平鹿郡角間川に住す。

森彦三君

工學博士
名古屋高等工業學校長

君は岡山縣士族森庄藏君の二男にして慶應三年三月七日を以つて生る。明治二十四年東京帝國大學工科大學を卒業するや、直ちに身を官界に投じ遞信省鐵道省各技師、帝國鐵道廳技師、鐵道院技師等を歴任し、曩に中部鐵道管理局工作課長兼新橋工場長たりしが、現時は從四位勳三等工學博士にして名古屋高等工業學校長として令名あり。

夫人金子は岡山縣の人相賀經太郎君の令姉にして岡山縣女子師範學校を卒業し君との間に正門君、技視君、博視君、公視君及び喬敏子等あり。

守屋此助君

勳三等　法政大學理事
東京勳産火災保險會社取締役

君は岡山縣の人守屋大一郎君の令弟にして、文久元年五月を以つて生る。夙に中央大學の前身たる東京法學院に學び後ち代言人試驗に及第して狀師となり、一般訴訟事務に從事するに至れり。

然して明治二十七年岡山縣より推されて衆議院議員となり、爾來選出せらるゝこと前後數回に及べり、曩に日露事件の功により勳四等に叙せられ、且つ日獨事件の勳功により勳三等に陞叙せられ、且つ法政大學理事として同校發展に盡瘁し傍ら東京勳産火災保險、教育銀行、吉林林業、日本建築紙工、東神火災保險各株式會社の重役たり。

夫人千代子は東京府士族平塚光榮君の二女たり、現に東京市京橋區南佐柄木町五番地に住し電話銀座七三〇番たり。

茂木惣兵衛君

横濱貯蓄銀行頭取
茂木合名會社代表社員

君は先代茂木保平君の長男にして、明治二十六年三月を以つて生る。先代保平君は夙に高崎市に於て古着商を營みしが後ち横濱に出でて生糸貿易業を經營し、巨萬の富を蓄積して本邦有數なる實業家として數へらるゝに至る。

君は即ち生れながらにして其の富を恵まれ、裕福なる中に普通教育を卒へて八高に學びしも、たゞ〳〵大正三年嚴父の逝去に際會し、遂に中途にして學を廢し家業を繼ぎて前名貞太郎を改稱す。

然して其の一時七十七銀行頭取を始めとして幾多事業會社に關係し横濱實業界に兩翼を自由に張りしが、現時は横濱貯蓄銀行頭取たる外合名會社茂木商店代表社員として知らる、現に神奈川縣横濱市辨天通り二ノ三〇番地に住す。

森田福市君

廣島縣多額納稅者
廣島縣會副議長

君は廣島縣の人森田善太郎君の長男にして、明治二十三年六月を以つて生る。夙に地方實業界に活躍し前廣島生糸株式會社取締役にして、且つ廣島縣多額納稅者として直稅壹萬七千三百九十余圓を納め當地方財界の一勢力たり、

斯くて財界に羽振りを利かすのみならず、又縣制に參與して其の敏腕を振ひ、現に廣島縣會副議長として知らる。

夫人マツヨ子は廣島縣の人荒川眞造君の長女にして其の間に津滿枝子、多計代

子等あり、現に廣島市西地方一二八番地に住し電話一〇六八番たり。

持田巽君

工學博士
富士瓦斯紡績會社專務取締役

君は福岡縣士族增崎正敬君の三男にして、明治元年六月を以つて生れ同十六年一月持田權六君の養嗣子となる。明治廿九年東京帝國大學工科大學機械科を優秀の成績を以つて卒業するや、直ちに實業界に投じ富士瓦斯紡績株式會社に入社して、同社工務部長兼技師長より累進して現時は同社專務取締役にして、我が財界一方の重鎭たるを失はず。

夫人シゲヲ子は福岡縣の人平井五助君の令姉にして君との間に長男勝郎君、二男慶助君、三男順三君、五男俊作君、六男勇吉君、七男辰彌君及び長女コウ子、二女良子、三女英子等あり、現に東京市芝區高輪南町五三番地に住し、電話高輪三八一番なり。

茂木佐平治君

野田醬油株式會社取締役
千葉縣多額納稅者

君は千葉縣の人先代茂木佐平治君の長男にして、明治二十四年九月を以つて生る。夙に實業界に活躍し現に千葉縣多額納稅者にして直稅二千七百七十余圓を納め、且つ野田醬油株式會社取締役として知らる。

夫人愛子は千葉縣の人茂木房五郎君の長女にして君との間に貢一郎君、永三君及び鎖子等あり、現に千葉縣東葛飾郡野田町に住す。

瀨川秀雄君

文學博士　從四位勳四等
學習院教授

君は舊岩國藩士瀨川盛器君の長男にして、明治六年八月廿七日を以つて生る。明治二十九年東京帝國大學文科大學史學科を卒業し、更に大學院に入りて戰國時代中國史を專攻す。

然して明治三十八年史學研究の爲め歐米諸國に留學し、歸朝するや學習院講師同院教授兼同院圖書館長、陸軍大學講師毛利公爵家三聊傳編纂所長等を歷任し、現時は學習院教授、同教務課長兼中等科長たり。

夫人くか子は男爵井上星三郎君の養叔母君にして君との間に素雄君、俊雄君、光雄君及び治子、文子、敦子、澄子、壽子、淑子等あり、現に東京市四谷區花園町八〇番地に住す。

茂木房五郎君

貿業家
千葉縣多額納稅者

君は千葉縣の人先代茂木房五郎君の長男にして、明治三年七月を以つて生れ後ち家督を相續し前名熊藏を改稱す。

夙に東京商科大學の前身たる東京高等商業學校に學び、後ち實業界に投じ醬油釀造業を營み、現に野田商誘銀行、野田醬油、萬上味淋各株式會社重役として地

方財界に名あり、尙ほ千葉縣多額納稅者にして現時直稅壹千三百四十余圓を納むといふ。

夫人ひで子は千葉縣の人茂木七郎右衞門君の叔母君にして、其の間に三千藏君芳次郎君、七郎君、新七君及びこと子等あり、現に千葉縣東葛飾郡野田町に住し電話三番たり。

森廣三郎君

福井銀行取締役
福井絹糸倉庫會社長

君は福井縣の人森廣三郎君の長男にして、明治三年十一月七日を以つて生れ前名廣輔を改めて襲名す。曾つて福井縣會議員、同參事會員として縣制に參與し、明治三十七年には貴族院議員に互選せられしことあり。

現時は勳四等にして福井縣多額納稅者として令名を謳はれ、前記の諸職にある傍ら越前電氣、福井紡績、北陸電化各株式會社取締役たる外日本水電株式會社監査役として地方財界に名あり。

夫人くみ子との間に廣之君及びくみ子惠美子、英美子等あり、現に福井縣今立郡國高村に住す。

千賀千太郎君

岡崎貯蓄銀行頭取
岡崎商業會議所會頭

君は愛知縣の人千賀傳三郎君の長男にして、明治十五年十一月を以つて生る。夙に實業界に活躍し現に岡崎貯蓄銀行頭取たる外額田銀行、岡崎銀行、岡崎瓦斯天龍電氣、燈洋電氣、三陽農林、靜岡瓦斯、西尾鐵道、岡崎自動車、三河製粉、岡崎紡績各株式會社取締役にして且つ三河セメント、尾三貯蓄、岡崎倉庫、細谷製糸、東洋建築材料、駿陽電氣、東產社各株式會社の監査役として地方財界に令名嘖々たるものあり。

夫人なつ子との間に光吉君、武彌君及び千重子、百合子、三鶴子、十龜子、八與子等あり、岡崎市連尺町に現住す。

本野亨君

工學博士

君は舊佐賀藩士本野盛亨君の四男にして本野精吾君の令兄に當り、子爵本野盛一君の叔父君たり。明治三十五年京都帝國大學理工科大學を卒業し、更に佛國に留學してシュナイデル會社工場及び高等電氣學校に入りて電氣工學を專攻して歸朝し、爾來京都帝國大學理工科大學助教授、同教授等を歷任す。

夫人きよ子は東京府士族坂田春雄君の二女にして其の間に二男一女あり、現に京都市上京區聖護防圓頓美町二一番地に住し電話上三一三三番なり。

森村開作君

男爵　正五位

君は先代男爵市左衞門君の二男にして明治六年十二月を以つて生れ大正八年襲爵す。明治廿五年慶應義塾を卒業し翌廿六年米國に航し同國商業學校に學び在留九ヶ年にして歸朝す。

爾來森村組に在りて父君の業を補佐し其の歿後之を繼承して森村銀行頭取を初め横濱正金銀行、九州水力電氣、富士瓦斯紡績、森村商事、第一生命、明治製糖其他幾多會社の重役及び森村豐明會、東京慈惠會、理化學研究所其他多數公共事業に理事又は幹事として盡瘁す。

夫人をうめ子と呼び子爵井上勝純君の令姉たり、東京市芝區高輪南町三三番地に現住し電話高輪六六七番なり。

森　廣　藏君

臺灣銀行頭取

君は鳥取縣の人森甚十郎君の三男にして、明治六年二月廿四日を以つて生れ同卅七年十二月分家して一家を創立す。

明治卅年東京高等商業學校を卒業するや、直ちに實業界に身を投じ横濱正金銀行に入り本店詰、上海支店詰、牛莊支店詰、倫敦支店詰等を經て神戸支店支配人となり同時に神戸商業會議所特別議員たりしが後ち倫敦支店副支配人に轉任し、大正十二年三月臺灣銀行取締役の地位に就き副頭取たりしが、大正十四年八月同行頭取仰せ付けられ以つて今日に及ぶ、銀行倶樂部、交詢社、如水會、南洋協會日華實業會各會員たり。

夫人みつ子は兵庫縣士族奥田孫一君の長女にして其の間に長男幸雄君及び長女春子、二女節子、三女久子、四女泰子等あり、現に東京市芝區高輪南町四七番地に住し電話高輪一〇三番なり。

本野精吾君

京都高等工藝學校教授

君は舊佐賀藩士本野盛亨君の五男にして子爵本野盛一君の叔父君に當り、明治十五年九月十五日を以つて生れ後ち分れて一家を創立す。明治三十九年東京帝國大學工科大學建築科を卒業し、更に圖案學研究の爲め英佛獨各國に留學し斯學の研鑽を積みて歸朝するや、明治四十一年京都高等工藝學校教授に任ぜられ以つて現在に及ぶ。

夫人花枝子は東京府の人佐々木廣勝君の長女にして君との間に三男ありて長男を享一君、二男を正一君、三男を東一君と稱す、現に京都市上京區東丸太町通廣道東入に住す。

關島卯三郎君

關島商店經營者
明治大學評議員

君は長野縣の人關島武市君の二男にして、明治十二年七月拾五日を以つて同縣下伊那郡下川路村に生る。夙に鄕校を卒ふるや笈を負ふて東上し、切磋琢磨の功空しからず、明治三十六年優秀の成績を以つて明治大學法科を卒業す。

然して實業界に志し日本火災保險株式會社に入りて恪勤すること三ヶ年、後ち東亞火災保險株式會社に轉勤し、更に大倉商事株式會社に轉じ、大正七年七月在職のまゝ中央火災傷害保險の前身たる日本火災傷害保險株式會社營業部長に擧げられ、同年九月大倉商事會社を辭して、專心中央火災傷害保險株式會社の爲め盡瘁するに至れり。

偶々大正十四年十二月獨立の機運愈々熟するや、奮然起つて獨立の旗幟を翻し關島商店を開設して中央、日本、東京、明治等各一流火災保險會社の代理店を特約し、尙ほ傍ら地方顧客の便益に資する目的を以つて代理部を兼營し、今や帝都同業界に於ける有數なる代理店を以つて目せられ、社會の信望月に年に加はり前途益々多望なるものあり。

尙ほ昭和二年四月全國火災保險被保險者を打つて一丸となし、我が國火災保險制度の改善發達に資するは勿論、被保險者相互の研究機關として廣く江湖の賛同の下に茲に大日本火災保險被保險者協會を創立し、君は其の理事として內外の事務を鞅掌する外、母校明治大學々員會評議員として盡瘁すること尠少ならず。

夫人みよ子は新潟縣の人安部吉右衞門君の四女にして新潟縣立產婆學校を卒業し、君との間に秀郎君、和郎君、吉郎君及び綠子等あり、東京府荏原郡世田ヶ谷町大字北澤八〇二番地に現住す。

森　恪君

東京鑛業株式會社代表者

君は大阪府の人森作太郎君の二男にして、明治十六年二月十五日を以つて生る。夙に實業界に身を投じ、曾つては三井物產株式會社天津支店長、中日實業株式會社常務取締役、小田原紡織株式會社取締役等を歷任して我が國實業界に貢獻すること甚大なり。

然して大正九年には衆議院議員に當選して政界に活躍し、現時は東京鑛業株式會社代表社員たる外東洋採炭、東洋電鑛東亞通商、滿洲採炭各株式會社の重役として斯界に聲名あり。

夫人榮枝子は男爵瓜生外吉君の三女にして君との間に新君、卓君等あり、現時は大阪市西區江戸川北通一ノ二九番地に住し電話土佐堀三六〇番なり。

茂木七左衞門君

野田商誘銀行常務取締役

君は千葉縣の人先代茂木七左衞門君の二男にして明治十一年八月を以つて生る。夙に千葉縣下財界に羽振りを利かし、現に野田商誘銀行常務取締役たる外萬上味淋、野田醬油、北總鐵道各株式會社の重役として知られ、且つ千葉縣多額納稅者として直接國稅壹千七百九十余圓を納むといふ。

夫人まき子は埼玉縣の人關口茂一郎君の長女にして君との間に潤一郎君及びりん子、春子、きぬ子等あり、現に千葉縣東葛飾郡野田町に住す。

關　直彦君

衆議院議員　勳三等

君は舊和歌山藩士關平兵衞君の二男にして、安政四年七月を以つて生る。明治十六年東京大學法學部を卒業す。

曩に東京日々新聞記者、麴町區會議長代理、東京市會議員、帝國石油株式會社

長たりしが現時は日本格魯謨株式會社監査役にして、且つ明治二十三年以來衆議院議員に當選すること前後九回に及び、現に其の任にありて我が政界に令名嘖々たり。

夫人はな子は石川善吉君の長女にして君との間に盛雄君あり、現に東京市京橋區木挽町一ノ一五番地に住し電話京橋一一〇番たり。

百井正明君

土木建築請負業
百井組頭取

帝都復興建築界に活躍して灼々たる名聲を博し、今や斯界に其の雌雄を競ふて漸次堅實なる地歩を獲得し、社會の信望月に年に増大する我が百井組代表者百井五三郎正明君は、明治十三年一月十日を以つて函館市に生る。

夙に鄉里の中學校を卒ふるや直ちに實業界に投じ、明治四十一年青雲の志を抱いて單身上京して東都建築界に投じ、大正元年當時斯界の重鎮を以つて目せられし雨宮長次郎氏の配下に入りて、專心斯業研究の傍ら自ら業務擔當責任者として活躍大いに努め、其の間三越呉服店本館東京銀行集會所、東京海上ビルディング等の大建築工事に從事して何れも完璧を期して賞讃を博し、同組の發展に盡瘁すること甚大なりき。

然るに怨むべし、大正五年四月雨宮長次郎氏不幸病を得て他界せしかば、君其の遺族及配下一同の懇請を入れて業務を繼承して獨立開業し、爾來益々奮鬪以つて今日に及べるものにして、此の間請負工事數枚擧に遑あらざるも就中其の主なるものは宮中賢所御前コンクリート堀、淀橋專賣局修築工事、代々木停車場改築工事、霞ヶ關海軍省構内無線電信塔、濱松市三方ヶ原飛行七聯隊飛行機格納庫等諸官衙の大建築工事を始めとして、三菱假本社、三菱銀行部、朝鮮銀行本館、東京會館、三越呉服店西南各館、同落合染色工場、同目白製線工場、日本工業倶樂部、横濱正金銀行東京支店、國技館、上野國產奬勵會館、丸ノ内ホテル、東京株式取引所等の都下著名なる鐵筋コンクリート新築工事及び横濱正金銀行、日本銀行、千代田館、淺野セメント、東洋印刷東亞製粉、帝國劇場、第一銀行、森村銀行等の各復舊修理工事は勿論土方伯爵邸岡部邸、大島邸等諸名家の建築請負に至るまで何れも完璧を期し、君が責任ある請負と優秀なる技術とは愈々社會の信望を擔ひ、今や帝都はおろか遠く各地方にまで其の勢力を波及し、我が百井組の名聲東西に嘖々たり。

復興の帝都は多事にして多端、君の力に俟つべきもの蓋し多からん、宜しく自重自愛以つて其の大成を期して可なりである。因に君は深く日蓮宗に歸依し常に御聖訓を以つて其の事業的精神の骨子となし、更に「一心欲見佛、不自惜身命」を君の生命省察の玉條として修養これ怠らず、又正武議國會道場を開設しては精神鍛練の機關となし、尙ほ大日本武德會特別會員たり、以つて君の人と爲りを知るべく、今日東都土木建築界にありて錚々の名ある故なきにあらざるべし。

現に事務所を神田區三河町に有し、府下池上町德持四四六番地に現住す。

森田繁男君

利根運河株式會社專務取締役
唐津炭礦株式會社取締役

君は群馬縣士族高畠平作君の二男にして、明治元年八月を以つて生れ先代信四郎君の養嗣子となる。夙に實業界に投じ現に利根運河株式會社專務取締役たる外唐津炭礦株式會社取締役にして又曾つて縣會議員として縣制に參與せり。

夫人まき子は群馬縣の人森田文字君の長女にして君との間に二女ありてサダ子等なり、千葉縣東葛飾郡新川に現住す。

森平兵衛君

實業家

君は大阪府の人松井小兵衛君の二男にして明治七年二月を以つて生れ、先代平兵衛君の養子となり前名小二郎を改稱す現に大阪商業會議所議員にして且つ東亞藥業株式會社取締役たる外東印度貿易株式會社監査役たり。

夫人檜榮子は大阪府の人田畑利兵衛君の四女にして其の間に一郎君及び朝子あり、現に大阪市南區心齋筋二ノ一三番地に住し電話南九〇一番なり。

森田三郎君

辯護士　特許辯理士
實業家

君は滋賀縣の人森田利兵衛君の長男にして、慶應三年十月を以つて生る。明治二十九年東京帝國大學法科大學を卒業するや官界に職を奉ず。

爾來京都區裁判所檢事等の要職にありしが後ち官を辭して辯護士を開業し、現に其の職にある傍ら大阪ホテル、京都信託各株式會社の專務取締役たる外京都第一倉庫、大阪工業藥品、大阪ビルディング、名古屋信託、東亞興業、東洋塗料各株式會社重役として知らる。

夫人さい子は京都府の人甲和龜次郎君の長女にして君との間に二男二女あり、現に京都市上京區柳號場通御池南入に住し電話上一二三〇番たり。

瀨川昌世君

醫學博士
瀨川小兒科病院長

君は故醫學博士瀨川昌耆君の長男にして、明治十七年十一月二十三日を以つて生る。明治四十三年東京帝國大學醫科大學を卒業するや、更に獨逸に留學して斯學の研鑽を積むこと數年、其の造詣を深くして歸朝す。

然して專心小兒科の研究に盡瘁し、今や我が國醫學界に小兒科の權威として令名高く、現時瀨川小兒科病院長として知られ、且つ内務省保健衞生調査會委員たり、曩に醫學博士の學位を授與せらる。

夫人喜子は男爵古市公威君の長女にし

て、東京女子高等師範學校附屬高等女學校の卒業たり、東京市本郷區弓町二丁目三十四番地に現住し電話小石川一二六一番なり。

盛田喜平治君

七戸水電株式會社長
青森縣多額納稅者

君は青森縣の人盛田喜平治君の長男にして、慶應元年八月を以つて生る。夙に實業界に投じ、現に七戸水電株式會社々長にして、且つ青森縣多額納稅者として直稅壹萬三千三百七十余圓を納め當地方に於ける勢力家の如し。

夫人との間に富太郎君及びさと子、かつ子、きよ子等あり、現に青森縣上北郡七戸に住す。

諸井四郎君

西武鐵道會社常務取締役

勳四等實業家諸井四郎君は埼玉縣の人諸井泉衛君の四男にして、明治二年一月を以つて生れ、後ち分家して一家を創立す。明治三十三年東京帝國大學法科大學卒業するや直ちに實業界に投じ佛法科を卒業するや直ちに實業界に投じ京釜鐵道會社會計課長、澁澤倉庫支配人日本煉瓦製造會社取締役等を歷任し、日露事件の功に依り勳六等に叙し瑞寶章を授けらる。

明治三十八年より東亞製粉株式會社々長たりしが大正十一年六月同社を辭し、現時は西武鐵道株式會社常務取締役として內外の事務を鞅掌する傍ら、東京毛織株式會社並に秩父鐵道株式會社取締役として知らる。

夫人をせき子と呼び東京府の人柿沼谷藏君の令妹たり、現に東京市本郷區湯島新花町九四番地に住し電話小石川二二七九番なり。

守田勘彌君

俳優

君は本名を守田好作と呼び十二代目勘彌の三男にして、明治十八年十月十八日を以つて生る。夙に劇界に志し、僅かに六歳の頃新富座に於て「樋口逆櫓の遠見の船頭」の初舞臺より早くも其の才幹を發揮し、明治二十二年先代を襲名して勘彌と改め同時に市村座出勤となる。

大正七年十二月市村座を退きて文藝座を組織し菊池寛氏の作「忠直卿行狀記」を上演して新劇俳優としての技倆を世に問ひ、更に同八年四月帝劇專屬となり新劇を上演し、時に市川猿之助君の春秋座に加盟して劇界の衰頽振興に努力し、俳優の先覺者として將來を囑望せられ「忠直卿行狀記」「愚譬の彼方」「俊寛」「幽靈」「その妹」「生きてゐる小平次」等は君の最も得意なりしものにして今や守田勘彌の名我が劇壇に嘖々たり。

俳句を能くしさつきの栽培に妙なりといふ、夫人を君子と呼び內助の譽れ高し現に東京市下谷區上根岸町一一九番地に住し電話下谷三二〇九番なり。

森淑君

西驛銀行常務取締役

君は靜岡縣の人森定四郎君の長男にして、明治五年三月を以つて生る。現に西驛銀行常務取締役たる外、島田銀行取締役にして且つ島田軌道株式會社監査役として知らる。

夫人津奈子は靜岡縣の人氣賀半十郎君の長女にして其の間に四男六女あり、現に靜岡縣志田郡島田村に住す。

森政美君

合資會社ラヂオ商會社長

奮鬪今や着々として我が財界に雄飛しつゝあるラヂオ商會代表社員森政美君は東京府の人森善平君の長男にして、明治十六年四月十一日を以つて生る。

夙に香川縣立中學校を卒業するや青雲の志を抱いて東上し、研鑽以つて中央大學を卒業し、直ちに身を實業界に投じ、明治四十四年十二月より銀座菊屋町に貿易商を開設し、後ち大正十三年六月井上電話店を開き、電話賣買仲立業に從事する傍ら合資會社ラヂオ商會代表社員として活躍するに至る、尙ほ東京無線電話機商組合員にして曩に東京電話營業組合幹事たりしことあり。

夫人梅子は東京府の人島等平八君の長女にして貞淑の譽れ高し、現に東京市日本橋區本石町一ノ一一番地に住し電話大手一〇〇五番一八八〇番なり。

關重兵衛君

群馬縣多額納稅者
伊勢崎銀行取締役

君は群馬縣の人鈴木重太郎君の三男にして、慶應三年九月を以つて生れ後ち先代重兵衛君の養嗣子となる。夙に實業界に身を投じ現に伊勢崎銀行、上毛撚糸各株式會社取締役にして、且つ群馬縣多額納稅者として直稅三千九百八十余圓を納むといふ。

夫人しげ子は群馬縣の人須藤儀左衛門君の三女にして君との間に定平君、信夫君及びふみ子等あり、現に群馬縣佐波郡伊勢崎に住す。

持永善市君

都城銀行取締役

君は宮崎縣の人持永善吉君の長男にして、明治九年十月を以つて生る。現に都城銀行取締役たる外宮崎農工銀行監査役にして且つ眞幸電氣、北諸縣郡是製糸各株式會社取締役たり。

夫人スエ子は同縣の人南崎十兵衛君の二女たり、現に宮崎縣北諸縣郡加島村に住す。

森田佐吉君

實家業
大阪米穀取引所取引員

君は森田源次郎君の長男にして、明治元年九月を以つて播磨國に生る。當家は代々米穀商を營みしが君の幼時に於て、嚴父源次郎君公債株式の賣買業を初めて見事失敗し、家產の全部を失ひしかば忽

ち家計に窮するに至りぬ。

然して君年齒僅かに二十五歳にして、斷然起つて北海道に到り、干鰯商に從事すること二年、尋いで古金銀賣買業を營み更に轉じて、繭仲買人となりしもこれ又失敗に終り、更に醬油釀造業を營みて再び失敗する等種々の逆境不遇を經て、明治四十二年大阪堂島米穀取引所の仲買人となり、爾來拮据經營せしかば幸運廻り合ひて遂に今日の隆盛を來たすに到れり、現に大阪市北區堂島濱通に住す。

諸戸北郎君

東京帝國大學教授

君は三重縣の人諸戸清三君の長男にして、明治六年九月一日を以つて生れ先代清吉君の養嗣子となる。明治三十一年東京帝國大學農科大學林學科を卒業し、更に大學院に入り學業成るや林業研究の爲め獨墺洪各國に留學す。

然して歸朝後は專ら教育事業に盡瘁し曩に東京帝國大學農科大學助教授にして又清韓兩國に差遣せられ、現に東京帝國大學教授として令名あり。

夫人らせ子との間に元一君及び敏子等あり、東京市赤坂區青山南町五ノ四五番地に住す。

森田國太郎君

土木建築左官工事請負業
東京左官工業組合工友會長

君は東京府の人にして明治三年五月を以つて生る。當家は代々商業を以つて業となし、東都に於ける有數なる老舗たりしが、君の時代より土木建築界に志を立てゝ斯界に活躍し、明治三十年獨力以つて左官工事其他一般土木建築の請負を開始し、爾來幾多の波瀾曲折は免れざりしと雖も、業運慨して順調を辿り以つて今日に及べるものなり。

然して其の永き年月の奮鬪によりて得たる君が尊き經驗と修練とは、漸次技術の上に遺憾なく發揮せられ、その優秀なる技術と堅實なる施工振りとはやがて社會の信望を博し、今や東都同業界の元老として重きをなし、傍ら東京左官工業組合工友會々長として盡力することと蓋し甚大なり。

君や資性豪放、毫も些々たる小事に拘泥せず、又極めて義俠に富み、後輩を誘掖する懇切にして、其の敬虔なる德は世人の最も敬慕するところ、君の今日ある又故なきにあらざるべし。

現に東京市神田區紺屋町十一番地に住す。

森下龜太郎君

辯護士　辨理士

君は岡山縣士族森下良諒君の三男にして明治二年十一月を以つて生る。明治二十七年明治法律學校を卒業し、曩に衆議院議員たりし外大阪市會議員たりしが、現時は辯護士及び辨理士として大阪法曹界に令名あり。

夫人奈良兎子は大阪府の人杉野興宗君の二女にして其の間に五男五女あり、現に大阪市東區今橋通五ノ八番地に住し電話本局一二四三番なり。

森岡保喜君

東京市下谷區長

君は原籍を大阪府に有し、明治八年十二月を以つて高知縣土佐郡小高坂村に生る。夙に鄕校を卒ふるや青雲の志を抱いて東上し、中央大學の前身たる東京法學院大學に學び、研鑽琢磨螢雪の功空しからず、明治三十三年十月優秀の成績を以つて同學を卒業す。

然して後ち職を官界に奉じ、明治四十年六月兵庫縣警部に任じ、翌年八月文官普通試驗に首尾よく登第し、同四十三年六月警視廳警部に榮轉し、翌年六月東京市淺草區象潟警察署長に任ぜられ、爾來同區の爲め貢献すること甚大なりき。

斯くて大正二年九月辭して日本橋區役所に入り同書記として恪勤すること一昔年、大正十二年同區主事に陞進し、更に大正十五年十二月拔擢せられて、東京市下谷區長の椅子を贏ち得て以つて現在に及ぶ、復興途上にある帝都は多事にして多端、天禀豐かなる君の才量を發揮して同區の爲め盡瘁する又疑ひなかるべし、現に東京市麻布區廣尾町七十九番地に住す。

茂木鋼之君

東京サルヴエージ會社會長

勳五等茂木鋼之君は靜岡縣士族茂木茂君の長男にして、安政五年六月を以つて生る。夙に海事に志し、明治五年攻玉堂近藤塾に入りて航海術及び數學を修得し同十年三菱會社に入り、同十八年同社が共同運輸株式會社と合併して日本郵船株式會社の成立を見るや、君入りて同社所有船の船長となり、各地を航して功績甚大なりき。

偶々日清戰役勃發するや君は陸軍運輸送船々長及び海軍病院船神戸丸船長として國家の爲め功を立て勳六等に叙し旭日章を授けられ同三十年八月監督助役に轉勳し、日露の役には佐世保及び海軍根據地に出張して會社の御用船事務を監督し功に依り勳五等に叙し同三十九年監督に進み次いで航海課長となり、現に東京サルヴエージ株式會社取締役會長たり、曾つて大藏省臨時建築部顧問を囑託し又內務省港灣調査會委員に擧げらる。

夫人まさ子は東京府士族小林彌三郎君の令妹にして君との間に省一君あり、東京市小石川區原町一三番地に現住す。

關谷守男君

關谷合資會社代表社員
東三商事株式會社取締役

君は愛知縣の人關谷泰君の長男にして明治十五年十月を以つて生る。夙に地方財界に活躍し、現に前記の要職にある外北設藥銀行、新城病院、三州絹紡、三河木材各株式會社取締役として知らる。

尙ほ愛知縣多額納稅者にして現時直接國稅二千四百九十余圓を納むるを以つて

地方實業界に名あり。

夫人きみ子は愛知縣の人中村正次君の長女にして君との間に一郎君、晃君、城三君及びゑみ子、千枝子等あり、現に愛知縣北設樂郡田口町に住す。

關本英作君

常盤生命保險會社專務取締役

君は山梨縣の人關本勘左衛門君の令弟にして、明治五年八月を以つて生れ同十二年十月絶家關本家を再興す。

明治二十九年東京帝國大國工科大學機械工學科を卒業するや、直ちに實業界に投じ三重紡績株式會社に入社して同社技師に任じ、爾來同社の發展に盡瘁すること甚大、累進して同社取締役に擧げられ後ち東洋繊布株式會社專務取締役として內外の社務を鞅掌し、其の貢献すること尠少ならざりき。

然して感ずるところありて斷然職を辭して歐米視察の途に上り、彼の地の經濟狀況を具さに研究して歸朝し、後ち常盤生命保險株式會社の創立に參畫して其の設立を見るや推されて同社專務取締役に就任し、以つて現在に及べるものにして傍ら日本觀光、大正鑛山各株式會社取締役及び愛知銀行協議役たり。

夫人とく子は山梨縣の人志村源太郎君の養妹にして其の間に健男君、健二君及び八重子等あり、東京市牛込區南榎町五四番地に現住し電話牛込五四三番たり。

森俊六郎君

正四位勳三等
山東鑛業株式會社監査役

君は福島縣の人森惣左衛門君の五男にして、明治十年三月六日を以つて生る。明治三十五年東京帝國大學法科大學政治科を卒業するや、直ちに官界に投じ大藏省に職を奉じ、翌年書記官に任ぜられ爾來大藏大臣秘書官、同省參事官、同書記官兼參事官、銀行局長、理財局長等を歷任せり。

然して後ち官界を辭して臺灣銀行に入り、同行副頭取仰せ付けられしが、後ち南滿州鐵道株式會社理事に任じ、現に其の職にある傍ら山東鑛業株式會社監査役たり、謠曲に堪能にして社交に厚く日本倶樂部、鐵道協會各會員たり。

夫人朝子は子爵大久保忠春君の令姉にして女子學習院を卒業し君との間に倭子文子等あり、現に東京市牛込區若松町七五番地に住し電話牛込五五七番たり。

元田傳君

東京高等師範學校教授

君は東京府の人元田直君の長男にして同肇君の養弟に當り、慶應三年六月を以つて生る。明治二十三年東京帝國大學理科大學を卒業し、尙ほ進んで大學院に學び、更に明治三十四年數學研究の爲め英國及び獨逸に留學し、造詣を深くして歸朝す。

然して歸朝後は專心敎育界に盡瘁し曩に海軍大學敎授たりしが現時は從五位勳四等勅任待遇にして、東京高等師範學校敎授たり。

夫人を楓子と呼び京都府士族李家隆介君の令妹にして君との間に太郎君、大助君及び福子、愛子、慶子等あり、現に東京市小石川區大塚仲町二六番地ノ第八號に住す。

關矢孫一君

小田銀行取締役會長
衆議院議員

父祖三代連綿たる政治家として有名であり、更に父祖傳來の資産二百餘萬圓を擁する素封家として、名にしあふ青年政治家關矢孫一君は、故衆議院議員關矢橘太郎君の二男にして、明治二十五年二月十五日を以つて生る。

夙に小千谷中學校を經て慶應義塾に入りしも、嚴父早逝の爲め中途にして學業を廢し、爾來郷里にありて廣瀨村會議員北魚沼郡聯合青年團長等に推され、續いで大正十三年新潟縣郡部より立候補を宣し木村、樋口の兩醫學博士を向ふに廻して奮戰し、遂いに當選の榮冠を克ち得て中央政界に乘り出し憲政會に屬す。

今や其の雄辯と機略縱橫とは父祖を辱めざる前途多望の政治家と目せられ、尙ほ前記諸職の外堀田銀行、北越殖民各株式會社の重役にして且つ新潟縣多額納稅者として、現時直接國稅四千八百五十余圓を納む、文學、劇、音樂等に趣味を有すといふ。

夫人由美子は新潟縣の人佐藤佐平治君の六女にして內助の聞へ高し、現に東京府豐多摩郡下澁谷三〇番地に住し電話青山六〇八一番なり。

森伊三次君

實業家

君は長崎縣士族森伊三次君の長男にして、明治二年十月を以つて生る。現に長崎具釦、久保鐵工所各株式會社取締役にして且つ日本タルク製造株式會社監査役たり。

夫人をミサ子と呼び其の間に吉郎君及びノブ子、フミ子等あり、現に長崎縣長崎市館內町に住す。

森田三郎右衛門君

醬油醸造業及船荷卸商

君は福井縣の人森田三郎右衛門君の長男にして、明治十二年十二月を以つて生る。現に福井縣多額納稅者にして森田銀行及び森田貯蓄銀行の各頭取たる外森田銀行倉庫運送部の社長たり。

夫人かず子は同縣の人横山吉十郎君の養女にして其の間に四男五女あり、現に福井縣坂井郡三國町に住す。

森正則君

小樽商業會議所議員
大正證券株式會社取締役

君は愛媛縣士族岡本正金君の養子にして、明治五年四月を以つて生る。現に小樽商業會議所議員にして、且つ大正證券株式會社取締役たる外早川商店と稱して文房具商を營み地方財界の重鎭たり。

夫人タケ子は養父久通君の二女にして其の間に久則君、龍夫君、通則君及びタミ子等あり、現に北海道小樽市色内町七丁目に住す。

關口兒玉之輔君

東洋紙工印刷會社常務取締役
大島拓殖電氣會社長

君は埼玉縣の人關口直溫君の二男にして、明治十一年七月三十一日を以つて生れ、大正四年絶家關口家を再興す、明治三十六年專修大學理財科及日本大學法律科を卒業するや、直ちに實業界に入り大日本人造肥料株式會社に入社し、在勤十三年大いに敏腕を振ひぬ。

然して大正八年十一月大正紙器株式會社に轉じて其の支配人となり、後ち東洋紙工印刷株式會社取締役支配人となり、尋いで同社常務取締役に擧げられ、現に其の任にある外大島拓殖電氣株式會社取締役社長として知らる。

趣味として美術工藝品あり特に虎に關するものを愛好すといふ。

夫人ます子は東京府の人桑山龍之助君の二女にして其の間に長男直久君、二男進兒君、三男博之君、四男武之輔君及び長女達子等あり、現に東京市本郷區駒込蓬來町七番地に住し電話小石川五九〇五番なり。

瀨下清君

三菱銀行常務取締役
日佛銀行取締役

本邦銀行界の重鎭瀨下清君は長野縣の人瀨下七兵衞君の三男にして、明治七年九月十八日を以つて生れ後ち先代起十君の養嗣子となる。

明治三十六年東京高等商業學校附屬主計學校を卒業するや實業界に志し、三菱合資會社に入社し、漸次昇進して同社銀行部支配人より常務取締役に擧げられ、現に其の要職にある傍ら日佛銀行、三菱海上火災保險各株式會社の重役として知らる。

曾つて銀行事務研究の爲め歐米に留學せしことあり。讀書に趣味を有し銀行倶樂部、交詢社等の各會員たり。

夫人千勢子は東京府士族笹田敬修君の長女にして其の間に良夫君及び達子、克子、悅子、春子、和子等あり、現に東京市芝區車町七六番地に住し電話高輪一三一二番なり。

關根要八君

日本鐵工株式會社會長
東洋汽船株式會社取締役

君は福島縣の人關根直藏君の五男にして、明治六年五月三十日を以つて生る。明治二十六年青山學院を卒業するや、更に露國陸軍大佐イワノサ及び文學士莊司鐘五郎君等に就いて露語を研究す。

然して研鑽を積むや實業界に投じ、淺野商店廻送部に入り汽船事務長となり沿岸航路に從事せしが、明治二十八年貨物監督となり露領浦塩及び樺太に航し、明治二十九年東洋汽船株式會社に轉動し、同社調度課長、文書課長等を歷任し、大正八年同社專務取締役に擧げられ其の經營に盡瘁せしが、後ち同社を辭し現に前記の諸職にある外帝國ホテル常任監査役として知らる。

夫人惠美子は東京府士族溯田建二郎君の二女にして青山女學院を卒業し君との間に直矢君、健兒君及び八千代子、芳枝子、靜子、巳代子、和子等あり、現に東京府荏原郡上大崎二五四番地に住し電話高輪一六二六番たり。

森田富次郎君

浮羽銀行頭取

君は福岡縣の人森田益藏君の長男にして、明治三年十二月を以つて生る。現に浮羽銀行の頭取たる外田主丸銀行及び田主丸貯蓄銀行、兩筑軌道各株式會社の取締役たり。

夫人をマサ子と稱し同縣の人有吉金右衞門君の長女にして其の間に千君、工君阜君及び陸子、ハマ子、イコ子等あり、現に福岡縣田主丸町に住す。

森環君

大分縣農工銀行監査役

君は大分縣の人森鶴吉君の長男にして明治九年六月を以つて生る。現に勳四等にして大分縣農工銀行監査役たる外鶴崎木材株式會社取締役たり、又大正四年衆議院議員に當選せしことあり。

夫人をコスエ子と呼び大分縣の人首藤玄甫君の二女にして君との間に三男一女あり大分縣大野郡上井田村に現住す。

瀨島猪之丞君

東京揮發油株式會社長
千代田石油株式會社長

君は鹿兒島縣の人瀨島熊助君の長男にして、明治三年二月一日を以つて生る。夙に實業界に志し明治二十六年東京商科大學の前身たる東京高等商業學校を卒業するや、直ちに日本石油株式會社に入社し、漸次累進して同社營業課長たりき。

大正三年同社を辭して旭石油株式會社の前身たる瀨島製油所を創立し、後ち同所を旭石油株式會社と改稱して自ら其の社長に任じ、多年の蘊蓄を傾注して社運大いに擧りしかば更に東京揮發油株式會社を創立して社長となり、大正十三年二月千代田石油株式會社を創立して其の社長に就任し以つて現在に及ぶ。

趣味として園藝あり、相州湯河原の所有地内の溫泉磨湯を利用して溫室を作り四季百花を以つて滿たさるゝと云ふ、現に東京市牛込區納戸町三七番地に住し電話牛込一四九一番なり。

關戸守彥君

日本貯蓄銀行頭取
愛知縣多額納稅者

當家は代々名古屋に住し、各藩士の御用金方を勤め、同地三人衆の一に數へられし舊家にして、君は先代二郎君の長男に當り、明治二年八月を以つて生る。

夙に地方金融界に活躍し獨力以つて關

戸銀行を創立し、後ち同行が愛知銀行と合併せらるゝや君推されて同行重役に擧げられ、現に其の職にある外前記銀行頭取にして、且つ千歳殖産株式會社取締役として地方財界に重きをなす。

尙ほ愛知縣多額納稅者にして現時直接國稅五千百余圓を納むるを以つて知らる趣味として書畫、骨董を愛好し其の鑑識力非凡なりといふ。

夫人隆子は兵庫縣の人小西茂十郎君の三女にして君との間に有彦君、明君、高君及び萩子、苗子、和子、淳子等あり、現に名古屋市西町堀詰十七番地に住し電話西一〇〇七番たり。

本川藤三郎君

氷見銀行頭取
氷見電氣株式會社取締役

君は富山縣の人吉田善七郎君の二男にして、明治十年八月を以つて生れ、後ち先代藤三郎君の養嗣子となり前名友次郎を改稱す。

夙に地方財界に投じ現に前記の外富山合同貯蓄銀行、丸一本材各株式會社取締役にして、尙ほ富山縣多額納稅者として直稅壹千六百六十余圓を納むといふ。

夫人との間に藤一郎君、藤成君、及びみよ子、てる子等あり、現に富山縣氷見郡氷見に住す。

瀨木博尙君

株式會社内外通信社長
信越木材株式會社取締役

君は東京府士族瀨木博重君の長男にして、嘉永五年十月を以つて生る。夙に實業界に投じ後ち株式會社内外通信社を創立して同社長に就任し、内外新聞通信事業に貢献すること甚大、且つ株式會社博報堂を興して廣告通信業を營み、我が國斯界の元祖として知らる。

尙ほ前記の諸職にある傍ら日本化工、富士木材各株式會社の重役にして且つ前記博報堂主たり。

曩に我が國新聞通信及び雜誌等の歷史的發達を永く後世に遺し、斯業の發展に資せんことを志し、吉野作造博士等と相謀り同資料保存の爲め東京帝國大學構内に資料保存館を建設すべく、多額の寄附をなす等君が我が通信事業に貢献すること蓋し甚大なりと云ふべし。

夫人とめ子は千葉縣の人武田常吉君の叔母君にして君との間に博吉君、博俊君、博信君、博政君、博克君及び靜子、純代子、美佐子等あり、現に東京市牛込區河田町九番地に住し電話牛込一一二〇番なり。

×

諸戸清六君

諸戸殖産株式會社長
内外倉庫運輸株式會社取締役

君は三重縣の人諸戸清六君の四男にして明治十七年七月五日を以つて生れ、前名清吾を改めて襲名し其の家嘗を相續す。嚴父清六君は米穀仲買業を營み、後ち諸戸殖産合名會社を創立して專ら土地開墾及び殖産林業等に從事し、明治二十年には海防費として金二萬圓を獻納し從六位に叙せらる。

君即ち祖業を繼承し曩には東海生命保險株式會社取締役に擧げられ、現に諸戸殖産合名會社長たる外福島木材、内外倉庫運輸各株式會社取締役として知らる。

夫人てる子との間に民一君、鐵男君等あり、現に東京市麴町區元園町及び三重縣桑名郡桑名町に住す。

×

守安瀧次郎君

秋田木工株式會社常務取締役
株式會社日米商店取締役

君は東京府の人守安瀧三郎君の長男にして、明治二十年七月を以つて生る。明治四十年東京商科大學の前身たる東京高等商業學校を卒業するや、直ちに實業界に投じ横濱正金銀行に入りて同行本店、安東縣出張所、大連支店等を歷勤す。

然して後ち同行を辭して歐米に歷遊し彼の地の經濟狀況を視察見學して歸朝し現に秋田木工株式會社常務取締役たる外株式會社日米商店取締役たり。

夫人喜美子は和歌山縣の人明渡知瑜太郎君の長女にして君との間に祥太郎君及び照子等あり、現に東京市牛込區市ヶ谷加賀町二ノ十六番地に住し電話牛込七三四番たり。

守田保太郎君

ラヂウム製藥株式會社專務取締役

君は東京府の人先代重次郎君の長男にして、明治十五年三月を以つて生る。

現にラヂウム製藥株式會社專務取締役たり。夫人をハル子と稱し東京府の人森島萬造君の三女なり、現に東京市外入新井新井宿一四五九番地に住し電話大森六四〇番たり。

望月利八郎君

廣島縣多額納稅者

君は廣島縣の人望月利八郎君の長男にして、明治三年三月を以つて生る。夙に廣島地方財界に投じ、てんぐ本店と稱して當地方有數の小間物問屋として知られ尙ほ廣島縣多額納稅者として直稅壹千六百六十余圓を納むといふ。

夫人の間に庄太郎君及び富美子、縫子等あり、現に廣島市中島本七三番地に住し電話三六一番なり。

森永善吉君

森永製菓會社取締役總務部長

君は小林平左衛門君の三男にして、明治十九年十月を以つて生れ大正五年森永太一郎君の養嗣子となる。夙に米國に航し彼の地の實業界に活躍して實地の研鑽を積むこと三年有半、大いに造詣を深くして歸朝す。

然して歸朝するや直ちに森永製菓株式會社に入社して同社販賣部長、仕入部長營業部長、外國販賣部長等を歷任し累進して現に同社取締役兼總務部長として内外に重きをなし、傍ら森永製品販賣株式會社の重役として知らる。謠曲は君の最も得意とするところ、其の餘韻や錚々と

して頗　珍妙なり……とか。

夫人マサ子は養父太一郎君の長女にして東京高等女學校の卒業たり、現に東京府荏原郡北品川宿七二七番地に住す。

森山茂君

大洋速進機製作所代表社員
垣根商店支配人

君は岡山縣の人森山代乃君の長男にして、明治十九年一月二十九日を以つて生る。夙に鄉校を卒ふるや笈を負ふて東上し、研鑽琢磨、螢雪の功空しからず早稻田大學法科を卒業す。

然して直ちに實業界に投じ、明治四十四年以來垣根商店に恪勤精勵、同店發展に盡瘁すること甚大にして、現に其の支配人として內外の事務を鞅掌する傍ら、合名會社大洋速進機製作所代表社員として知らる。

夫人操子は東京府士族村田重治君の三女にして愛知縣立高等女學校の卒業なり現に東京府北豐島郡高田町巢野三五五一番地に住し電話牛込七八二番たり。

關口伊太郎君

大阪府多額納稅者

君は大阪府の人關口金次郎君の三男にして、明治九年十一月十八日を以つて生る。現に大阪府多額納稅者として直接國稅五千二百九十余圓を納め、即ち多額納稅者の故を以つて名士として聡かしからざる人物なり。

夫人ソノ子は大阪府の人森川岩吉君の二女にして君との間に伊三郎君、信二君及びハナ子、フヂ子、絹子、愛子、尙子等あり、現に大阪市浪花町南坂一五四ノ一番地に住し電話南一三六二番たり。

森六郎君

株式會社森商店社長
德島縣多額納稅者

君は德島縣の人森六郎君の長男にして明治五年二月を以つて生れ、後ち家督相續と共に襲名して前名英太郎を改稱す。

夙に地方實業界に活躍して地方產業發展に貢獻すること甚大、現に株式會社森商店取締役社長たる外日本製飴、德島製函、重要物產各株式會社の重役にして、且つ德島縣多額納稅者として當地方財界の重鎭たり。

夫人ケイ子は德島縣の人小泉泰五郎君の令妹にして君との間に三女ありて純子トク子、ムメ子等なり、現に德島市通りに住す。

×

森榮藏君

吉野製糸株式會社取締役
奈良縣多額納稅者

君は奈良縣の人先代清七君の長男にして、明治六年十月を以つて生る。夙に地方實業界に身を投じ、現に吉野製糸、大和鐵道各株式會社の重役として知られ、且つ奈良縣多額納稅者として直稅二千五百八十餘圓を納むといふ。

夫人トヨ子は奈良縣の人仲川宗次郎君の四女にして君との間に一男一女ありて榮君及びキクノ子と稱す、現に奈良縣吉野町大淀村に住す。

森岡常藏君

東京高等師範學校教授

君は福井縣の人赤倉黃藏君の長男にして、明治四年三月十八日を以つて生る。明治三十年東京高等師範學校を卒業し、更に小學校教授法研究の爲め獨逸に留學し其の薀蓄を積みて歸朝するや、東京高等師範學校教授、文部省視學官兼文部省編修官、文部省圖書事務官兼文部省圖書官等を歷任し以つて現在に及ぶ。

夫人長子は和歌山縣の士族島村八百輔君の長女にして、君との間に四男三女あり、現に東京市小石川區小日向臺町一ノ六六番地に住す。

千家尊統君

男爵
出雲大社宮司

當家は天照大神の第二の御子天穗日命の後裔にして十七世の孫宮向出雲國造の職を賜はり、爾來六十四世代々出雲大社大宮司として先々代尊澄に至る。先代尊福君其の後を享け大敎正に補し、明治十七年特旨を以つて男爵を授けられ、元老院議官、文部省普通學務局長、埼玉、靜岡各縣知事、東京府知事、司法大臣等を歷任し又貴族院議員たりしことあり。

君は千家尊紀君の長男にして明治十八年六月を以つて生れ、後ち養嗣子となり大正七年襲爵仰せ付けられ、現に出雲大社宮司たり。

夫人一子は養父尊福君の五女にして君との間に國麿君。遂彥君及び富佐子、致子等あり、現に鳥取縣錦川郡杵築村に住す。

×

森岡寅四郎君

太興商事株式會社專務取締役

君は滋賀縣の人森岡伍兵衛君の四男にして、明治二十三年一月を以つて生れ、後ち先代忠七君の養嗣子となる。夙に實業界に身を投じ、現に太興商事株式會社專務取締役として知らる。

夫人みね子は東京府の人青柳長太郎君の令妹にして君との間に三女ありて麗子俊江子、公子と稱す、現に東京市牛込區東五軒町三五番地に住す。

森榮七君

愛知縣多額納稅者
桔梗屋商會主

君は愛知縣の人森榮七君の二男にして明治十五年八月を以つて生れ、前名清三郎を改稱す。

當家は當地方有數の資產家として知られ桔梗屋と稱し、呉服太物商を營み尙ほ愛知縣多額納稅者として直稅二千九十余圓を納むといふ。

夫人きみ子は愛知縣の人東松松兵衛君の令妹にして君との間に清太郎君、英次君及び千代子等あり、現に名古屋市西玉屋町三番地に住し電話本局一九二二番たり。

籾山半三郎君

籾山商店取締役社長

君は東京府の人先代籾山半三郎君の長男にして、明治二十年八月を以つて生れ後ち家督を相續して前名竹藏を改稱す。

夙に海産物商を營み東都有數の老舗として知られ、現に籾山商店株式會社取締役社長として名あり。

夫人ミツ子は東京府の人津田信太郎君の令妹にして其の間に啓一郎君及び俊子等あり、現に東京市麹町區永田町二ノ一番地に住し電話青山四六七〇番たり。

清古平吉君

千葉電燈株式會社取締役
辯護士　辯理士

當家は千葉縣に於ける舊家にして、君はその昔寒川の名主役を勤めたる清古善左衛門君の二男にして明治元年二月を以つて生る。明治二十四年東京法學院を卒業し、後ち辯護士登用試驗に應じて首尾よく登第し、而して鄕里千葉市に辯護士を開業して一般訴訟事務に從事し以つて現在に至る。

然して辯護士を開業する傍ら地方財界に活躍し現に千葉電燈株式會社取締役たり、又曾つて千葉市會議員に擧げられしことあり。

夫人てる子は千葉縣の人小沼萬助君の令妹にして君との間に平一君、平八郎君進君、吉彦君、及び百枝子等あり、現に千葉市千葉一二三六番地に住す。

森彦兵衛君

飛驒銀行監査役
岐阜縣多額納稅者

君は岐阜縣の人森七左衛門君の二男にして、明治十六年一月を以つて生る。夙に鄕校を卒ふるや更に高等學校に入り同校を經て、明治四十年京都帝國大學法律科を卒業し、後ち實業界に投ぜり。

現に地方財界に重きをなし、飛驒銀行監査役にして且つ岐阜縣多額納稅者として直稅二千五百九十余圓を納む。

夫人ぬひ子は岐阜縣の人押上森藏君の四女にして君との間に彰君及び壽子、文子等あり、現に岐阜縣大野郡大谷田村に住す。

×

森正太郎君

第四十七銀行取締役
富山縣多額納稅者

君は富山縣の人森仙右衛門君の長男にして、安政五年七月を以つて生る。現に第四十七銀行取締役にして且つ富山縣多額納稅者として直稅三千七百五十二圓を納むといふ。

夫人シウ子は富山縣の人菅忠衛君の三女にして其の間に德之助君、嘉吉君及びコト子、菊枝子、フサ子、マサ子等あり富山縣山新川町東岩瀨に現住す。

森田政太郎君

殖産銀行取締役
長崎縣多額納稅者

君は長崎縣士族先代久助君の長男にして、慶應三年八月を以つて生る。夙に金融業を營み現に其の傍ら殖産銀行取締役にして、且つ長崎縣多額納稅者として當地方財界に知らる。

夫人テイ子は長崎縣士族星野信之君の令姉にして其の間に實君、尙志君、久治君、義治君、貞利君、虎彦君及びツヨ子クマ子、君代子、美代子等あり、現に長崎縣佐世保市福石に住す。

關屋貞三郎君

從三位勳一等
宮內次官

君は栃木縣の人關屋良純君の長男にして、明治八年五月二日を以つて生る。明治三十二年東京帝國大學法科大學を卒業するや、直ちに文官高等試驗に應じて首尾よく登第す。

斯くて職を官途に奉じ、爾來、臺灣總督府參事官、大藏省參事官兼內務大臣祕書官、關東都督府事務官兼民政署長、佐賀、鹿兒島各縣事務官、朝鮮總督府中樞院書記長兼學務局長、靜岡縣知事等を歷任し以つて現在に及ぶ。

夫人きぬ子は東京府士族故長田秋濤君の令妹にして君との間に正彦君、友彦君光彦君、健彦君及び淑子、由香子、美惠子等あり。

盛田久左衛門君

盛田合資會社長
株式會社中楚酒店社長

君は愛知縣の人先代久左衛門君の長男にして、慶應二年十月を以つて生れ、後ち前名久治郎を改めて襲名す。

夙に縣下釀造界に活躍し、現に盛田合資會社々長及び株式會社中楚酒店社長たる外敷島パン株式會社監査役として當地財界に知らる。

夫人ちよ子は愛知縣の人盛田太助君の二女にして君との間に彦太郎君、敬三君萬二君及びゆき子、いと子、みよ子等あり、名古屋市東白壁町二番地に現住す。

×

茂木長一君

日本商會東京支店長

夙に貿易界に活躍して、新進の名あるを我が日本商會東京支店長茂木長一君となす。君は兵庫縣姫路市の出身にして、明治二十年十一月九日を以つて生る。明治三十八年關西商工學校を卒業するや直ちに實業界に投ず。

斯くて、大阪範多商店に入り、後ち株式會社鋼管商店に轉じ、恪勤精勵、同社の發展に盡瘁すること甚大、大正十一年三月愈々獨立の機運熟するや敢然起つて獨立を宣し、而して諸機械及び鐵材等の直輸出入貿易業を開始し、爾來、着々として斯界に健實なる地歩を占め業勢益々發展の歩調を進るに至れり。

偶々君の穎才にして商機を見るに敏なるを知悉せる日本商會社長中島氏の聘に應じ、遂に大正十五年八月同社に入社して東京支店長の要職に就き、今や東都業界に活躍して令名あり。

現に東京市麹町區內幸町一丁目六番地

に住し電話銀座四〇九三、三四九二番たり。

×

森岡一一朗君

正五位勳四等
青森縣知事

君は奈良縣の人森岡万平君の二男にして、明治十九年五月を以つて生る。明治四十四年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し文官高等試驗に登第す。

斯くて職を官途に奉じ、爾來、兵庫縣警部、同縣出石郡長、同縣理事官、同縣警視、同縣事務官、青森縣警察部長、神奈川縣警察部長、警視廳刑事部長、同官房主事、京都府内務部長等を歴任し、昭和二年四月田中政友會内閣成るや拔擢せられて青森縣知事に任せられ、以つて現在に及ぶ。

夫人敏子は福島縣士族内村直俊君の二女にして君との間に一男三女あり、現に知事官舍に住す。

仙石政敬君

子爵　従三位勳三等
宗秩寮總裁

當家は左大臣魚名四世越前守高房の後裔にして、鎮守府將軍利仁の末葉越前守秀久の後なり。秀久豐臣氏に仕へ軍功あり、信州小諸六萬石を封せられ、三世政明に至り但馬立石五萬八千石を領す。

其れより六世を經て政固君に至る、同君は仙石藩知事、少議官侍從、内務權書記官等を歴任し、且つ貴族院議員に選ばれ、明治十七年勳功により特旨を以つて子爵を授けらる。

君は其の四男にして明治五年四月を以つて生れ、大正六年十二月襲爵仰せ付けらる。明治三十一年東京帝國大學法科大學政治科を卒業するや官界に投じ、爾來貴族院書記官、宮内事務官、諸陵頭、賞勳局總裁等を歴任し以つて現在に及ぶ。

曩に明治四十五年歐米を視察漫遊せしことあり。東京市芝區神谷町一八番地に現住し電話青山六八〇八番たり。

森田茂君

従七位勳三等　辯護士
衆議院議員

君は高知縣士族森田族郷君の長男にして、明治五年八月を以つて生る。明治三十三年明治大學法科を卒業するや直ちに辯護士登用試驗に登第す。

然して、職を官途に奉じ、京都地方裁判所檢事たりしが、後ち辯護士を開業し傍ら高知縣會議員、京都府會議員、同副議長等に擧げられ、且つ衆議院議員に當選すること前後四回に及び、現に其の任にありて中央政界に令名高し。

夫人鹿愛子は高知縣士族中島稚利君の長女にして、君との間に二女あり、現に京都市上京區烏丸通二條下ル秋野口に住し電話四七二番たり。

茂木森藏君

茂木商店取締役
大竹製菓株式會社監査役

君は埼玉縣の人茂木助次郎君の二男にして、明治十七年十月を以つて生る。夙に前記各會社の重役として知らる。

夫人たき子は東京府の人石井千之助君の養女たり、現に東京市日本橋區龜井町三〇番地に住す。

×

森下博君

大阪府多額納稅者
森下博藝業所主

君は大阪府の人先代佐野右衛門君の長男にして、明治二年十一月を以つて生る夙に藥種商を營み、名にしあふ懷中藥仁丹及び仁丹の体溫計、仁丹のハミガキ等は實に君の經營する森下藥房より搬出せるものなり。

君は大阪府實業界の功勞者として公私に知られ、大正九年十二月多年財界に盡瘁せる功により特に綠綬褒章を賜はり尚ほ大阪府多額納稅者たり。

夫人ハナ子は大阪府の人丸尾兼吉君の令妹にして君との間に二女あり、現に大阪市東區北久太郎町一ノ三八番地に住し電話船場五番たり。

守岡多一郎君

加賀銀行監査役
石川縣多額納稅者

君は石川縣の人守岡多作君の長男にして、明治九年七月を以つて生る。夙に地方金融界に活躍して名聲を馳せ、現に前記の外金澤軌道興業株式會社取締役にして、且つ石川縣多額納稅者として知らる。

夫人こと子は石川縣の人松村太吉君の三女にして、君との間に多吉君、外茂吉君及び芳子、錫枝子等あり、現に金澤市笠市町二番地に住し電話三八九番たり。

森田泰次郎君

御厨銀行頭取
伊豆相互貯蓄銀行取締役

君は靜岡縣の人森田豐八君の長男にして、明治元年八月を以つて生る。夙に地方財界に投じ、現に御厨銀行頭取たる外伊豆相互貯蓄銀行取締役たり。

夫人いし子は靜岡縣の人長倉陸吉君の令妹にして君との間に五男三女あり、現に靜岡縣駿東郡楊原に住す。

望月乙彦君

東京府多額納稅者
東京株式取引所一般取引員

君は靜岡縣士族田熊永錫君の長男にして、明治二十二年三月を以つて同縣富士郡大宮町萬野原新田に產す。

夙に東都實業界に投じて君の敏腕を振ひ、現に東京株式取引所一般取引員として、我が株式界に聲名あり、尚ほ東京府多額納稅者たり。

夫人まさ子は靜岡縣の人望月謹八君の二女にして、靜岡精華高等女學校の出身たり、現に東京府荏原郡大井町四八四番地に住し電話高輪二九七三番たり。

森　辨治郎君

日清汽船株式會社長

君は長野縣の人林美射男君の二男にして、明治元年十月を以つて生れ後ち先代孫一君の養嗣子となる。夙に鄉校を卒ふるや笈を負ふて上京し、研鑽琢磨、明治廿年東京專門學校を卒業す。

斯くて、直ちに實業界に投じ日本郵船株式會社に入りて同社天津、香港、大阪各支店長を歷勤し、大正十年日清汽船株式會社に轉じ同社專務取締役を經て以つて現在に及ぶ。

夫人かや子は養父孫一君の長女にして君との間に香二君及び雛子等あり、現に東京府豐多摩郡下澁谷一八九〇番地に住し電話高輪七七八一番なり。

關屋忠正君

從四位勳四等　鈴蘭製糖公司取締役

君は岐阜縣士族關屋定君の長男にして明治二年八月二十二日を以つて生る。明治二十四年東京帝國大學工科大學土木科を卒業するや直ちに職を官途に奉ず。

然して內務省土木監督署技師補となり爾來、島根、茨城各縣技師を經て同三十七年五月北海道廳技師に轉じ、同四十一年六月小樽築港事務所長より同四十二年釧路築港事務所長に轉じ、其の後官を辭して東洋拓殖株式會社に入りて同社土木部長を經て現に同社顧問たる外前記の職にあり。

夫人マヨ子は山口縣の人宇宮信綱君の二女にして山口縣立高等女學校を卒業し君との間に忠雄君、正雄君、博君、壽雄君及びはる子、ミチ子、とよ子等あり、現に東京市小石川區大塚仲町四一番地に住し電話小石川九四七番たり。

森　盛一郎君

實業家

君は佐賀縣士族森林三郎君の長男にして、明治十六年三月を以つて生る。夙に鄉校を卒ふるや青雲の志を抱いて東上し明治卅八年早稻田大學政治經濟科を卒業す。

斯くて直ちに實業界に投じ現に織田信託、東京會館、日本活動寫眞、日清生命保險、日章火災海上保險、ボルネオ護謨各株式會社の重役として知られ且つ東京商業會議所常議員たり。

夫人かよ子は實業家織田昇次郎君の二女にして君との間に良子及び清子あり、現に東京市麴町區紀尾井町三番地に住し電話四谷二九六二番なり。

關屋兵助君

北海道瓦斯株式會社取締役
唐津鑛業株式會社取締役

君は關屋和田七君の二男にして、明治元年九月を以つて生る。幼にして仲買人の最古參として有名なりし叔父善八君に養はれ同二十二年其の家督を相續し家業を繼承せしが同四十五年仲買業を廢す。

然して其の後幾多事業會社に關係し現に前記の外大船田園都市、三河鐵道、東京瓦斯、東京株式取引所、合同肥料各株式會社の重役として知らる。

夫人とく子は東京府士族遠藤一利君の三女たり、東京市麴町區富士見町一ノ一番地に現住し電話四谷四六九一番なり。

千田嘉平君

男爵　正四位勳二等功五級
陸軍少將　貴族院議員

當家は先代貞曉君より顯はる、貞曉君は舊鹿兒島藩島津家の世臣にして、明治戊辰の役に功あり後ち東京府大書記官、新潟、和歌山、愛知、京都、宮崎各府縣知事を歷任し、明治三十一年特旨を以つて華族に列し男爵を授けらる。

君は其の二男にして明治四年八月六日を以つて生れ同四十一年襲爵仰せ付けらる。明治二十九年陸軍士官學校を卒業し歩兵少尉に任ぜられ、爾來、累進して大正九年陸軍少將に陞る、曩に歩兵第十九旅團長たりしことあり、且つ日露戰役の功により功五級金鵄勳章を賜はり、大正十四年七月貴族院議員に互選せられ以つて現在に及ぶ。

夫人圭子は東京府の人本田親之君の二女にして君との間に貞清君、貞榮君、貞廉君及び愛子等あり、東京府豐多摩郡代々幡町代々木初臺八〇六番地に現住す。

守屋榮夫君

正五位勳四等　社會局第二部長
中央職業紹介所事務局長

君は宮城縣の人守屋德郎君の長男にして、明治十七年十一月を以つて生る。明治四十三年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業するや職を官途に奉じ、爾來、內務事務官兼參事官、朝鮮總督府秘書官、同課長、同庶務部長等を歷任し以つて現在に及ぶ。

大正十四年三月瑞西國ジュネーブに於て開催せられたる第七回國際勞働總會に政府代表委員として參列仰せ付けられ同年八月歸朝す。

夫人よしみ子は宮城縣の人今野伊織君の長女にして宮城縣女子師範學校を卒業し君との間に伴男君、明男君、越男君及び照子、萬里子等あり、現に東京府北豐島郡澁ノ川町西ヶ原七四番地に住し電話小石川一〇五一番たり。

最上國藏君

橫濱正金銀行取締役

君は東京府の人最上彥右衛門君の長男にして、明治八年九月を以つて生る。明治卅年東京商科大學の前身たる東京高等商業學校を卒業するや直ちに橫濱正金銀行に入りて恪勤、現に同行取締役たり。

夫人まち子は愛知縣の人平山良治君の養女たり、現に東京市牛込區矢來町三番地に住し電話牛込三四五八番なり。

關義壽君

男爵　正五位
貴族院議員

當家は先代義臣君より顯る、義臣君は舊福井藩士にして明治元年以降大阪府權判事、鳥取置賜各縣參事、置賜縣令大藏

權大丞判事、宮城控訴院檢事長、大審院檢事、德島、山形各縣知事等を歷任し後ち貴族院議員に勅選せられ明治三十八年特旨を以つて華族に列し男爵を授けらる

君は其の長男にして明治二十二年一月十四日を以つて生れ大正七年襲爵仰せ付けらる。明治三十九年學習院中學科を卒業し陸軍に入り、同四十四年陸軍砲兵少尉に任じ大正八年同大尉に累進し近衛野砲兵聯隊中隊長に補せらる、大正十四年七月貴族院議員に互選せられ以つて現在に及ぶ。

夫人清子は東京府士族河東田經清君の長女にして學習院女學部を卒業す。現に東京府豐多摩郡千駄ヶ谷町原宿三六二番地に住し電話青山五一二番たり。

森山松之助君

從四位　建築士

君は奈良縣の人森山茂君の長男にして明治二年六月七日を以つて生る。嚴父は明治二年外務少錄となり、爾來、外務權大丞元老院大書記官、同議員、富山縣知事等を歷任し、明治廿七年貴族院議員に勅選せられ、尋いで從三位勳二等に叙せられ錦鷄間祗侯仰せ付けられ國家に貢獻すること甚大なりしを以つて知らる。

君は明治卅年東京帝國大學工科大學建築科を卒業し、更に大學院に入りて研究すること二ヶ年、造詣すること蓋し尋常ならず。

然して後ち第一銀行に入り、更に臺灣總督府技師に轉ぜしが大正十一年建築事務所を開始し以つて現在に及ぶ。

夫人をあさ子と稱し神奈川縣の人西尾てる子の長女たり、現に東京市芝區高輪南町五三番地に住し電話高輪四五六番たり。

關　毅君

京濱運河株式會社取締役

君は栃木縣士族關眞君の令弟にして、明治十九年二月を以つて生る。明治四十三年東京帝國大學工科大學土木工學科を卒業し後ち一年志願兵となり工兵少尉に任せらる。然して後ち實業界に投じ東京灣埋立株式會社の前身たる鶴見埋築株式會社創立せらるゝや聘せられて同社技師となり、後ち支配人に選ばれ現に其の傍ら京濱運河株式會社取締役たり。

夫人ヨシ子は山口縣の人中山忠男君の令姉にして君と間に弘君及びエイ子、ヒサ子等あり、現に東京府豐多摩郡澁谷町下澁谷三九二番地に住す。

森下松衛君

明治書院取締役

君は群馬縣の人森下清治平君の長男にして、明治九年五月を以つて生る。明治卅二年國學大學院を卒業するや後ち圖書出版界に活躍し、現に株式會社明治書院取締役たり。

夫人ます子は千葉縣の人三野三二君の女にして君との間に彬君及び八千代子、きみ子等あり、現に東京市本郷區元町二ノ六六番地に住す。

瀨尾喜一郎君

大阪府多額納稅者

君は大阪府の人瀨尾喜兵衛君の養弟君にして、明治十七年七月を以つて生れ後ち同族アサ子の養嗣子となる。大阪府多額納稅者にして直稅一萬二千百四十余圓を納むるを以つて知らる。

夫人ツタ子は滋賀縣の人横地金右衛門君の長女にして君との間に五男一女あり現に大阪市南區鹽町通四ノ三九番地に住し電話船場二三九四番なり。

茂庭忠次郎君

工學博士　正五位

復興局東京第二出張所長

君は宮城縣士族茂庭秀清君の二男にして、明治十三年六月を以つて生る。明治三十七年東京帝國大學工科大學土木科を卒業するや更に大學院に入りて衛生工學を專攻す。

然して同年官途に職を奉じ東京市下水道設計囑託となり、同四十年名古屋水道技師に轉じて上下水道工事を擔當し、大正七年內務技師に任ぜられ同八年工學博士の學位を授けらる。

斯くて大正十二年官命により歐米に出張し、同十三年歸朝と共に復興局技師に轉任し以つて現在に及ぶ。

夫人をとめ子と稱し君との間にきよ子浪子等あり、東京市外高田雜司ヶ谷四六番地に現住し電話牛込八五八番たり。

關屋龍吉君

正五位勳四等

文部省普通學務局長

君は岐阜縣の人一柳貞吉君の令弟にして、明治十九年七月を以つて生れ、同三十二年九月先代よき子の養嗣子となる。明治四十四年東京帝國大學法科大學政治科を卒業するや直ちに文官高等試驗に合格す。

爾來、文部屬、文部省督學官兼文部省參事官、文部大臣秘書官、同省圖書官、同省督學官、文部書記官、同省秘書課長等を歷任し以つて現在に及ぶ、曾つて大正十一年歐米各國に出張せり。

夫人を美穗子と稱し男爵田中美津男君の叔母君たり、現に東京市小石川區茗荷谷町六二番地に住し電話小石川一三七〇番なり。

瀨川德太郎君

三菱鑛業株式會社取締役

君は岩手縣の人瀨川安五郎君の長男にして、明治五年六月を以つて生る。明治三十一年東京帝國大學工科大學採鑛冶金科を卒業するや直ちに三菱鑛業會社に入社し、爾來、累進して參事となり尾去澤鑛山長を經て同社取締役に擧げられ現に同社生野鑛山長たり。

夫人ウメ子は岩手縣の人井上德次郎君の令姉にして君との間に安一郎君及び節子、順子、末子、菊代子等あり、現に兵庫縣朝來郡生野町鑛山社宅に住す。

森岡平右衛門君

富倉銀行頭取
東京亞鉛鍍金會社長

君は先代銅鐵商平右衛門君の二男にして、明治四年十二月廿二日を以つて生る。夙に祖業を繼ぎて勤勉力行、益々家業を隆盛ならしめ現に傍ら富倉銀行頭取及び東京亞鉛鍍金株式會社々長たる外東京銅鑛株式會社の重役たり。

尙ほ東京府多額納稅者として直接國稅一萬二千五十余圓を納む。

夫人三重子は東京府の人廣岡助五郎君の令姪にして君との間に四男三女あり、現に東京市神田區駿河臺南甲賀町一七番地に住し電話大手三五四番たり。

關野長君

三菱電機株式會社參事
神戸製作所長

君は新潟縣士族關野貞君の令弟にして明治十四年七月を以つて生る。明治三十九年七月東京帝國大學工科大學電氣科を卒業す。

斯くて、直ちに實業界に投じ、現に三菱電機株式會社參事にして且つ神戸製作所長たり。

夫人勝子は東京府の人宮部敏功君の三女にして君との間に博君、治君、繁君及び英子、節子等あり、現に神戸市和田宮通五ノ二二番地に住し電話兵庫一六四二番なり。

森島收六君

永樂公司代表社員
成城協會理事

君は東京府の人加藤佳久君の五男にして、明治三年十月廿一日を以つて生れ、後ち森島勝正君の養嗣子となる。

夙に同人社、攻玉社を卒ふるや直ちに實業界に投じ、後ち總武鐵道技手、北海炭礦鐵道技師、北越鐵道技師、三井鑛山運炭鐵道技師等を歷任し、明治四十年以來前記重職に在り。圍碁、玉突、書畫等に趣味を有すといふ。

夫人トメ子は東京府の人小林萬右衛門君の五女にして君との間に一男あり、現に東京市牛込區納戸町三〇番地に住し電話牛込一六一〇番たり。

瀨崎初三郎君

北海道多額納稅者

君は新潟縣の人瀨崎寅吉君の二男にして、明治七年一月を以つて生る。現に北海道多額納稅者にして直稅四千六百八十余圓を納む。

夫人をよし子と稱し青森縣の人古村福三郎君の三女にして君との間に五男五女あり、現に北海道函館榮町二三一番地に住し電話九一二番なり。

茂木龜三郎君

東京化粧品同志株式會社取締役
柳谷商會株式會社監査役

君は群馬縣の人先代增造君の長男にして、明治七年六月を以つて生る。夙に實業界に投じ、現に前記の要職にあり。

夫人セイ子は群馬縣の人河原竹次郎君の令妹にして君との間に慶一君、俊衛君龜彥君、博美君、春二郎君及び富子、喜美江子、澄江子等あり、現に東京市神田區西福田町一番地に住す。

關秀次郎君

東京府多額納稅者

君は東京府の人關秀翁君の二男にして明治十二年九月を以つて生る。現に東京株式取引所取引員にして、曾つては神田商業銀行監査役たりし事あり、尙ほ東京府多額納稅者として直稅六千二百余圓を納むるを以つて知らる。

東京市外日暮里町金杉二五六番地に住し電話淺草四七三一番なり。

元田敏夫君

從四位勳三等
香川縣知事

君は東京府の人元田肇君の長男にして明治十五年五月を以つて生る。明治三十九年東京帝國大學法科大學を卒業するや文官高等試驗に合格す。

斯くて職を官途に奉じ、千葉縣事務官を振り出しに埼玉縣知事、內務書記官、東京府理事官、埼玉、宮崎各縣內務部長拓殖事務局長、千葉縣知事等を經て昭和二年四月香川縣知事に任じ以つて現在に及ぶ。

夫人道子は靜岡縣の人內田正六君の女にして君との間に信太郎君、二郎君、三郎君及び田鶴子、久子、和子等あり、現に住宅を東京市赤坂區青山南町五ノ三三番地に有し電話青山二三五一番なり。

關谷與助君

横濱製綱株式會社取締役
京濱石材株式會社取締役

君は長野縣の人關谷新助君の令弟にして、明治十五年四月を以つて生れ、後ち先代善八君の養嗣子となる。

夙に金融業を營み現に其の傍ら前記會社の重役にして曾つて芝區會議員に擧げられしことあり。

夫人をこと子と稱し東京府の人遠藤治兵衛君の二女たり、現に東京市芝區愛宕町一丁目八番地に住し電話高輪五六七三番なり。

望月軍四郎君

望月同族株式會社長
田口銀行取締役

勳三等實業家望月軍四郎君は靜岡縣の人望月謹八君の令弟にして、明治十二年八月を以つて生る。夙に教育事業に携り其功績尠なからず、大正十三年勳三等に叙し瑞寶章を授けらる。

現時望月同族株式會社々長にして且つ田口銀行頭取として知られ曩に東京株式取引員たりしことあり。

夫人こう子は東京府の人田中彌吉君の令姪にして君との間に四男五女あり、現に東京市赤坂區青山南町六ノ六一番地に住し電話青山一一〇三番なり。

關彌三郎君

富士林業株式會社取締役
日本煤煙完全燃燒機株式會社監査役

君は埼玉縣の人關祐藏君の二男にして明治十六年十二月を以つて生る。現に前記諸會社の重役たり。

夫人キチ子は神奈川縣の人柴崎梅吉君の長女にして日本女子大學附屬高等女學校の出身たり、現に東京市京橋區具足町九番地に住し電話銀座五五一九番なり。

森　外三郎君

正五位勳三等　第三高等學校長

君は京都府士族森友任君の二男にして慶應元年八月を以つて生る。明治二十四年東京帝國大學理科大學を卒業するや直ちに教育界に投じ、京都第一中學校長を經て第三高等學校長に任じ以つて現在に及ぶ。

夫人あい子は石川縣士族石井朝雄君の令姉にして君との間に友一君、二郎君、六郎君及び三枝子、玉枝子、文枝子等あり、現に京都市上京區今出川寺町西入上ルに住す。

關口志行君

從七位　辯護士

君は群馬縣の人關口貞作君の長男にして、明治十五年五月九日を以つて生る。明治三十九年京都帝國大學法科大學英法科を卒業するや職を官途に奉ず。

斯くて司法官試補となり前橋地方裁判所、甲府地方裁判所各判事を勤め、大正七年職を辭して辯護士を開業し、傍ら群馬縣會議員たり。圍碁將棋に熱中し又俳句の製造に奇々妙々なりと。

夫人みち子は群馬縣士族富梶竹次君の二女にして共愛高等女學校を卒業し君との間に一女あり、現に群馬縣前橋市北町曲輪三四番地に住し電話四六二番なり。

森　貞範君

東京サルベージ株式會社取締役

君は滋賀縣士族森貞宜君の三男にして明治八年十一月を以つて生る。夙に商船學校を卒業するや直ちに實業界に投じ曩に日本郵船株式會社、三井物產株式會社各船長及び東京海上保險會社船舶檢査員等を歷勤し、現に東京サルベージ株式會社取締役たり。

夫人エイ子は栃木縣の人横塚村司君の三女にして君との間に三女あり、現に東京市麹町區平河町二ノ一七番地に住し電話四谷四九五六番たり。

瀨川勝平君

東京建鐵株式會社取締役

君は東京府士族田島勝次郎君の二男にして、明治二十二年六月を以つて生れ、後ち先代たよ子の養嗣子となる。現に前記會社の重役たり。

夫人とめ子は東京府の人關根靜馬君の四女にして君との間に博君、重仁君あり東京市外巢鴨町字巢鴨一〇八六番地に現住し電話小石川五一三一番なり。

森川正成君

やまと工業株式會社營業課長

帝都復興事業に盡瘁して貢獻すること甚大なるを我がやまと工業株式會社となす。然して同社內外の社務を掌握して稀代の敏腕を振ひ、新進實業家の名あるを同社營業課長森川正成君となす。

君は埼玉縣の人森川福松君の長男にして、明治二十四年五月二十九日を以つて生る。夙に實業界に雄飛せんとの大志を抱いて上京し、先づ學事に專念たること數年、後ち東都實業界に投じてやまと工業株式會社に入社せり。

爾來、君の天禀の才幹の向ふまゝに任かせて其の俊腕を縱橫に振展し、我がやまと工業株式會社をして今日の聲望あらしむるに至りしは蓋し君の多年の奮鬪努力の賜と謂ふべく、今や東都を始め東北關西まで勢力を波及し、專賣特許やまとスレート、全石綿瓦及び新案特許陸屋根やまとタイル等の製造販賣を始めとしてルービングフェルト、アスファルトコンクリート工事、アスファルト陸屋根工事一式を請け負ひて廣く諸官廳及び民間諸會社に信望を博し、前途益々多望なる盛況にあるは戎野社長又斯くの如き好人物を得て同社一切の社務を委ねたる蓋し多幸なりと謂ふべし。

今や帝都は復興事業に多端なり、君に俟つべきもの又多からん、宜しく自重自愛以つて將來の大成を期して可ならん哉。

夫人秀子は東京府の人土屋高吉君の二女にして君との間に二男あり、現に東京市淺草區新福富町二二番地に住し電話淺草五八六八番たり。

關澤金造君

圖書出版業
日本警務學會主宰者

君は茨城縣の人關澤三郎君の令弟にして、明治三年十月二十八日を以つて生る。

夙に圖書出版界に活躍して我が國文化の向上に裨益すること甚大、爾來、各種の講義錄就中巡査受驗用の講義錄を發行して警察官養成に貢献する所甚大、現に日本警務學會主宰者たり。

夫人をとし子と稱し君との間に高保君、元弘君、英夫君、正夫君及び澄子等あり現に東京府北豐島郡巢鴨町二ノ六番地に住し電話小石川五三二八番たり。

物部長穗君

工學博士　從五位勳六等

君は秋田縣の人物部長元君の二男にして、明治二十一年七月を以つて生る。明治四十四年東京帝國大學工科大學土木工學科を卒業するや職を官途に奉ず。

然して大正元年八月內務省土木局技師となり、同九年四月歐米各國へ出張を命ぜられ、同九年工學博士の學位を授與せらる。

夫人元子は男爵尾崎洵盛君の令妹にして、君との間に長興君及び美穗子、美津子、美惠子等あり、現に東京市麻布區龍土町六七番地に住す。

關守造君

日本精毛株式會社取締役
大正活映株式會社取締役

君は東京府士族關迪孝君の長男にして明治元年七月を以つて生る。夙に獨逸に留學し歸朝後は横濱に在りて日獨貿易に從事せり。

斯くて君が學識及俊腕は着々として事業の上に振展し、漸次其の地歩を占めて斯界に重きをなし、現に前記の外旭藥品工業、日本化學製油、建築書院各株式會社の重役として知らる。

夫人をミネ子と稱す、現に東京市外入新井町新井宿一八四九番地に住し電話大森四番なり。

森直卿君

東洋肛門病院長
博善消毒株式會社取締役

君は熊本縣士族森清太郎君の長男にして、明治六年二月を以つて生る。現に東洋肛門病院長として知られ、傍ら前記會社及び天親館株式會社の重役たり。

夫人フミ子は福岡縣士族長瀾勇三郎君の長女にして君との間に直尚君、林吉君直文君、不二子、龍兒子、多雅子、奈須子等あり、東京市神田區美土代町二ノ一番地に現住し電話大手五六七二番たり。

森川桑三郎君

日本精版印刷株式會社取締役

君は鳥取縣の人住田善平君の三男にして、明治十二年十月を以つて生れ、同三十二年先代桑三郎君の養嗣子となる。

扨て承れば先代桑三郎君は安政年間の國學者竹窓森川世黄君の曾孫にして正に名門の出、夙に東京專修學校理財部を卒業するや印刷界に投じ、現に森川印刷所を經營する傍ら日本精版、大日本金箔工業、日本印刷材料各株式會社の重役にして且つ大阪府多額納税者たり。

夫人ヤス子は大阪府の人則武利兵衛君の長女にして梅花高等女學校の出身たり現に大阪市東區東平野町一〇ノ九〇番地に住し電話南二九二一番なり。

關義孝君

關機械製作所長

君は東京府の人山本治僊君の長男にして、明治四年二月二十四日を以つて生れ後ち關義臣君の養嗣子となる。

夙に實業界に志して斯界に活躍して敏腕を振ひ、大正八年關機械製作所を設立し現に同所々長たり。

夫人をリウ子と呼び東京府の人沖龍雄君の二女たり、現に東京市小石川區原町一〇番地に住し電話小石川四二一一番なり。

森五郎兵衛君

滋賀縣多額納税者
近江帆布株式會社取締役

君は滋賀縣の人森專三郎君の長男にして、明治十年五月を以つて生れ、同三十九年二月先代せつ子の死跡を相續し舊名俊次を改稱す。

當家は遠く元祿年間に興りし舊家にして、代々呉服太物商を營み東京大阪に支店を有し、今や陣容大いに整ひ斯界の重鎮を以つて目せらる。

君は夙に慶應義塾を出で、家業に精勵するの傍ら前記會社の重役にして且つ八幡銀行、大阪製麻、八幡製絲各株式會社の重役を兼ね尚ほ滋賀縣多額納税者として直税參萬九百四十余圓を納む。

夫人を種子と稱し奈良縣の人栗山藤作君の二女たり、現に滋賀縣蒲生郡八幡に住す。

關塚惣吉君

大地主　資産家
新潟縣多額納税者

君は新潟縣の人先代關塚惣吉君の長男にして、明治十年四月を以つて生れ同四十年家督を相續すると共に襲名して前名惣太郎を改む。

當家は同地有數の地主にして且つ新潟縣多額納税者として直税三千三百四十余圓を納むるを以つて知らる。

夫人イサホ子は新潟縣の人高澤岩稱君の三女にして君との間に達夫君、成也君和人君及びレン子、チカ子、ミヲ子、ユウ子、イク子等あり、現に新潟縣中蒲原郡五泉に住す。

森卷吉君

正五位勲五等　第一高等學校教授

君は其の名も高き彼の財團法人岐阜訓盲院の創設者森卷耳君の長男にして、明治十年五月を以つて生る。明治三十七年東京帝國大學文科大學英文科を卒業す。

斯くて直ちに教育界に身を委ね、明治四十一年第一高等學校教授に任じ以つて現在に及べるものにして、曩に大正十年英語英文學及び語學教授法研究の爲め歐米各國に滯留すること二ケ年、大いに研鑽を積みて歸朝す。

夫人ヒサ子は大阪府の人橋本淺吉君の長女にして君との間に隆夫君、修二君及び美惠子、少枝子、愛子、忍子、百合子等あり、現に東京市本郷區彌生町三番地に住す。

籾山英次君

正七位　陸軍一等獸醫
小兒牛乳株式會社取締役

君は靜岡縣の人石橋好一君の二男にして、明治五年四月を以つて生れ後ち先代吉次郎君の養嗣子となる。夙に帝國大學獸醫乙科を卒業す。

斯くて宮城縣農學校教諭となり、後ち軍籍に身を投じ日清日露の兩役に從軍して國家國防に貢献すること甚大、而して後ち實業界に投じ、專ら畜産業に精勵し現に籾山牧場を經營する外小兒牛乳株式會社取締役にして傍ら東京獸醫學校相談役たり。

夫人をつえ子と稱し愛知縣の人盛田彌吉君の五女にして君との間に二女あり、東京市外長崎町四二七七番地に住す。

世木澤藤三郎君

丸肥旭川肥料株式會社取締役
旭川商事株式會社監査役

君は北海道の人世木澤與市君の長男にして、明治九年九月を以つて生る。曩に雜穀商を營みしが現時酒造業を營む傍ら前記會社の重役たり。

早くより旭川商業會議所常議員に推され、尙ほ北海道多額納稅者として直稅二千六百六十余圓を納む。

夫人よし子は京都府の人舟越源七君の長女にして君との間に登君、清一君及び富惠子、正子等あり、現に北海道旭川市宮下通一二ノ右一番地に住す。

森　正次郎君

株式會社中外製材所々長
平沼製材株式會社專務取締役

君は東京府の人福田善吉君の二男にして、明治十四年一月を以つて生れ、後ち祖母福田ウタ子の緣家たる養父森正五郎君の養嗣子となり其の絕家を再興す。

現に中外製材所長たる外平沼製材株式會社專務取締役にして且つ子安製材株式會社專務取締役たり。

夫人はん子は東京府の人大槻サク子の養女にして君との間に啓之輔君、時男君及び好子、房子、章子、敬子等あり、現に東京市外千駄ヶ谷町五六二番地に住し電話靑山一九三二番たり。

森寺喜兵衞君

三重縣多額納稅者

君は岐阜縣の人鄕亮三君の三男にして明治九年九月を以つて生れ、後ち先代喜兵衞君の養嗣子となる。

明治四十二年東京高等商業學校を卒業するや直ちに地方財界に投じ現に當地財界に重きをなし、且つ三重縣多額納稅者として直稅三千七十余圓を納む。

夫人をゑつ子と稱す、現に三重縣四日市下新町に住す。

望月六郎君

東京喞筒株式會社專務取締役

君は山梨縣の人先代望月六郎君の長男にして、明治元年七月を以つて生れ大正四年前名虎吉を改めて襲名す。夙に實業界に投じ現に東京喞筒株式會社を經營して同社專務取締役たり。

夫人よね子は山梨縣の人保坂春太郎君の令妹たり、現に東京市牛込區横寺町三七番地に住す。

森下嘉作君

天宮銀行取締役

君は靜岡縣の人森下作十君の二男にして、慶應二年八月を以つて生る。現に天宮銀行取締役兼支配人たり。

夫人かや子は靜岡縣の人森田勝治君の二女にして君との間に一男あり、現に靜岡縣周智郡犬居に住す。

鈴木喜三郎君

法學博士　正三位勲一等
內務大臣

君は神奈川縣の人川島富右衞門君の三男にして、慶應三年十月十一日を以つて生れ、明治十五年六月先代慈孝君の養嗣子となる。

明治二十四年東京帝國大學法科大學を卒業するや直ちに司法官試補となり、同二十六年判事に任ぜられ麴町、京橋各區裁判所判事、同部長、東京控訴院判事同部長等を歷任し、明治四十年三月司法制度研究の爲め歐米各國に差遣せられ、在留一ヶ年造詣を深くして歸朝するや大審院判事、東京地方裁判所長、司法省法務局長等を歷任せり。

曩に寺內內閣及び原內閣時代に各司法次官に任ぜられ、大正十年平沼氏の跡を襲ふて檢事總長に擧げられ、清浦內閣の出現と共に臺閣に列して司法大臣に親任せられ、大正十三年九月帝室制度審議會委員仰せ付けられ、而して昭和二年四月田中政友會內閣の內務大臣として臺閣に列し以つて現在に及ぶ。

曾つて法政大學、專修大學、日本大學各講師として敎壇に立ち、且つ民法に關する著書多く讀書、旅行、音樂等に趣味を有すといふ。

夫人カヅ子は鳩山和夫君の長女にして東京女子高等師範附屬高等女學校の卒業たり、現に東京市麴町區三番町七一番地に住し電話四谷三〇〇九番なり。

鈴木富士彌君

衆議院議員

正五位鈴木富士彌君は大分縣の人三塚重次郎君の令弟にして、明治十五年十一月を以つて生れ、後ち鈴木藤三郎君の養嗣子となり前名文藏を改稱す。

明治三十九年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業するや更に歐米漫遊の途に上り、海外に滯留すること三年有半大いに識見を高くして歸朝す。

然して爾來辯護士、特許辨理士を開業し民刑事件を取扱ひて令名を馳せ、大正六年以來靜岡縣郡部より推されて衆議院議員たること前後三回、現に其の任にありて中央政界に令名高く、且つ保健衞生調査會委員にして曾つては內務省參與官たりしことあり。

現に東京府豐多摩郡上澁谷一三五番地に住し電話靑山二〇八番たり。

杉野民之助君

日の本足袋株式會社監査役

當家は愛媛縣桑村郡中村の出にして先代保五郎君明治初年大阪に移り、米穀商を營みて家名を擧げしに端を發す。

君は即ち其の長男にして慶應元年三月を以つて生る。夙に家業を繼ぎて米穀商を營みしが後ち足袋商に轉業し、現に日の本足袋株式會社監査役にして、曾つて大阪府會議員、同參事會員たりしことあり、謠曲、圍碁に堪能なり。

夫人フジエ子は愛媛縣の人杉栗三君の二女にして君との間に康五郎君、林之助

君及びけい子、よしゑ子、ひで子、茂子等あり、現に大阪市西區新北通り一ノ四五番地に住し電話新町五〇八番たり。

鈴木莊六君

從三位勳一等功二級　陸軍大將
陸軍參謀總長

君は新潟縣の人鈴木高次君の三男にして、慶應元年二月十九日を以つて生る。明治二十四年陸軍士官學校を卒業し同年陸軍騎兵少尉に任ず、更に同二十九年陸軍大學校を卒業し、累進して大正十三年陸軍大將に陞る。

其の間參謀本部々員兼陸軍大學校教官參謀本部課長兼海軍々令部參謀、陸軍大學校幹事、騎兵第三旅團長、騎兵實施學校長、騎兵監、第五第四各師團長、臺灣軍朝鮮軍各司令官等を歷補し、現に陸軍參謀總長の榮職にあり。

彼の日露の戰役には第二軍參謀として出征し、功に依り功三級金鵄勳章を賜はり、曩に米國歐洲及び西比利亞等に差遣せられしことあり。

夫人タケ子は高知縣士族森岡正元君の長女にして君との間に一男一女ありて重雄君及び光子と呼ぶ。

鈴木要三郎君

從四位勳四等功四級
豫備海軍主計大監

君は東京府の人鈴木至政君の令弟にして、慶應元年二月を以つて生る。明治二十一年海軍少主計に任ぜられ、爾來累進して同三十九年主計大監に進み尋いで豫備役仰せ付けらる。

其の間佐世保主計長、海軍大學校主計長、高千穗艦主計長、水路部會計課長、海軍主計官、練習所教官、佐世保海軍經理部長等を歷補し、日露の役には功により勳四等に叙し功四級金鵄勳章を賜はり後ち退官して實業界に投じ、現に日本興業銀行、日本活動寫眞各株式會社の重役として知らる。

夫人ナヲ子は東京府士族今村續君の四女にして其の間に勝之助君、力之助君及び靜枝子、ハルヱ子、滿枝子、玉枝子、喬枝子等あり、現に東京市麻布區三軒屋町二十番地に住す。

杉本新左衛門君

京都府多額納稅者

君は京都府の人杉本爲七君の長男にして、明治六年八月を以つて生れ、後ち先代新左衛門君の養嗣子となり前名爲一を改稱して襲名す。

夙に祖父の遺業たる茶製造販賣を營み三丘園と稱して京都地方に名あり、尙ほ京都府多額納稅者として現時直稅七千二百八十余圓を納むといふ。

夫人たつ子は愛知縣の人岡田良右衛門君の二女にして、君との間に子女なきを遺憾とす、現に京都市下京區綾小路新西入に住し電話下七二三番たり。

杉宣陣君

從五位勳四等　辯護士
衆議院議員

天晴れなる哉、曩に松山市より立候補を宣して彼の山本權兵衛伯の女婿海軍中將山路一善君と鬪つて、美事に打ち破り遂に勝利の旗幟を翻せし、新進代議士杉宣陣君は杉晴之助君の四男にして明治廿一年十一月六日を以つて生る。

夙に第一高等學校を經て明治四十五年東京帝國大學法科大學を卒業するや直ちに文官高等試驗に合格して遞信書記官に任じ、大正五年朝鮮銀行書記同秘書等を歷任し、後ち寺內內閣成立するや勝田藏相秘書官同省參事官等に任ぜらる。

然して大正七年勝田氏に隨ひて歐米視察の途に上り、尙ほ清浦內閣成るや勝田藏相秘書官を勤め、現時は辯護士を開業し大正十三年愛媛縣より推されて衆議院議員に當選し中央政界に名あり。

夫人はつ子は東京府の人小林臻君の長女にして東京女子高等師範附屬女學校の卒業なり、東京府豐多摩郡西大久保一七番地に現住し電話四谷二〇五四番なり。

杉原惟敬君

安田銀行取締役
熊本電話株式會社監査役

君は熊本縣士族大塚俊九郎君の三男にして、慶應二年十月を以つて生れ明治二十七年先代エト子の養嗣子となる。夙に實業界に投じ初め九州鐵道會社に入社し後ち同社が國有となるや轉じて日本貿易銀行門司支店支配人に推され、明治三十六年株式會社肥後銀行に入りて同行熊本支店長、東京支店長等を經て同行取締役兼支配人に就任す。

然して大正十二年同行が株式會社安田銀行と合併成るや、安田銀行取締役に擧げられ九州地方監督を兼ね傍ら熊本電話株式會社監査役にして、且つ肥後農工銀行相談役たり。

夫人きよ子は熊本縣士族三宅作太郎君の長女にして君との間に一女ありてキミ子と稱す、現に門司市龍門町三丁目二〇二五番地に住し電話三一四番たり。

杉山金之助君

內外紡績株式會社取締役
濱松撚糸株式會社監査役

君は東京府の人杉山文藏君の長男にして、明治十七年一月を以つて生る。夙に學に厚く普通教育を卒ふるや直ちに慶應義塾大學に學び、明治四十年優秀の成績を以つて同學理財科を卒業す。

然して後ち實業界に志し、入りて活躍大いに努め、君が敏腕を縱橫に振ひ現に內外紡績株式會社取締役たる外濱松撚糸株式會社監査役として知らる。

夫人セイ子は神奈川縣の人廣田寅吉君の長女にして君との間に二男ありて謹吾君、弟也君と稱す、現に東京府豐多摩郡千駄ヶ谷町八一一番地に住す。

杉山謙造君

神奈川縣多額納稅者

君は神奈川縣の人杉山久五郎君の四男にして、明治十一年四月を以つて生る。夙に實業界に活躍し砂糖商を營み、現に横濱有數の商舗たると共に神奈川縣多額納稅者として現時直稅壹千二百三十余圓を納むといふ。

夫人との間に久一郎君あり、現に横濱市花咲町一ノ九番地に住し電話長一五二三番たり。

鈴木竹麿君

從五位勳六等
東京帝國大學教授

君は宮城縣の人鈴木又人君の長男にして、明治十年十一月を以つて生る。明治四十年東京帝國大學農科大學獸醫科を卒業し、同年陸軍二等獸醫に任じ、同四十三年一等獸醫に昇進せり。

然して大正元年陸軍獸醫學校教官並に農科大學講師に任ぜられ同四年同大學教授に進み以つて現在に及べり、曾つて大正十一年畜産學研究の爲め米佛獨に留學せしことあり。

夫人たき子は宮城縣士族山本悠久君の二女にして君との間に正君、武君、弘君望君等あり、現に東京府豐多摩郡中澁谷六二一番地に住す。

杉谷泰山君

從四位勳四等　文學士
三井家教育顧問

君は三重縣の人杉谷泰順君の長男にして、慶應三年六月二十三日を以つて生る夙に高田派勸學院に入りて普通教育及び儒學を修得し、更に青雲の志を抱き笈を負ふて東上し、獨逸協會學校を經て東京帝國大學に學び、明治三十年同文科大學を優秀の成績を以つて卒業す。

然して後ち第二高等學校教授に任ぜられ、君の蘊蓄を傾注して幾多學徒の薫陶に盡瘁して名聲大いに擧り、後ち擧げられて同校教授に陞進し勅任教授たりしがたま〳〵三井家の招聘に應じ、同家の家塾たる清泉學寮に於て同一族の子弟を率いて其の薫陶に當り、併せて東京帝國大學の優秀學生をも選拔して同學友となし爾來孜々として人材の教養に盡瘁し以つて今日に及ぶ。

君や資性誼直、學博大にして深く人生諸問題の研究に耽り、其の所産として人生二百歳說を力說主張せる名著「長命術」を始めとして「人間天職」「處世哲學」「人間研究」等の著書ありて何れも名著たるを失はざるべく、而も現代の教育に關しては熱烈なる義務教育延長論者にして、其の識見や蓋し博大なり。

夫人たね子は東京府の人鈴木良助君の長女にして淑德の聞え高し、現に東京市麻布區笄町一四七番地に住す。

鈴木孫彦君

京城高等商業學校長

正五位勳四等鈴木孫彦君は靜岡縣の人先代くに子の叔父君にして、明治十一年一月を以つて生れ、大正元年八月家督を相續す。

明治三十二年東京高等商業學校を卒業し更に同三十七年同校專攻部を出で、大正六年商業學研究の爲め英佛米に留學し歸朝するや、三重縣四日市商業學校教諭熊本縣立商業學校教諭、同校長、山口高等商業學校教授等を歷任し現に京城高等商業學校長として知らる。

夫人チヨノ子は山口縣士族檜崎國太郎君の二女にして東京女子高等師範學校を卒業し其の間に鴻一郎君、周三君及びアソ子、みどり子等あり。

住田正雄君

醫學博士　正五位勳四等
九州帝國大學教授

君は兵庫縣の人住田金作君の四男にして、明治十一年三月を以つて生る。明治三十六年東京帝國大學醫科大學を卒業し更に大學院に入りて研鑽を積み直ちに教育界に投ず。

然して京都帝國大學醫科大學助教授に任じ、明治四十一年整形外科研究の爲め獨逸に留學し造詣を深くして歸朝するや明治四十五年九州帝國大學醫科大學教授に任ぜられ以つて現在に及ぶ、大正三年醫學博士の學位を授與せらる。

夫人せい子は群馬縣の人伊藤覺次郎君の二女にして君との間に正樹君あり、現に福岡市須崎裏二十一番地に住す。

杉山左門治君

東洋木材株式會社取締役
千代田興業株式會社監査役

君は神奈川縣の人式尾彌十郎君の二男にして、慶應二年二月を以つて生れ後ち先代久平治君の養嗣子となる。夙に東都實業界に身を投じ、現に御厨銀行、東洋木材、京濱運輸各株式會社の取締役たる外千代田興業株式會社監査役として知らる。

夫人なを子は養父久平治君の長女にして君との間に二男四女ありて久夫君、俊郎君及びあや子、東子、とく子、みさ子と稱す、現に東京市小石川區高田豐川町三十二番地に住し電話牛込三〇八三番なり。

鈴木寧君

正五位勳四等
北海道帝國大學教授

君は北海道士族鈴木元治君の長男にして、明治十四年二月を以つて生る。明治三十八年札幌農學校本科を卒業するや直ちに同校助教授に任ぜられ同年水產學研究の爲め獨佛米諸國に留學し、其の造詣を深くして歸朝す。

然して明治四十年東北帝國大學農科大學水產學科助教授に任ぜられ、同四十二年教授に昇進し大正七年同學水產專門部教授に任じ以つて現在に及ぶ。

夫人エルナ子は獨逸人アドリマン、ハインリッヒ氏の二女にして君との間に昇君、政君及び惠里加子等あり、現に北海道札幌市北四條西七ノ十一番地に住す。

須田信次君

勲六等　泰平組合理事
東京計器製作所取締役

廣く海外の商機に精通して能く内國産業の歸趨を看破し、我が國財界の恩人且つ斯界の元老として知らるゝ須田信次君は、新潟縣の人須田守約君の長男にして文久二年八月三日を以つて生る。

夙に實業界に志して上京し明治十四年高田商會の創立せらるゝや同社に入り、彼の日清戰役中佛國郵船に便乘して英國に航し、高田商會支店に在りて畫策大いに努め、明治三十年十月米國を經て歸朝し、越えて三十一年再び同支店に赴き約二ヶ年餘にして歸朝す。

顧みるに君が英國在任中屢々歐洲大陸を巡遊して、汎く商工業の實況を視察し同三十八年同社副事務長に進み翌年四月支那沿岸より深く支那内地を踏破して對支貿易の實況を調査し、大いに得る所ありしかば明治四十年初めて上海に支店を設置し、自ら同支店長に赴任し其の基礎固きに及んで再び本店兼務となり、大正七年五月常務理事に累進し其の間恪勤精勵實に四十有余年、同社發展に貢献すること甚大、大正十四年同商會を辭し現に前記會社の重役たり。

其の勲等あるは彼の日露戰役に際し、國家に貢献するところ尠少ならざるの故を以つて特に賜はりたる榮譽あるものなり、君や資性溫厚顏　社交に通じ、且つ其の柔和なる風貌は會談する何人も等しく敬慕するところ、人格の高潔、識高見なる、眞に當代紳士の典型と云ふも敢へて過言にはあらざるべし。

夫人和歌子は東京府の人中村榮次郎君の二女たり、東京市芝區白金臺町一ノ二七番地に現住し電話高輪一六六四番なり。

杉山義雄君

株式會社秀英舍社長

君は靜岡縣の人杉山孝一郎君の養兄君にして、慶應二年九月を以つて生る。夙に實業界に身を投じ現に株式會社秀英舍取締役社長たる外武田割引銀行、袋井銀行、九曜商會各株式會社監査役にして東都財界の重鎮たるを失はざるべし。

夫人なか子は養父兼郎君の長女にして君との間に一女ありて富子と稱す、現に東京市本郷區駒込曙町十三番地に住し電話小石川九二三番たり。

鈴木圭二君

正五位勲三等　海軍艦政本部長
海軍造船中將

君は新潟縣の人小林百嘯君の令孫にして、明治八年一月を以つて生れ後ち鈴木家の養嗣子となる。夙に郷校を卒ふるや笈を負ふて上京し、切磋琢磨、明治三十三年東京帝國大學工科大學造船科を優秀の成績を以つて卒業す。

然して直ちに海軍造船技士に任じ、累進して大正十四年十二月海軍造船中將に陞進す、其の間鎩鶴海軍工廠造船部長等を經て現に海軍艦政本部第四部長として令名あり。

夫人ナカ子は養父重熙君の長女たり、現に其の住宅を東京府荏原郡駒澤町綠園に有す。

杉村幹君

戸山腦病院主

曾つては官界にありて樞要の職を歷任し、隨所に其の才幹を發揮して令名を謳はれ、今また戸山腦病院經營者として聞ゆる杉村幹君は東京府士族杉村正謙君の二男にして、明治十四年一月二十日を以つて生る。

夙に東京府立中學校より第二高等學校に進み、明治四十二年七月東京帝國大學法科大學政治科を優秀の成績を以つて卒業し、更に大學院に入りて地方自治行政及び警察行政に關する科目を專攻し、明治四十三年十一月官途に就き警視廳に入りて第一警衛課、警務課、官房文書課等を歷勤し、大正三年十一月官界を去りて嚴父の經營に係る戸山腦病院副院主となり、嚴父を輔けて百般の施設に改善を加へ、以つて同院をして今日の大を成さしむるに至れり。

偶々大正九年精神病院法の發布せらるゝや、内務大臣より東京府代用精神病院に指定せられ、大正十三年嚴父病歿するに及んで其の事業を繼承して同院主となり以つて現在に至る。

君又文才豐かにして著作に趣味を有し「農業小論」「行餘集」「鞭思樓歌集」「明治大正漢詩私選」等數種の名著あり、尙ほ書畫を愛好し其の鑑識たるや素人の域を脫すといふ。

夫人薫子は石川縣の人杉中利平君の長女にして其の間に秀子、恒子、俊子、慶子等あり、現に東京市牛込區若松町一〇二番地に住し電話牛込六六五番なり。

角達助君

廣島高等師範學校教授

君は佐賀縣の人角純一君の長男にして明治十三年十二月を以つて生る。明治三十九年三月廣島高等師範學校物理化學科を卒業するや、廣島縣師範學校教諭、廣島高等師範學校助教授兼同教諭等を歷任し、大正六年兼教授、大正八年同教授に任じ以つて現在に及べり。

夫人貞尾子は大阪府士族加藤貞明君の長女にして君との間に三女ありて靜子、雅子、美子等なり、現に廣島市大手町八ノ三八番地に住す。

鈴木梅太郎君

農學博士　從四位勲三等
東京帝國大學教授

君は靜岡縣の人鈴木捨藏君の令弟にして、明治七年四月を以つて生る。明治二十九年東京帝國大學農科大學農藝科を卒業するや直ちに教育界に投ず。

爾來東京帝國大學農科大學助教授、盛岡高等農林學校教授兼東京帝國大學農科大學助教授等を歷任し、現に東京帝國大學農學部教授たり、曾つて明治三十四年農藝化學研究の爲め獨、佛、瑞各國に歷遊し同年農學博士の學位を授與せられ又

明治四十五年再度外國に航し米國を視察研究して歸朝す。

夫人スマ子は故工學博士辰野金吾君の長女にして其の間に一女ありて久仁子と稱す、現に東京市外上澁谷一四一番地に住し電話青山一三九八番たり。

砂田重政君

勳五等　衆議院議員
司法參與官

今や中央政界一輪の名花と謳はれ、一度議政壇上に其の透徹せる政論を吐くや全院を湧かすに足る少壯政治家を我が砂田重政君となす。君は愛媛縣の舊藩士砂田重治君の長男にして、明治十七年九月を以つて生る。

明治三十七年中央大學を卒業するや、直ちに辯護士及び判檢事登用試驗に合格し東京、京都、神戸に司法官たりしが後ち辯護士を開業し尚ほ傍ら榮組、日本給水各株式會社の重役にして、曩に兵庫縣郡部より推されて衆議院議員に當選すること前後二回、而して昭和二年四月田中政友會內閣の出現と共に司法參與官に擧げられ以つて現在に及ぶ。

夫人キヨ子は豫備陸軍中將小原傳君の養女にして內助の聞え高し、現に神戸市山手通六ノ九二番地に住し電話長元町七二六三番なり。

鈴木富太郎君

白石興產株式會社長
宮城農工銀行監査役

君は宮城縣の人鈴木富五郎君の長男にして慶應二年二月を以つて生る。夙に地方實業界に活躍して其の敏腕を振ひ、現に白石興產株式會社々長たる外宮城農工銀行、磐城煉瓦株式會社の重役として知らる。

夫人いし子は宮城縣の人鎌田權五郎君の長女にして君との間に菊藏君、禮吉君及びちとせ子、のち子、みや子等あり、現に宮城縣刈田郡白石に住す。

訪諏方季君

安中電氣製作所取締役
池上電氣鐵道株式會社取締役

君は東京府の人諏訪方三君の三男にして、明治十年十二月を以つて生る。現に前記の諸職にあり。

夫人きく子は東京府士族池尾武成君の五女にして君との間に方夫君、季夫君、良夫君及び方枝子、喜久枝子等あり、現に東京市麻布區本村町一四五番地に住し電話高輪七二一六番たり。

鈴木隆君

株式會社鈴木商會社長
衆議院議員

君は千葉縣の人鈴木良作君の二男にして、明治十五年一月を以つて生る。夙に實業界に投じ、現に株式會社鈴木商會社長たる外角取セルロイド工業、鈴木保隆各株式會社重役にして且つ米穀問屋を營み財界に重きをなす。

曩に東京市會議員に擧げられ且つ千葉縣郡部より推されて衆議院議員に當選し現に其の任にあり。

夫人とら子は東京府の人池田源次郎君の二女にして君との間に實君、秀夫君、保君及び靜子、都子等あり、現に東京市淺草區森下町二〇番地に住し電話淺草三五三四番たり。

×

鈴木周三郎君

鈴木實業銀行頭取
日東紡績株式會社取締役

君は福島縣の人鈴木清治郎君の長男にして、明治九年九月を以つて生る。夙に地方財界に頭角を現はし、其の勢力たるや縣下財界全般に波及し、現に前記の外福島商業銀行、小高銀行、川俣銀行、福島羽二重、福島土地、長澤釀造、福島誠壹、福島瓦斯各株式會社の重役として知らる。

然も尚ほ福島縣多額納稅者として現時直稅三千七百七十余圓を納むといふ。

夫人ハナ子は福島縣の人瓶子長六君の長女にして君との間に周次郎君、利八郎君、勝衛君及びコク子、チウ子、ヒデ子タマ子等あり、現に福島縣信夫郡杉妻村に住す。

×

菅野盛次郎君

從四位勳四等
產業組合中央金庫副理事長

君は東京府士族松本謙之助君の二男にして、明治五年七月を以つて生れ後ち先代是止君の養嗣子となる。

明治三十年東京帝國大學法科大學英法科を卒業するや、官界に投じ爾來秋田、函館、金澤各稅務管理局長、大藏書記官東京稅務監督局長兼東京稅務局長、大阪稅務監督局長、東京稅務監督局長等を歷任し、後ち官を辭して野に下り現に產業組合中央金庫副理事長として知らる。

夫人崎子は熊本縣の人河野通倫君の三女にして君との間に盛一君及び三八子、ミチ子、すみ子、すず子等あり、現に東京市小石川區宮下町三十七番地に住す。

鈴木章之君

正七位勳六等
東洋麻糸紡績株式會社常務取締役

君は福島縣の人鈴木龜佐君の長男にして、明治八年十月二十七日を以つて生る。夙に鄕校を卒ふるや笈を負ふて上京し、直ちに商船學校に入學し、明治三十四年同校航海科を優秀の成績を以つて卒業するや、選ばれて同校教授に任じ英國留學を命ぜられ、斯學を研鑽すること二年有半、造詣を深くして歸朝す。

然して歸朝後は引き續き同校に教鞭を執り、其の新進の學理を傾注して幾多學徒の薰陶に盡瘁すること甚大なりしが、明治四十三年感ずるところありて斷然教職を擲ちて歐米漫遊の途に上り、彼の地の經濟界を視察見學して歸朝す。

斯くて實業界に投じて君が才腕を縱橫に振ひ、大正七年東洋麻糸紡績株式會社の創立に參畫して、其の設立を見るや推されて同社常務取締役に就任し以つて現在に及ぶ。

君や天資穎明にして性闊達、而も其の博學たる蓋し凡輩を脱す、就中勞資問題に關する其の蘊蓄に至りては專門家道學先生達も遠く及ばざるところ、今や純正學理の把持者であり、且つ又新興大日本財界の一異彩として令名を謳はれ、前途益々多事、且つ多望なりと謂ふべし。

夫人きみ子は福島縣の人白井遠平君の五女にして君との間に一雄君、大二郎君及び敏子、道子、章乃子、好子、千惠子和子等あり、現に東京市本郷區駒込千駄木町三六番地に住し電話小石川二八八五番たり。

鈴木德男君

醫學博士　從四位勳五等

君は兵庫縣士族鈴木近長君の長男にして、文久三年十一月を以つて生る。明治二十四年東京帝國大學醫科大學を卒業し大正二年醫學博士の學位を受け、縣立神戸病院長たること二十余年にして大正十二年十二月辭す、曾つて歐洲各國に出張せしことあり。

夫人キン子は埼玉縣の人鈴木敏行君の養女にして其の間に武雄君、三八男君、四十二男君及びウメ子、チョウ子等あり現に神戸市中山手通七ノ番外三十八番地に住し電話元町五〇六番たり。

鈴木梅四郎君

齋南製糖株式會社長
日本鑛業株式會社長

君は長野縣の人鈴木龍藏君の三男にして、文久二年四月を以つて生る。夙に慶應義塾大學を卒業するや、直ちに時事新報記者として聘せられ操觚界に活躍せしが、後ち横濱貿易新聞社長に任じ、敏腕を振ふて啓蒙開發に盡瘁せり。

然して實業界に轉じ、王子製紙株式會社取締役、日本殖民株式會社々長、日本鑛業株式會社々長たる外臺灣森林工業株式會社會長、晩成事業株式會社常務取締役等を始めとして共同火災保險、小涌谷ホテル、帝國通信社、東洋印刷、三越呉服店各株式會社の重役にして我が財界の巨頭として令名あり。

現に東京市麹町區四番町三番地に住し電話四谷二三二一番たり。

鈴木清助君

今井商業銀行常務取締役
山形縣會議員

君は山形縣の人先代清助君の長男にして、明治二十六年二月を以つて生れ後ち前名亮一郎を改めて襲名す。

夙に東京農業大學を卒業するや直ちに地方產業振興を以つて任じ、即ち翻然として歸鄉し、大いに地方財界に活躍し現に今井商業銀行常務取締役たる外山形電氣株式會社取締役たり。

然して深く地方自治制に心を盡し縣政に參與して君が敏腕を振ひ、現に山形縣會議員として令名あり。

夫人イチ子は山形縣の人粕谷九左衞門君の長女にして君との間に一郎君、二郎君及び方子等あり、現に山形縣西村山郡大谷村に住す。

杉山茂太君

土木建築設計工事請負業
杉山工務店代表社員

今や本店事務所を東京市麹町區飯田町に有し、其の專屬工場を東京府下大島町に有して帝都復興事業の第一線に臨んで活躍し、斯界の信望を博しつゝあるを我が合資會社杉山工務店代表社員杉山茂太君となす、君は杉山卯三郎君の長男にして明治九年七月五日を以つて生る。

夙に明治義會中學を卒業するや直ちに第一高等學校に入學せしも後ち感ずるところありて斷然學を廢し、實業界に雄飛せんとの大志を抱いて清水組に入社し、恪勤精勵すること十余年、其の間具さに土木建築の經驗を積み、後ち轉じて橋本組に入りて實地に研究する事八ヶ年、愈々獨立の機運熟するや大正七年敢然起つて杉山工務店を開設するに至る。

爾來君の誠實と不撓の奮闘とは相俟つて漸次斯界に頭角を現はし、其の今日迄の事業經路を一瞥するに其の請負ひたる建築物は何れも有數なるものゝみにして陸軍被服廠赤羽工場を初めとして日本製麻株式會社工場及び同倉庫、日本硝子工業株式會社、上毛モスリン株式會社工場富士製紙株式會社本社鐵筋コンクリート七階等にして今や東都業界の白眉を以つて目さる。

君や天資穎明にして識高見、性闊達にして社交に通じ、又一面情熱豐かなる士にして而も君の宗教哲學的內的生命の豐富と、美術骨董の愛好とは人をして自ら畏敬たらしむるものなり、蓋し君の今日の大を成す又宜なりと言ふべし。

夫人良子は京都府の人巖茂藏君の長女にして京都府立高等女學校の卒業たり、現に東京市麹町區飯田町六丁目二十二番地に住し電話四谷五二六二番七一一五番なり。

鈴木常松君

大阪書籍株式會社常務取締役

君は大阪府の人鈴木善七君の長男にして、明治三年一月を以つて生る。夙に圖書出版界に志し、修文館と稱して書籍商を營み現に大阪書籍株式會社常務取締役たる外修文館書肆を經營し、且つ大阪書籍雜誌商組合組長たり。

夫人をハル子と稱し大阪府の人田松之助君の二女にして其の間に七男三女あり現に大阪市東區博勞町五ノ五六番地に住し電話船場四四〇番たり。

杉田直樹君

醫學博士
東京帝國大學教授

我が醫學界に於ける少壯學者として且つまた精神病學の泰斗として錚々の名あるを杉田直樹君となす、君は明治二十年九月を以つて東京市芝區琴平町に生る。天資穎明才幹衆に秀で夙に郁文館中學校より第一高等學校に進み、同校を經て東

京帝國大學醫科大學に學び、大正元年優秀の成績を以つて同學を卒業するや更に精神病學を專攻す。

然して翌年九月選拔せられて文部省海外留學生として獨逸に留學し、ミュンヘン大學に入りクレペリン、スピールの兩教授に師事して斯學の研鑽に耽り其の薀奥を極め、偶々歐洲戰亂勃發するや和蘭英國等を經て米國に轉學し、費府ウヰスター研究所に入りドナルドソン教授に就きて比較神經學の研究をなし、造詣愈々深くして大正七年五月芽出度く歸朝す。

爾來東京帝國大學醫科大學精神病學講師に任じ、君が博大なる學識を傾注して幾多學徒の血を湧かし、大正十年一月醫學博士の學位を授けられ、同年四月助教授に陞進し以つて現在に及ぶ。

君や性闊達、辯論透徹して毫も偏するところなし、今や少壯學者として前途を矚望せられ、專門學上並びに教育病理學犯罪心理學等に關する名著尠なからず、又專門學以外の哲學及び文學等內外の書に造詣深く、文筆を能くする等所謂現代醫學者先生達の到底追從を許さゞるところ、眞に我が國醫學界の一異彩たるを失はざるべし。

夫人を輝子と稱し、內助の聞え高し、現に東京市本郷區駒込西片町十番地に住し電話小石川一九二三番たり。

菅波角之助君

帝國酒造株式會社常務取締役
日本製鋼株式會社取締役

君は福島縣の人酒井良平君の叔父君にして、明治五年三月を以つて生れ後ち明治三十八年菅波家の養嗣子となる。

夙に實業界に活躍し現に帝國酒造株式會社常務取締役たる外日本製鋼、東京信用銀行、極東製藥各株式會社の重役として我が財界に重きをなす、曾つてローヤルセルロイド株式會社取締役たりしことあり。

夫人フミ子は福島縣の人白井遠平君の三女にして君との間に稱事君、康平君、淳君、啓吉君及び柳子、紹子等あり、現に東京市小石川區久堅町二六番地に住し電話小石川四六五番たり。

杉梅之治君

正六位勲五等
東京市淺草區長

君は岡山縣の人杉孫太郎君の三男にして、明治七年六月二十七日を以つて眞庭郡落合町大字西河內に生る。夙に鄕校を卒ふるや靑雲の志を抱いて東上し、孜々として研鑽を怠らず、明治三十一年八月中央大學の前身たる東京法學院大學を優秀の成績を以つて卒業するや、同年九月文官普通試驗に合格し、更に斯學の薀蓄を究むべく東京警察監獄學校に學び、明治三十三年七月同校を卒業せり。

然して同年九月職を官界に奉じ、拔擢せられて岡山縣警部を拜命、時に年齒僅かに二十六才、矢掛、勝間田各分署長を經て斯官登龍一線の門地として異名を冠せらるゝ彼の倉敷に赴く、即ち遙かに前程を望んで南備の原に旗幟を飜へして白馬金鞍の試練に任ぜるなり。

果せる哉、新任早々君の眼前に二大事件は展開せらる、その一は當時關西財界の巨頭故坂本金彌氏の所有に屬する帶江鑛山に於ける爆彈不隱事件にして、該事件たるや決して輕々の擧措に出づべからず、即ち一面數千人の人命に係り、他面社會安寧の上懸る、然りと雖も流石は兩雄の善處、彼の英斷と此れの慧眼とは相俟つて、能く大事を見すして未然に解決を告げせり。

更にこれと相前後して倉敷紡績の惡疫猖獗せるに際し、これ又大事に至らずして沈靜防遏の途を講じ、斯くて我が靑年名署長の名は一時に天下に喧傳せらる。

明治四十一年六月山梨縣に移り同縣衞生課長、保安課長、警務課長、巡査敎習所長等を歷勤して大正四年一月同縣警視に任じ、高等官八等に叙し甲府警察署長に拔擢せられ、同年三月正八位に叙し更に翌年一月高等官七等に昇叙し、同年三月從七位に叙せらる。

大正六年六月同縣北都留郡長の椅子を贏ち得、翌年四月正七位に叙し同六月勳六等に叙し瑞寶章を授けらる。

偶々大正七年八月佐作香川縣知事に聘せられて同縣に赴き、仲多度郡長、綾歌郡長等を歷任し、其の間郡制廢止の前期に際會せしかば君能く萬般の整理に敏腕を振ひ、大正十二年二月鄕里岡山縣御津郡長に轉じ、愈々君が天禀の行政的才量を縱橫に發揮し、能く地方行政の改善發達に盡瘁し、大正十二年九月正七位に翌年七月特に勳五等に昇叙し、瑞寶章を授けられ同年十二月官を辭して野に下る。

然して爾來野にあり悠々たること僅かに二春、君の優れたる敏腕と卓越せる識見とを以つて徒らに淸光するは國家の爲め惜むべきことゝなし遂に大正十四年四月推されて東京市淺草區長に擧げられ、今や東京市政に參畫して君が多年の經倫を行ふ、必ずや同區の爲め貢献する又疑ひなかるべし。

現に東京市外中野町大字打越二一七四番地に住し電話中野五五四番たり。

鈴木康太郎君

浦和商業銀行取締役

君は埼玉縣の人鈴木順太郎君の長男にして、明治二十二年一月を以つて生る。夙に地方產業開發に心を碎き即ち實業界に雄飛して活躍大いに努め、現に浦和商業銀行取締役にして且つ埼玉縣多額納稅者として當地方財界に聲名あり。

夫人たけ子は埼玉縣の人井原誠一郎君の令妹にして其の間に裕君、敏夫君、通夫君及び和子等あり、現に埼玉縣北足立郡尾間木に住す。

鈴木圭三君

中部企業株式會社監査役
東京株式取引所一般取引員

君は愛知縣の人鈴木嘉一郎君の令弟にして、明治五年二月を以つて生る。夙に東都實業界に活躍して令名を馳せ、現に

萬屋商店と稱して東京株式取引所一般取引員にして且つ傍ら中華企業株式會社監査役たり。

夫人喜美子は東京府の人加茂捨次郎君の令妹にして君との間に一衛君、耐次君藤五郎君及び喜代子、登代子等あり、現に東京市赤坂區表町四丁目十三番地に住し電話青山六九〇番たり。

杉　塚　磨　君

從四位勳四等
宮内省内藏頭

君は岡山縣の人杉哲太郎君の二男にして、明治十五年十二月を以つて生る。夙に學に厚く、郷校を卒ふるや笈を負ふて東上し、研鑽琢磨、明治四十二年東京帝國大學法科大學政治科を優秀の成績を以つて卒業す。

然して職を官界に奉じ、遞信省に入りて貯金局事務官、同書記官を經て、大正三年宮内省に轉じ書記官に任命せられ、爾來内匠寮經理課長、工務課長、大臣官房用度課長、宮内省參事官、大臣官房庶務課長兼秘書課長等を歷任し、大正十五年一月宮内省内藏頭に任ぜられ以つて現在に及ぶ。

夫人庫子は東京府の人三好貞雄君の令妹にして君との間に健作君、正作君及び幸子、歌江子、良江子等ありて二男正作君は岡山縣の人杉ます子の養嗣子となる現に東京府豐多摩郡野方町字上沼袋一三二番地に住し電話中野五六二番たり。

鈴　木　榮　助　君

東洋コルク工業株式會社監査役

君は廣島縣の人難波榮次郎君の令弟にして、慶應三年五月を以つて生れ後ち先代クラ子の養嗣子となる。夙に地方財界に活躍して異數なる成功を贏ち得、現に東洋コルク工業株式會社監査役にして且つ廣島縣多額納税者として直税四千六十六圓を納むといふ。

夫人ゆき子は廣島縣の人淺田保次郎君の長女にして君との間に子女なし、現に廣島市塚本町に住し電話四八六番たり。

鈴　木　市　之　助　君

旭電化工業株式會社專務取締役
日本電線株式會社監査役

君は京都府の人木村長兵衛君の二男にして、明治十五年二月を以つて生れ後ち先代エイ子の養嗣子となる、夙に學に厚く明治三十六年慶應義塾大學理財科を優秀の成績を以つて卒業するや、直ちに米國に留學しコロンビヤ、エール各大學に學び其の蘊蓄を積みて歸朝す。

然して古河合名會社に入社し、後ち古河家經營の博愛生命保險株式會社に轉じ同社專務取締役に就任し、現に旭電化工業株式會社專務取締役社長として内外の社務を鞅掌し、君が新進の學理と多年の經驗とを以つて愈々同社の發展に盡瘁し傍ら日本電線、原町紡績各株式會社の重役として我が財界に名あり。

夫人トク子は佐賀庄三君の令妹にして内助の聞え高く、君との間に市郎君、康治郎君、亮三君及び春子、園子等あり、現に東京市麻布區狸穴町十六番地に住し電話青山六〇九九番たり。

末　永　壽　君

明治運輸株式會社長

君は福岡縣士族末永二六君の令弟にして、慶應元年二月を以つて生れ後ち先代フク子の養嗣子となる。夙に地方實業界に活躍し、現に明治運輸株式會社々長として知らる。

夫人ゆき子は福岡縣士族鈴木槙五郎君の令妹にして君との間に弘海君及び照子、實枝子、とき子、昌子、ミエ子、キヨ子等あり、現に福岡縣福岡市濱町三七番地に住す。

須　田　宣　君

鬼怒川水電會社監査役

君は山梨縣の人須田耕君の長男にして明治十一年三月を以つて生る。夙に財界に投じ曩に金剛山水力電氣、加富登麥酒各株式會社の重役たりしが現時は前記株式會社の監査役たり。

夫人をかめの子と稱し君との間に堅太郎君、清次郎君、榮三郎君及び鶴子、ちか子、ひで子等あり、現に東京市赤坂區青山高樹町十二番地に住し電話青山一九二番たり。

周　布　兼　道　君

男爵　從四位
貴族院議員

當家は先代公平君より其の家名を擧ぐ公平君は明治九年司法權少丞に任ぜられ爾來太政官少書記官、同權大書記官、參事官議官補、法制局參事官兼外務省參事官、内閣書記官長、兵庫縣知事、行政裁判所長官、神奈川縣知事、樞密顧問官等を歷任し且つ貴族院議員に勅任せられ、明治四十一年特旨を以つて華族に列し男爵を授けらる。

君は其の長男にして明治十五年三月を以つて生れ、大正二年襲爵仰せ付けらる曩に伊太利に遊び又曾つて逗子電燈株式會社會長たる外相模水力電氣株式會社常務取締役及び小田原電燈、山田炭礦、大和電爐工業各株式會社の重役たりしことあり。

趣味として撞球を能くするが如し、夫人を鑑子と稱し伯爵副島道正君の令妹にして華族女學校の出身たり、現に東京市四谷區南町八八番地に住し電話四谷三〇三〇番たり。

菅　原　大　太　郎　君

安田銀行常務取締役
江井ヶ島酒造株式會社取締役

君は兵庫縣の人菅原寅太郎君の長男にして、明治二年八月十五日を以つて生る夙に郷校を卒ふるや青雲の志を抱き笈を負ふて東上し、英吉利法律學校、神田共立學校等に學び後ち第一高等學校に入學し、研鑽琢磨、同校を經て明治三十一年東京帝國大學法科大學を優秀の成績を以つて卒業す。

然して直ちに實業界に投じ、第百三十

銀行に入りて同行小倉支店長、門司支店長等を歴勤して本店庶務部長に轉じ、明治四十年九月拔擢せられて同行韓國支店總支配人に擧げられ、朝鮮財界に令名を馳せしが同四十四年第三銀行に轉じて同行支配人に就任し、累進して同行常務取締役として同行發展に貢献すること甚大なりき。

偶々大正十二年十一月銀行大合同の結果安田銀行に併合せらるゝや君又同行に轉じ、其の取締役兼總監督に推擧せられ後ち同行常務取締役に推され、現に其の要職にある傍ら江井ヶ島酒造株式會社取締役にして、今や我が財界の重鎭として錚々の名あり。

夫人しげ子は東京府の人卜部兵吉君の長女にして其の間に太郎君、恒次郎君等あり、現に東京市本郷區駒込西片町十番地に住し電話小石川二〇五五番たり。

鈴木紋次郎君

貿業家

君は岐阜縣の人大洞彌兵衛君の令弟にして、明治十三年三月を以つて生れ後ち先代タカ子の入夫となる。明治三十八年東京商科大學の前身たる東京高等商業學校を卒業するや、直ちに財界に投じ第一銀行に入りて預金課長たりしことあり。

現時は淺野造船所、鈴木洋酒店、庄川水力電氣、淺野石材工業、淺野同族、神奈川コークス、内外石油、京濱運河、關東水力電氣、千代田石油各株式會社の取締役にして且つ日之出汽船、中央製鐵、淺野物産、日本鑄造、鶴見木工、日本銑鐵各株式會社の監査役にして其の他大小多數諸會社の重役として我が財界に令名高し。

夫人たか子は財界の巨星淺野總一郎君の五女にして君との間に羊夫君、崇君、至君及び純子、潔子、淳子等あり、現に東京市芝區田町六ノ九番地に住し電話高輪三五一番たり。

杉崎靜夫君

齋藤製作所專務取締役
太田商事株式會社常務取締役

君は岡山縣士族杉崎溫君の長男にして明治二年十月を以つて生る。早くも本邦實業界に雄飛せんとの大志を抱き、即ち入りて君が天與の才量を自由に振揮し、斯界に盡瘁すること甚大なりき。

現に株式會社齋藤製作所專務取締役たる外太田商事株式會社常務取締役にして且つエビス研磨材、北門銀行各株式會社の重役として知らる。

夫人千見代子は岡山縣の人長尾市三郎君の令妹にして君との間に重遠君、重明君等あり、現に東京市赤坂區福吉町一番地に住し電話青山四三二六番たり。

須田馬太郎君

前橋倉庫株式會社監査役
上毛實業銀行取締役

君は群馬縣士族須田千五作君の長男にして、明治十八年八月を以つて生れ後ち先代十九平君の養嗣子となる。夙に地方財界に投じ、現に前記の諸職にありて地方財界に重きをなす。

夫人ひで子は文學博士遠藤隆吉君の令妹にして君との間に一男四女ありて保之助君及びあい子、のぶ子、れい子、たき子と稱す、現に前橋市天川町八四番地に住す。

×

鈴木隆晴君

帝國電氣株式會社長
大同電氣株式會社取締役

君は鈴木豊治郎君の二男にして、明治十九年三月二十一日を以つて生る。夙に實業界に雄飛し曩に東京電燈株式會社技手、甲府電力株式會社技師たりしが、後ち大同電氣の前身たる關東電氣株式會社を創立して同社專務取締役に就任し、更に帝國電氣株式會社を創立し、現に同社々長たる外大同電氣、大島電氣拓殖、原釜電氣各株式會社の重役として知らる。

曾つて株式會社東京電氣鐵工所取締役たりしことあり、書畫骨董を愛好し、政治及び事業に奔走するを以つて唯一の道樂なりといふ。

夫人錦子は山田忠藏君の長女にして和洋裁縫女學校を卒業し其の間に隆文君、大次郎君及び一榮子等あり、現に東京府荏原郡平塚村洗足田園都市二四八番地に住し電話高輪四七〇八番なり。

杉下正命君

東京博善株式會社取締役

君は愛知縣の人杉下兵治郎君の長男にして、明治五年十月を以つて生る。夙に鄕校を卒ふるや笈を負ふて東上し、明治二十五年慶應義塾大學を卒業して直ちに實業界に投じ、現に東京博善株式會社取締役にして且つ池袋珐瑯工場經營者として知らる。

夫人とき子は愛知縣士族牧野田六君の四女にして其の間に祐次郎君、六郎君及びのぶ子、百代子、きよ子等あり、東京市小石川區大塚仲町二六番地に現住す。

須田萬右衛門君

美濃銀行取締役
岐阜縣多額納稅者

君は岐阜縣の人須田萬右衛門君の長男にして、明治十四年一月を以つて生れ前名英一を改めて襲名す。

夙に地方財界に活躍して驥足を縱横に伸ばし、現に美濃銀行取締役にして尙ほ岐阜縣多額納稅者として直稅多額に及び同地方有數の實業家として令名あり。

夫人なを子は愛知縣の人吉田吉兵衛君の令妹にして君との間に喜智雄君及び錦子、雪子、絲子等あり、現に岐阜縣武儀郡美濃町に住す。

鈴木愛作君

株式會社小林運送店取締役
小林運送店隅田川支店長

東都通運界に錚々の名ある我が株式會社小林運送店の各支店中、其の最も樞要なるを隅田川支店となす、而して同支店長小林愛作君は群馬縣の人小林重三郎君

の三男にして、明治八年七月一日を以つて碓氷郡安中町に生る。

夙に郷校を卒ふるや大志を抱いて上京し、直ちに東都實業界に投じ、小林運送店に入りて恪勤精勵すること數年、後ち小林運送店社長鈴木五三郎君の經營に係る隅田川運送店支配人に擧げられ、明治四十四年十月同店を君の名義に變更して獨立經營に任じ、愈々業務の大擴張を計り着々として斯界に堅實なる地歩を占め後ち隅田川運送組合幹事、同組合長等に推擧せらる。

偶々大正九年三月小林運送店が資本金五十萬圓の株式會社に變更せらるゝや、君は業務一切を擧げて同社に合同して隅田川支店となし君は同支店長に任じ兼ねて同社取締役に推され以つて現在に及べり、先是懇請せられて鈴木家の養嗣子となりて其の姓を冒し、以つて鈴木三五郎君の義弟となる。

君や資性温厚篤實にして人と接するに極めて懇切なり、旅行を好み未知未聞の土地を跋渉するを唯一の樂しみとなし、又書畫、骨董を愛好すといふ、夫人乙津子は東京府の人林周藏君の二女にして内助の開え高し、東京府北豊島郡南千住地方橋場一三七番地に住し電話淺草二五一番たり。

杉村七太郎君

醫學博士　正五位勳四等
東北帝國大學醫學部教授

君は靜岡縣の人杉村七重郎君の長男にして、明治十二年十二月を以つて生る。明治三十九年東京帝國大學醫科大學を卒業するや、更に大學院に入りて外科學を專攻し、後ち佛國に留學して斯學の研鑽に耽り、造詣を深くして歸朝す。

爾來東京帝國大學助手、新潟醫學專門學校教授等を歴任し、現に東北帝國大學醫學部教授にして且つ同大學附屬醫院長同大學評議員たり、曩に醫術開業試驗委員仰せ付けられ且つ大正十二年歐米に視察出張を命ぜらる。

夫人琴子は靜岡縣の人岡田良平君の令妹にして其の間に一女ありて郁子と稱す現に仙臺市堤通二七番地に住す。

末繁彌次郎君

日本證券株式會社監査役

辯護士實業家末繁彌次郎君は山口縣の人末繁五郎君の三男にして、明治十七年三月二日を以つて生る。明治三十八年七月日本大學を卒業するや辯護士登用試驗に登第し、現に辯護士として東都法曹界に令名ある傍ら日本證券、北日本興業各株式會社の重役として知らる。

夫人義子は大阪府の人後藤義三郎君の五女にして日本橋高等女學校を卒業し君との間に英太郎君、喜久子等あり、現に東京市神田區仲猿樂町十七番地に住し電話神田二七六四番たり。

菅野修藏君

小倉製紙所取締役支配人

君は兵庫縣士族菅野正盛君の二男にして明治十四年二月を以つて生る。夙に地方實業界に身を投じ、現に株式會社小倉製紙所取締役支配人として知らる。

夫人たか子は東京府の人吉水大智君の長女にして君との間に正義君及び邦子、敏子等あり、小倉市古船場町一五〇番地に現住す。

鈴木太郎君

帝國物産株式會社常務取締役
阿部商事株式會社取締役

君は長野縣士族鈴木健君の長男にして明治四年二月を以つて生る。夙に郷校を卒ふるや大志を抱いて上京し、直ちに東都實業界に投じて活躍大いに努め、君が敏腕を縱横に振展し、現に前記の外東京コークス販賣、唐津工業、山元オブラート、日本莊園、中央屑物市場、相模運輸各株式會社の重役として我が財界に令名あり。

夫人猛子は長野縣士族原澤鑑太郎君の長女にして君との間に次男君及び梅子、竹子、鶴子等あり、現に東京府荏原郡入新井不入斗八八番地に住し電話大森十一番たり。

栖原啓藏君

富士製紙株式會社常務取締役
新田製粉株式會社取締役

君は和歌山縣の人栖原角右衛門君の二男にして、明治八年三月を以つて生る。夙に郷校を卒ふるや青雲の志を抱き笈を負ふて東上し、研鑽琢磨螢雪の功空しからず、明治二十九年東京商科大學の前身たる東京高等商業學校を優秀の成績を以つて卒業す。

然して後ち實業界に投じ、君が蘊蓄を傾倒して異數の敏腕を振ひ、現に富士製紙株式會社常務取締役として内外の社務を執掌する傍ら新田製粉、北海道電燈、靜岡電力各株式會社取締役にして且つ樺太鐵道、中央開墾各株式會社監査役として我が財界に令名高し。

夫人薫子は東京府の人山内德三郎君の四女にして君との間に正君、毅君、繁君及び亮子、潔子、妙子、美代子、富士子等あり現に東京市麹町區土手三番町二六番地に住し電話四谷五二一〇番たり。

鈴木虎之助君

亞細亞製輪工業會社取締役

君は愛知縣の人加藤貞吉君の二男にして、明治五年三月を以つて生れ後ち先代そふ子の入夫となる。夙に東都財界に投じ現に亞細亞製輪工業株式會社取締役として知らる。

夫人そふ子は先代勝藏君の五女にして君との間に力衛君、斷雄君及び妙子、科子等あり、東京府荏原郡玉川に現住す。

菅井角之介君

神戸電機製作所監査役
兵庫縣多額納税者

君は兵庫縣の人菅井要助君の長男にして、明治七年十月を以つて生る。現に阪神財界の重鎮として知られ、夙に酒造業

を營み傍ら神戸電機製作所監査役たり。

尚ほ兵庫縣多額納稅者として現に直接國稅三千八十余圓を納むといふ。

夫人つる子は大阪府の人橋本治助君の令妹にして君との間に濱子、千鶴子、淳子等あり、現に兵庫縣武庫郡御影に住し電話御影六五八番たり。

杉浦文一君

大同電氣株式會社專務取締役

君は愛知縣の人杉浦惣七君の四男にして、明治十六年三月十四日を以つて生る。夙に鄕里にありて普通學を修むるや、直ちに笈を負ふて東上し、研鑽を積むこと多年、後ち實業界に投じて君が敏腕を縱横に振ひ、大正八年關東電氣株式會社專務取締役に就任し、内外の社務を鞅掌して同社の發展に貢献すること甚大なりき。

然して大正十四年同社が大和電氣株式會社を併合して大同電氣株式會社と改稱せらるゝや引き續き同社專務取締役の要職に就任し、今や芝區田町、麻布及び府下巣鴨等に廣大なる工場を有し、東都同業界に重きをなす、蓋し君の力與つて大なりと謂ふべし。

趣味多樣にして、就中書畫、骨董を愛好し、社交に厚く電氣倶樂部、鐵道協會各會員たり、夫人をのぶ子と稱し内助の聞え高く、其の間に總輔君、定夫君、東逸君等あり、東京市芝區三田四國町十五番地に現住し電話高輪三七八六番たり。

須田國雄君

高千穗商會主
シトロエン自動車株式會社取締役

新進の學理と實際とに精通し、正に新日本財界に飛躍して前途多望なる新進實業家を我が須田國雄君となす。君は愛媛縣士族櫻井靜君の令弟にして、明治十一年七月四日を以つて生る。

夙に鄕校を卒ふるや青雲の志を抱いて東上し、明治三十六年東京帝國大學工科大學舶用機關科を卒業し、直ちに横濱船渠株式會社に入り、後ち川崎造船所技師として聘せられ、社命を帶びて舶用機關研究の爲め米國に渡航し、研鑽すること五ヶ年、造詣を深くして歸朝するや同社造船部長助役に任ぜられ、同社の爲め盡瘁すること甚大なりき。

然して大正六年之を辭して再び横濱船渠株式會社に轉じ造機部長として君が蘊蓄を傾注し、大正十一年同社を辭して獨力以つて高千穗商會を創立し、外國諸機械の販賣を開始し傍らシトロエン自動車株式會社の取締役として令名高し。

夫人ハル子は東京府の人須田利信君の長女にして東京女學館の卒業たり、現に東京市四谷區鹽町一ノ三〇番地に住し電話四谷三〇三二番なり。

角彌太郎君

株式會社日立製作所取締役

君は廣島縣の人角品藏君の長男にして明治三年十一月を以つて生る。明治二十七年法政大學を卒業するや直ちに實業界に投じ、現に株式會社日立製作所取締役として知らる。

夫人わか子は東京府の人池田半藏君の二女にして君との間に浩君、正郎君及び靜枝子等あり、現に東京府豐多摩郡中野町一一二〇番地に住す。

菅音次郎君

兵庫縣多額納稅者
神戸商業會議所議員

當家は代々淡路に住し農業を以つて其の業とせしが、祖父菅新兵衛君志を立て丶阪神に移り、其の女たみ子才智ありて獨力茶商を營み家運漸次昇りぬ。

君は大阪府の人川口源七君の三男にして、慶應元年四月を以つて生れ後ち女將たみ子の養子となる、而して堅實克く先代の茶商を守りて益々發展に赴かしめ菅園と稱して阪神地方に名あり。

然して事業に專念たる傍ら公共事業に盡瘁し、現に神戸商業會議所議員にして且つ兵庫縣多額納稅者として直接國稅二千七百八十余圓を納むといふ。

杉本敏治君

合資會社六盟館代表社員

君は東京府の人杉本七百九君の二男にして、明治二十三年十一月二十六日を以つて生る。夙に普通教育を修むるや更に慶應義塾大學理財科に學び、優秀の成績を以つて同學を卒業す。

然して身を實業界に投じ嚴父の經營に係る六盟館合資會社に入りて、嚴父を援けて圖書出版界に活躍し、後ち嚴父他界するや君其の後を繼承して同社代表社員に任じ、能く内外の社務を鞅掌し君が新進の學理と經驗とを以つて斯界に飛躍せしかば、遂に今日の大を成するに至り今や我が六盟館の名全國に普ねし。

夫人なか子は東京府の人篠田鐵造君の長女にして君との間に壽子、彌生子等あり、東京府下雜司ヶ谷三五一番地に現住し電話牛込三二四九番たり。

杉村博通君

庄川水電株式會社常務取締役

君は東京府の人杉村喜兵衛君の長男にして、明治七年五月を以つて生る。夙に實業界に投じ、現に庄川水電株式會社常務取締役たり、因に君は工學士たり。

夫人しづ子は東京府の人橋本敏行君の長女にして其の間に博昌君、章君、三郎君及び恒子、文子等あり、現に東京府荏原郡大崎町下大崎七十二番地に住し電話高輪二五六八番なり。

杉本東造君

醫學博士
杉本胃腸病院長

君は新潟縣の人杉本直形君の二男にして、明治六年十月を以つて生る。明治三十五年東京帝國大學醫科大學を卒業し、

大正四年醫學博士の學位を授與せられ、現に杉本胃腸病院長として東都刀圭界に聲名あり。

夫人ミサオ子は新潟縣の人間島和一郎君の長女にして其の間一女ありて貞子と稱す、現に東京市神田區錦町三ノ一番地に住し電話大手五六四三番たり。

杉浦儉一君

從四位勳三等
日本勤業銀行理事

君は東京府士族杉浦讓三君の三男にして、明治十年十一月二十一日を以つて生る。夙に開成中學校の前身たる共立學校を經て、明治三十四年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し翌年文官高等試驗に應じて首尾よく登第し、直ちに職を官界に奉じて大藏省試補、煙草專賣局事務官同參事官、大藏省參事官、專賣局經理課長、同事務部長等を歷任し後ち官を辭して野に下り、實業界に入りて南滿洲鐵道株式會社理事に任じ、現に日本勤業銀行理事として令名あり。

趣味廣く謠曲、圍碁等は其の最なるものにして、就中謠曲の如きは已に素人の域を脫し、月の夕べ、雪のあした、折ふしに吟ずる君が艶曲は又一夕のあわれを催し、近隣に育つ虫けらも遂に其の音に同ずること又珍らしからずといふ、以つて君の藝の程を窺ふに足るべし。

夫人とし子は靜岡縣の人堀江榮太郎君の長女にして女子學習院を卒業し、君との間に俊介君、敏介君、欣介君及び操子梅子、愛子等あり、現に東京府下西大久保町四一一番地に住し電話四谷一五一五番なり。

×

菅原英伍君

仙臺電氣工業株式會社取締役
衆議院議員

君は宮城縣の人菅原金兵衛君の二男にして、明治十九年六月を以つて生る。明治四十四年東京帝國大學法科大學を卒業するや、直ちに實業界に入りて現に仙臺電氣工業、齊川電氣、仙賀北電氣、廣瀨電力各株式會社の重役にして且つ辯護士を開業し仙臺地方法曹界に令名あり。

曩に宮城縣民多數の推すところとなり馬を陣頭に進めて奮鬪の結果、遂いに當選の榮譽を擔ひ衆議院議員に擧げられ今や中央政界に重きをなす。

夫人すみ子は宮城縣の人岩井久兵衛君の令妹にして君との間に英一郎君、護君及び光子、和子等あり、仙臺市東三番町一二五番地に現住す。

鈴木一郎君

秋田鑛業株式會社取締役
荒川鑛山長

君は埼玉縣の人鈴木謙十郎君の長男にして、明治十五年四月を以つて生る。明治四十二年東京帝國大學工科大學採鑛冶金科を卒業するや直ちに三菱鑛業株式會社に入り、奥山鑛山長事務代理、槇峯鑛山所長等を歷任し同社參事に進み、現に尾去澤鑛山長兼荒川鑛山長たる外秋田鑛業株式會社取締役たり。

曩に社命を帶びて外國に航し、歐米各國の鑛業界を視察見學して歸朝し、爾來同社の爲め貢獻すること甚大なりと云ふべし。

夫人甲子は東京府の人平野甚三郎君の二女にして君との間に和子、充子、毬子等あり、現に秋田縣鹿角郡尾去澤鑛山社宅に住す。

×

杉浦眞鐵君

日本中學校長

君は勳二等故杉浦重剛先生の長男たり嚴父重剛君は舊膳所藩士杉浦重文君の二男にして安政二年三月を以つて生る。夙に藩儒高橋作也師、黑田行元師に就き漢學及び蘭學を修め、後ち京都の儒者巖垣月洲師の門に入り經史を學び、明治三年貢進生に擧げられ、大學南校に入り同九年六月文部省の命に依り化學研究の爲め英國に留學し、同十三年五月歸朝するや東京帝國大學理學部博物場取締、文部省準奏任御用掛となり博物場並に植物園を管理す。

然して明治十五年東京大學豫備門長、東京帝國大學寄宿舍取締となり同二十一年七月文部省參事官兼學務局次長等に任ぜられ、明治二十三年滋賀縣より推されて最初の衆議院議員に選ばれ、同三十六年六月高等教育會議員仰せ付けられ且つ又私立東京英語學校は實に君の經營せし所にして其の後身は即ち現在の日本中學校にして君は同校々長として永く育英の道に當れり、夙に西洋倫理思想を注入して文化の普及を提唱すると共に國家主義を唱道して西洋模倣主義を排し、東洋學藝雜誌、日本人及び日本新聞を發刊して其の貢献する所蓋し甚大なりき。

君又稱好塾を設けて學生を監督し、同人社を再興し東亞同文書院長、國學院學監として本邦教育界に貢献すること尠少ならず、大正三年五月特に東宮御學問所御用掛仰せ付けられ、大正十三年二月不幸病を得て他界す、時に危篤の報天聽に達するや特に勳二等に陞叙せらる。

實にや「栴檀は二葉より香ばし」我が偉人杉浦重剛先生の嗣子眞鐵君は明治十九年七月を以つて生る。夙に學識衆に秀で、大正二年東京帝國大學林學科を優秀の成績を以つて卒業し、後ち東京市役所水源地林事務所に入り、次いで福島縣技手、東京大林區署技師等を歷任せしも、嚴父病歿に際し其の意思を繼承して新興日本の教育界に盡瘁するに至り、現に日本中學校長として令名あり。

夫人をスマ子と呼び淑德の譽れ高し、現に東京府豐多摩郡淀橋町角筈九番地に住し電話四谷一八三番なり。

杉村虎四郎君

横濱杉村商店代表社員

君は東京府の人杉村甚兵衛君の四男にして、明治二十三年三月を以つて生る。夙に普通教育を卒ふるや直ちに東京商科大學の前身たる東京高等商業學校に學び大正三年同校を卒業して實業界に投じ、

現に合名會社横濱杉村商店代表社員たる外株式會社杉村商店監査役たり。

夫人隣子は東京府の人八十島誠之君の令姉にして君との間に壯一郎君及び祐子直子、素子等あり、現に東京市麹町區三番町七十一番地に住し電話九段四二五六番たり。

×

鈴木摠兵衛君

正六位勳三等　實業家　貴族院議員

君は愛知縣の人日比野茂兵衛君の長男にして、安政三年二月を以つて生れ後ち先代才造君の養嗣子となる。

當家は代々材木商を營み「材總」と稱して斯界に名高く、且つ同縣下財界に重きをなし、現に日本貯蓄銀行頭取たる外愛知時計電機、名古屋倉庫、尾陽土地經營各株式會社々長にして且つ福壽生命保險、福壽火災保險、京都瓦斯各株式會社監査役として知らる。

尚ほ愛知縣多額納稅者にして直稅九千六百八十余圓を納め、曩に多額議員に當選し且つ名古屋商業會議所特別議員たり曾つて米國聖露易萬國博覽會評議員、東洋拓殖株式會社創立委員、名古屋商業會議所會頭等に擧げられ、實業精勵の旨を以つて綠綬褒章を授けられ、又衆議院議員たること五回、日獨事件の功に依り勳三等に叙し特旨を以つて正六位を賜ふ。

夫人のぶ子は愛知縣の人青木新四郎君の令姉にして君との間に一女ありてれい子と稱す、現に名古屋市中町大池に住し電話東三五〇番なり。

鈴木島吉君

朝鮮銀行總裁　勳六等

鈴木島吉君は靜岡縣の人鈴木瀧藏君の長男にして、慶應二年六月二十五日を以つて生る。明治二十二年慶應義塾を卒業するや横濱正金銀行に入社し、同二十八年紐育支店副支配人となり義和團事件の際には轉じて天津支店支配人に推され、後ち上海支店支配人、神戸支店支配人等を經て副頭取に就任し、尚ほ國際信託株式會社取締役會長たりしことあり曩に日露事件の功に依り勳六等に叙せられ瑞寶章を賜ふ。

大正十四年七月朝鮮銀行總裁を仰せ付けられ現に其の任にあり、圍碁、テニス、ゴルフ、謠曲、玉突等趣味多樣なりといふ。

夫人菊枝子は和歌山縣士族林玄泉君の三女にして其の間に長女千代子、二女しま子等あり、東京市麻布區本村町一一八番地に現住し電話高輪五四九四番なり。

鈴木鶴治君

長野商業株式會社長　六十三銀行取締役

君は長野縣の人中村宗作君の令兄にして、明治十二年七月を以つて生れ後ち先代勝之助君の養嗣子となる。夙に長野財界に投じ現に長野商業株式會社々長たる外六十三銀行、大倉製糸工場、信濃電氣各株式會社の重役として聲名あり。

尚ほ長野縣多額納稅者として知られ、現に直稅壹千百十余圓を納むといふ。

夫人しげ子は長野縣の人神林小一郎君の三女にして其の間に子なきを惜むべし現に長野市間御所六番地に住す。

諏訪忠元君

子爵　從三位　芝東照宮祉司

當家は源經基の五男村岡下野守滿快の後裔なり、世々信濃に住し先代忠誠君に至り子爵を授けらる。

君は其の後を享く、君實は伯爵溝口直亮君、子爵五條盛輝君等の叔父君にして且つ子爵增山正興君の養叔父君に當り、明治三年七月を以つて生れ先代忠誠君の養嗣子となり、明治三十一年家督を相續して襲爵仰せ付けらる。

明治二十六年東京帝國大學國文科を優秀の成績を以つて卒業し現に芝東照宮祉司として知らる。

夫人はる子は養父忠誠君の三女たり、現に東京府豐多摩郡中野町桐ヶ谷一〇四五番地に住し電話四谷七九二番たり。

杉山四五郎君

從四位勳二等　內務次官

學窓を出づるや直ちに官界に投じ、多年各樞機に參畫して隨所に其の才腕を振ひ、稀代の能吏として稱揚され、杉山四五郎君は新潟縣の人小川京太君の五男にして、明治三年一月を以つて生れ同二十七年杉山家の養嗣子となる。

當家は代々松本藩士にして先代叙君は維新後官界に入り、丸龜稅務監督局長に昇進して令名あり、君は第一高等學校を經て明治二十七年東京帝國大學法科大學政治科を優秀の成績を以つて卒業し、同三十三年歐米に遊學し歸朝するや、山梨神奈川各縣參事官、秋田縣書記官、內務省參事官、同書記官、高知縣知事、內務省衛生局長等を歷任す。

其の後野に下り大正四年神奈川縣より推されて衆議院議員に當選し、中央政界に令名を謳はれ大正六年再び官途に就き衛生局長に任じ、後ち關東廳事務總長を經て同十年宮崎縣知事に任ぜられ牧民官として同縣の爲め貢献すること二年有半再び野に下り悠々たりしも、昭和二年四月田中政友會內閣成立するや、推されて京都府知事に任じ以つて現在に及ぶ。

夫人若代子は養父叙君の二女にして內助の聞え高し、東京市本郷區切通坂町一七番地に住宅を有し電話小石川三〇七〇番なり。

杉田駿君

杉田商事株式會社長

君は千葉縣の人杉田勇三君の甥君にして、明治十三年十月を以つて生る。夙に實業界に身を投じ現に杉田商事株式會社々長たる外東京製作所、東京保溫材各株式會社の重役として知らる。

夫人を多惠子と稱し君との間に秀雄君耕三君、弘君及び惠子等あり、東京市麹

町區飯田町五ノ三五番地に現住す。

鈴木威君

内國貯金銀行專務取締役
共同保全株式會社專務取締役

君は福島縣士族鈴木久孝君の長男にして、明治十三年四月を以つて生る。現に前記の要職にあり。

夫人ます子は東京府士族玉置源太郎君の三女たり、現に東京市本郷區森川町一番地に住し電話小石川一八四一番たり。

鈴木忠右衛門君

滋賀縣多額納稅者

君は滋賀縣の人鈴木忠司君の長男にして、明治十年十二月を以つて生れ前名忠兵衛を改稱す、縣下多額納稅者の一人として直稅二萬九百二十余圓を納むるを以つて知らる。

夫人ふみ子は滋賀縣の人高井作右衛門君の令妹にして君との間に勤君、省三君春男君等あり、現に滋賀縣蒲生郡北比都佐村に住す。

×

鈴木庄治郎君

正五位勲五等
北海道帝國大學教授

君は宮城縣の人阿部庄作君の長男にして、明治八年十一月を以つて生れ後ち鈴木家に入りて養嗣子となる。明治三十四年東京高等師範學校を卒業するや、更に京都帝國大學に學び明治四十年同學理工科大學純正數學科を卒業す。

然して身を教育界に投じ、長野師範學校教諭兼訓導、東北帝國大學農科大學豫科教授等を歴任し、大正七年北海道帝國大學豫科教授に任じ以つて現在に及ぶ。

夫人なよ子は鈴木與兵衛君の長女にして君との間に一郎君、克二君、憲三君、道雄君及び節子、俊子、しづ江子等あり現に北海道札幌市北一條東七ノ十二番地に住す。

鈴木恒三郎君

原町紡績株式會社長
古河鑛業株式會社取締役

君は豐前舊中津藩士鈴木閑雲君の三男にして、明治六年一月二十七日を以つて生る。夙に笈を負ふて上京し、慶應義塾に學び同二十九年同學を卒業するや、直ちに古河鑛業株式會社に入り鋭意同社の發展に盡瘁し足尾鑛毒豫防法、家政會計整理等に力め、明治三十六年虎之助君に從ひ北米に航し、ハーバート大學に學び尚ほ鑛山及び各種事業を實地に視察して得る所尠少ならざりき。

明治三十九年歸朝し專心足尾銅山の經營に當り、恪勤すること二ヶ年、後ち本社商務課長に轉じ、更に參事の要職に昇り、社の内外に重きをなし、同四十五年社命を帶びて歐米を視察し、歸朝後は古河合名會社理事、大源鑛業株式會社監査役たりしが現時は前記會社の重役として令名あり。

夫人齊子は東京府の人淺田甚右衛門君の令姉たり、現に東京府豐多摩郡中野桐ケ谷一一二二番地に住し、電話四谷九七〇番なり。

×

杉本鶴五郎君

杉本合名會社長
東京府多額納稅者

當家は先々代龜五郎君より其の家名を擧ぐ、君は其の昔越中の農家より出でて大江戸に來り實業界に投じ、龜屋と稱して舶來小間物商を營み、而して先代鶴五郎君同じく父の遺業を繼ぎて恪勤精勵、以つて業務の發展に努めたり。

斯くて業務の大擴張を企圖して店舗を銀座街頭に移轉し、更に和洋酒食料品商を經營せしかば愈々益々發展を加へ業勢頓に擧り、遂に銀座界隈屈指の和洋食料品商として數へらるゝに至れり。

然して當代鶴五郎君は千葉縣の人酒卷長藏君の三男にして明治三年十二月を以つて生る。幼時より當店に手代奉公をなし同店の爲め貢献せしかば、遂いに認められて養子となり前名新藏を改稱せるものなり。

曩に歐米各國の經濟狀況を視察して歸朝し業務の大改革を斷行し、近時は又青森縣下に殖產事業を興して終始事業の改善發達、我が國產業の發展に盡瘁すること甚大、尚ほ東京府多額納稅者にして直稅五千四十余圓を納む。

夫人のぶ子は養父鶴五郎君の二女にして君との間に龜造君、鶴次郎君等あり、現に東京市京橋區竹川町に住し電話銀座七七二番たり。

鈴木達治君

横濱高等工業學校長

從四位勲三等理學士鈴木達治君は愛媛縣の人鈴木禮作君の長男にして、明治四年九月十一日を以つて生る。

明治三十三年東京帝國大學理科大學化學科を卒業し、同四十一年化學工業研究の爲め獨英米の各國に留學し、歸朝後第二高等學校教授兼仙臺醫學專門學校教授廣島高等師範學校教授、東京高等工業學校教授等を歴任し、現に横濱高等工業學校長として知らる。

趣味として圍藝、撞球等あり頗る堪能なりといふ、神奈川縣横濱市根岸町二一五七番地に現住し電話二一五〇番なり。

鈴木長三郎君

資產家

君は宮城縣の人鈴木門三郎君の長男にして、明治二十一年十一月を以つて生る當家は當地方に於ける資產家として先代より羽振を利かし、而して君は其の潤澤なる家庭にありて生を生活し、御蔭を以つて今や當地方に金力的勢力を有して知らる。

夫人操子は宮城縣士族佐々木德之助君の令孫にして君との間に守君、孝君及び千代子、恭子等あり、現に宮城縣宮城郡高砂村に住す。

末廣恭二君

工學博士　從四位勳四等
東京帝國大學教授

君は愛媛縣の人末廣重恭君の二男にして、明治十年十月を以つて生る。明治三十三年東京帝國大學工科大學造船學科を卒業するや、直ちに長崎三菱造船所に入り、明治三十五年東京帝國大學助教授に任ぜらる。

然して明治四十二年應用力學研究の爲め英獨二ヶ國に留學を命ぜられ、同時に工學博士の學位を授與せらる。而して歸朝後も引き續き帝國大學に教鞭を執り同學教授に擧げられ、又大正十二年には工學研究上の功績顯著なるに對し帝國學士院賞を授與せらる。

夫人みつ子は靜岡縣の人桑原爲十郎君の二女にして君との間に恭雄君及び靜子さが子等あり、現に東京市本郷區駒込上富士前町二十八番地に住し電話小石川二〇九番たり。

鈴木岩藏君

大陽曹達株式會社長
帝國人造絹糸會社長

阪神實業界の重鎮鈴木岩藏君は兵庫縣の人鈴木よね子の三男にして、明治十七年二月を以つて生る。夙に實業界に志し奮鬪大いに努め、現に大陽曹達、帝國人造絹糸各株式會社々長たる外日本金屬、鈴木商店各株式會社の重役にして且つ鈴木合名會社理事たり。

夫人慰子は高知縣士族土居通豫君の八女にして君との間に治雄君及び英子、兼子等あり、現に其の住宅を神戸市東須磨大手町に有す。

鈴木茂雄君

大阪電氣分銅株式會社長
大阪商業會議所議員

君は岐阜縣の人鈴木源十郎君の二男にして、慶應元年二月を以つて生る。夙に鄕校を卒ふるや笈を負ふて東上し研鑽能く勉め螢雪の功空しからず、明治二十年早稻田大學商科を卒業し直ちに關西實業界に投じ、現に大阪電氣分銅株式會社取締役社長たる外塚口土地、尼崎伸銅各株式會社の重役として知らる。

尙ほ大阪商業會議所議員にして、大正四年以來同議員として活躍し、以つて今日に至る。

夫人きん子は岐阜縣の人岩塚鴻之輔君の長女にして君との間に五男四女ありて誠君、進君、弘君、道雄君、昌雄君及び絢子、美子、貞子、桂子等あり、現に大阪府住吉町天王寺明治通西丸釜一六一九番地に住し電話南六五五〇番たり。

栖原豐太郎君

工學博士　從五位
東京帝國大學教授

君は和歌山縣の人栖原洋三君の長男にして、明治十年九月を以つて生る。明治四十三年東京帝國大學工科大學機械科を卒業するや更に大學院に學び、後ち東京帝國大學工科大學助教授に任じ現に同學教授たり。

曩に大正七年航空學研究の爲め歐米各國に出張を命ぜられ、同八年工學博士の學位を授けらる、而して大正十年には航空研究所々員に補せられ現在に及べり。

夫人愛子は東京府の人原恭造君の令妹にして東京府立第二高等女學校を卒業し君との間に一郎君、二郎君、壽郎君等あり、現に東京市本郷區曙町七番地に住し電話小石川五八〇三番たり。

杉野喜精君

山一合資會社長
東京府多額納稅者

君は杉野喜永君の長男にして、明治三年九月を以つて弘前市に生る。夙に銀行事務講習所に學び、後ち實業界に投じ曩に株式會社名古屋銀行取締役兼支配人たりしが、現時は山一合資會社代表社員にして、東京株式取引所一般取引員として兜町界隈に令名あり。

尙ほ東京府多額納稅者にして現に直接國稅一萬三千九十余圓を納むといふ。

夫人をやす子と呼び成立高等女學校の卒業にして君との間に伊勢雄君、昌甫君及び綾子、須磨子、清子等あり、現に東京府荏原郡目黑三田十二番地に住し電話高輪七七五番たり。

鈴木喜左衞門君

追具銀行頭取
群馬縣多額納稅者

君は群馬縣利根郡の豪農鈴木喜左衞門君の長男にして、明治十五年三月を以つて生れ、後ち家督相續と共に前名源一郎を改めて襲名す。

夙に地方實業界に投じ現に追具銀行取締役たる外利根實業銀行取締役にして且つ、群馬縣多額納稅者として直稅一千五百五十余圓を納め縣下有數の實業家たり。

夫人きん子は群馬縣の人關源藏君の令妹にして君との間に順一君、清君、重雄君、宇平君及び敬子等あり、現に群馬縣利根郡赤城根に住す。

鈴木寅彥君

日本曹達株式會社長
東京瓦斯株式會社常務取締役
朝鮮鐵道株式會社常務取締役

勳四等實業家鈴木寅彥君は福島縣の人國井豊次郎君の長男にして、明治六年三月を以つて生れ、後ち先代リキ子の養嗣子となる。

夙に早稻田大學邦語政治科及び日本大學を卒業するや直ちに實業界に投じ、着々として斯界に地歩を占め現に前記の諸職にある外泰平銀行、日清生命保險、日本電燈工業、東京乘合自動車、北海道瓦斯、上毛モスリン各株式會社の重役として我が財界に令名高し。

曩に鄕里福島縣民多數の輿望を擔つて逐鹿場裡に奮戰し、遂に當選の榮譽を贏ち得て衆議院議員として中央政界に鳴らし、斯くて當選すること三回に及び、尙ほ現に鐵道協會理事たり。

現に東京市小石川區原町八十二番地に住し電話小石川五三三六番たり。

杉浦宗三郎君

工學博士　正四位勲三等
東京瓦斯株式會社常務取締役

君は東京府士族雨森宗益君の三男にして、明治三年十二月十三日を以つて生れ後ち先代いね子の養嗣子となる。明治二十七年東京帝國大學工科大學土木科を卒業するや、直ちに實業界に投じ日本鐵道會社に入社せしが、同三十九年同社が國有に歸するに及び鐵道院技師に任ず。

然して爾來東京鐵道管理局營業課長兼運輸船舶課長、同研究所主任等を歴任し後ち理事に進み工務局長となり大正八年技監に昇進し、同年工學博士の學位を授けられ後ち辭して東京瓦斯株式會社に入社し、累進して同社常務取締役に就任し現に其の要職にある傍ら東洋車輛、朝鮮鐵道、秋田鐵道各株式會社監査役にして且つ帝國鐵道協會理事、瓦斯協會副會長たり。

夫人とし子は東京府の人首藤諒君の長女にして御茶の水高等女學校を卒業し君との間に卯吉君、已之吉君、正三君及びその子、春子、てる子、うた子等あり、現に東京府豐多摩郡西大久保四四九番地に住し電話四谷一三一〇番たり。

鈴木俊一郎君

白石製紙株式會社常務取締役
白石銀行取締役

君は宮城縣の人鈴木清之輔君の長男にして、明治二十二年十一月を以つて生る。夙に京都帝國大學法科を卒業するや、直ちに文官高等試驗に合格して其俊才を謳はれたり。

然して直ちに實業界に投じ現に白石製糸株式會社常務取締役たる外白石銀行、白山火山灰、齋川電氣、仙南電氣工業各株式會社の重役として知らる。

夫人ムメ子は福島縣の人矢吹友右衛門君の長女にして、君との間に一男ありて基弘君と呼ぶ宮城縣刈田郡白石に現住す

×

鈴木重兵衛君

宮城貯蓄銀行常務取締役

君は宮城縣の人鈴木重兵衛君の長男にして、明治八年九月を以つて生る。夙に實業界に投じ、現に宮城貯蓄銀行常務取締役たる外五城銀行、大崎水電、名取川水力電氣、若生本店各株式會社の重役として地方財界に令名あり。

夫人まさ子は宮城縣の人宮本益輔君の長女にして、君との間に道三郎君、喜四郎君、正亮君及びかねよ子、とき子等あり、現に宮城縣仙臺市荒町一〇八番地に住す。

×

杉田善右衛門君

資産家
大阪府多額納稅者

君は大阪府の人杉田善右衛門君の長男にして、明治二年十二月を以つて生れ前名勘三郎を改稱す。

當家は先代よりの資産家として界隈に相當に名を知られ、且つ大阪府多額納稅者として現時直接國稅五千四百五十余圓を納め關西財界に知らる。

夫人との間に六男一女ありて勘市郎君善治君、善夫君、善孝君、善史君及び喜美江と呼ぶ、大阪府東成郡蒲生に住す。

杉田安靜君

東京市四谷區長

君は千葉縣士族杉田定次郎君の長男にして、明治十二年四月一日を以つて千葉縣市原郡鶴舞町に生る。夙に鄉校を卒ふるや笈を負ふて上京し、前衆議院議員小倉良助氏及び故角田新平氏の知遇を得て明治義會中學校を卒業す。

然して、後ち更に苦學力行にて日本大學法科に學び、同科を卒ふるや、直ちに東京市役所に職を奉じ、爾來、同臨時市區改正局經理課員、同下水施設調査委員會書記、臨時市區改正局工務課員、同市區計畫調査會書記、兼臨時調査課員等を歴勤す。

斯くて、大正八年東京市主事に任じ、庶務課員、用地課員、社會局公營課員、給水事務統合委員、電氣局臨時建設部庶務課員、同庶務課長心得、同道路局管理課長等を經て、大正十年六月電氣局臨時建設部庶務課長に任じ、遂に大正十四年八月抜擢せられて東京市赤坂區長に擧げられ、同十五年十二月四谷區長に轉じ以つて現在に及ぶ。

夫人こう子は靜岡縣士族植松氏の四女にして君との間に酉春君、鬼陽君、博司君、守君、俊平君及び正子等あり、現に東京市牛込區市ヶ谷富久町六十番地に住す。

×

鈴木槇之助君

實業家

君は愛知縣の人鈴木友吉君の令弟にして、明治六年二月十八日を以つて生れ、後ち先代庄藏君の養嗣子となる。

夙に地方實業界に投じて君の敏腕を自由に振ひ、米穀肥料商として斯界に重きをなし令名あり。夫人いく子は愛知縣の人養父庄藏君の長女にして、君との間に庄治君、仁藏君及び初子等あり、現に名古屋市西區船入町三番地に住し電話本局一三三三番たり。

鈴木孝之助君

醫學博士　正四位勲二等
退役海軍々醫中將

君は三河國舊田原藩士鈴木方舊君の三男にして、安政元年七月を以つて生る。夙に醫學を修め海軍々醫に任じ、明治三十三年海軍々醫監に陞進す。

其の間横須賀、吳、佐世保、旅順各鎮守府醫務部長等を歴任し、同三十九年豫備役仰せ付けらる。明治三十五年醫學博士の學位を受け、又日露の役に從軍して勳功あり勳二等に叙せられ、現時は醫を業とし別に相州七里ヶ濱に鈴木療養所を設立經營し專ら呼吸器病の診療に從ふ、書畫骨董、圍碁の趣味あり。

夫人しん子は東京府の人野口直三郎君の養女にして其の間に五女ありて方子、

信子、愛子、德子、敏子等あり、現に東京市麻布區飯倉片町五番地に住し電話青山六一一一番たり。

×

末松佐吉君

土木建築請負業
京都府多額納稅者

君は京都府の人末松佐七君の長男にして、明治十七年十月十七日を以つて生る。夙に京都土木建築界に活躍して名聲を博し、現に斯界に重きをなす外京都府多額納稅者として直稅二千二百二十余圓を納むるを以つて知らる。

夫人たみ子は京都府の人桂文之助君の長女にして君との間に佐一郎君、一馬君、勇君及びあや子等あり、現に京都市下京區壬生椋宮に住す。

菅原通敬君

從四位勳一等　錦鶏間祗候
貴族院議員

當家は奥州菅原の本流にして四百年以來の古き家柄として栗原郡姫松村に住し地方治民の職を踏襲し以つて先代通實君に至る。通實君は藩政に功あり後ち久しく官途にありしが現時は野にありて鶴を追ひ風月を友となす。

君は即ち通實君の長男にして明治二年一月を以つて生る。明治二十八年東京帝國大學法科大學を卒業するや、直ちに官界に投じ、大藏省に出仕せしが後ち沖縄縣收稅長、司稅官、稅務監督官、函館稅務監理局長、函館稅關長、丸龜、神戸各稅務監理局長、神戸稅務監督局長、大藏省參事官兼書記官、同主稅局長、醸造試驗所長、大藏次官等を歷任し大正五年貴族院議員に勅選せられ又錦鶏間祗候たり

夫人懿子は宮城縣の人熱海孫十郎君の長女にして君との間に通公君、通伯君、通候君及び熱子、花子、通子等あり、現に東京市小石川區駕籠町四九番地に住し電話小石川七六九番たり。

菅野一郎君

七十七銀行支配人
青葉農林株式會社長

君は宮城縣士族谷口敬高君の二男にして、明治四年十二月を以つて生れ、後ち先代正子の養嗣子となる。

夙に地方財界に身を投じて活躍を試みしかば君の敏腕は着々として事業の上に現はれ、名聲頓に擧り現に青葉農林株式會社々長たる外七十七銀行支配人にして且つ東北物産株式會社監査役として當地財界に重きをなす。

夫人をゑい子と稱し君との間に肇君、闢君、博君等あり、現に仙臺市空堀町十一番地に住し電話二二二番たり。

杉榮三郎君

從四位勳三等
圖書頭兼諸陵頭

君は岡山縣の人杉良太郎君の二男にして、明治六年一月を以つて生る。明治三十三年東京帝國大學法科大學政治科を卒業す。

斯くて職を官途に奉じ、爾來、會計檢査院檢査官、宮内書記官兼宮内省參事官帝室林野管理局主事等を歷任し現に宮内省圖書頭兼諸陵頭として知らる。

夫人ミツ子は嘉納久三郎君の長女にして、君との間に滿佐子、支都子、洋子等あり、現に東京市小石川區駕籠町一二三番地に住し電話小石川一五八二番たり。

×

末廣要君

富士製鋼株式會社取締役
淺野小倉製鋼所取締役

君は山口縣士族末廣基平君の四男にして、明治七年十一月を以つて生る。夙に製鋼業に志し、永く八幡製鐵所にありて斯業の實際に精通し、現に富士製鋼、淺野小倉製鋼所、大島製鋼所各株式會社の重役にして且つ淺野造船所相談役たり。

夫人ツネ子は山口縣士族神代嘉一君の令妹にして君との間に一女ありて花子と稱す、現に小倉市紺屋町二一四番地に住し電話九六一番たり。

須賀喜三郎君

從四位勳三等　判事
廣島控訴院長

君は群馬縣の人須賀喜太郎君の長男にして、明治七年三月を以つて生る。明治三十二年東京帝國大學法科大學を卒業す

斯くて職を官途に奉じ、爾來、東京區裁判所判事、同地方裁判所判事、同部長東京控訴院判事、同部長等を歷補し以つて現在に及ぶ、大正九年歐米各國に出張せしことあり。

夫人イネ子は群馬縣の人堀越賴三郎君の令妹にして、君との間に太郎君、幹夫君、敏夫君及び光代子、八千代子、睦代子、君代子等あり、現に同官舍内に住す

菅野尚一君

從三位勳一等功三級
陸軍大將　軍事參議院參議官

君は山口縣士族菅野尚喬君の長男にして、明治四年三月を以つて生る。明治二十五年陸軍歩兵少尉に任官し大正十四年陸軍大將に陞進す。

其の間參謀本部員、白國英國各駐在大使館附武官、教育總監部參謀、陸軍省副官兼軍務局課長、歩兵課長、教育總監部附、清國駐在守備隊司令部參謀、大本營陸軍幕僚參謀、歩兵第十四聯隊補充大隊長、歩兵第二十九旅團長、陸軍省軍務局長兼軍事參議院幹事、第二十師團長、臺灣軍司令官等を歷補し以つて現在に及ぶ

曩に日露の役には第三軍參謀として出征し、滿洲の野に轉戰して偉功を立て功三級金鵄勳章を賜はる。

夫人をハル子と稱し君との間に七男あり、現に東京府豐多摩郡高井戸松庵九二番地に住す。

×

菅野傳右衛門君

高岡銀行頭取
高岡商業銀行頭取

君は富山縣の人先代傳右衛門君の長男

にして、明治十三年十二月を以つて生る。夙に東京商業學校を卒業するや、直ちに地方財界に走つて活躍大いに努め、漸次斯界に名聲を博せり。

現に前記の外富山合同貯蓄銀行頭取にして且つ高岡電燈、高岡打綿、温泉電氣軌道、越中倉庫、北陸信託、北陸送電、高岡新報、中越運輸各株式會社の重役として知らる。

尚ほ富山縣多額納税者にして、且つ高岡商業會議所議員たり、夫人をひさ子と稱し、君との間に章一君及び富美子あり現に高岡木舟に住す。

菅　禮之助君

大日本人造肥料會社取締役
古河鑛業株式會社取締役

君は秋田縣の人菅禮治君の長男にして明治十六年十一月を以つて生る。明治三十八年東京商科大學の前身たる東京高等商業學校を卒業するや、直ちに實業界に投ず。

然して古河合名會社に入りて同社大阪支店次長、同支店長、門司支店長、本社販賣部長等を歴任し現に同社取締役たる外大日本人造肥料、日本電線、大阪電氣分銅各株式會社の重役として知らる。

夫人さき子は秋田縣の人長瀬直倫君の長女にして君との間に禮太君、達吉君、元彦君等あり、現に東京市芝區白金今里町一〇一番地に住し電話高輪一八〇七番たり。

菅原義雄君

仙臺電氣工業株式會社取締役
仙北電氣株式會社取締役

君は宮城縣の人菅原民之輔君の長男にして、明治二十一年五月を以つて生る。夙に地方財界にありて呉服商及び味噌醸造業を營み、現に傍ら前記の外宮城送電興業株式會社取締役にして且つ眞坂町郵便局長たり。

夫人をひさし子と稱し、其の間に五男一女あり、宮城縣栗原郡一迫に現住す。

末松偕一郎君

正四位勲三等
廣島縣知事

君は福岡縣の人末松玄洞君の三男にして、明治八年六月十八日を以つて生る。明治三十五年の東京帝國大學法科大學出身にして、已に在學中文官高等試驗に登第し、而して卒業するや直ちに職を官途に奉ず。

爾來、内務屬、靜岡、山梨各縣事務官内務書記官、法制局參事官兼行政裁判所評定官、德島縣知事、臺灣總督府民政部財務局長、滋賀、茨城各縣知事等を歴任し、昭和二年四月廣島縣知事に轉じ以つて現在に及ぶ。

曩に明治四十年清國政府の招聘に依り同國自治制度の顧問として奉天に駐在することと二ヶ年大いに盡瘁することありき。

夫人を滿壽意子と稱す、現に同縣知事官舍に住す。

鈴木儀助君

實業家

君は宮城縣の人石垣喜右衛門君の令弟にして、明治七年十一月を以つて生れ、後ち先代儀助君の養嗣子となり前名嘉三郎を改めて襲名す。

夙に地方實業界に投じて君の優れたる商才を自由に發揮し、現に當地米穀肥料商界に令名あり。

夫人きしよ子は宮城縣の人伊藤貞三郎君の令妹にして、君との間に太一君、次郎君、宗典君、孝治君、汎君及びくら子うめ子、しゆう子等あり、宮城縣亘理郡亘理町に現住す。

鈴木孝雄君

正四位勲二等功三級
陸軍中將　陸軍技術本部長

君は千葉縣士族鈴木貫太郎君の令弟にして、明治二年十月を以つて生る。明治二十五年陸軍歩兵少尉に任官し爾來、累進して大正十年陸軍中將に陞進す。

其の間野戰砲兵射擊學校教官、野戰砲兵監部々員、近衛野戰砲兵聯隊附、野戰砲兵第十聯隊大隊長、野戰砲兵第十八聯隊附、同第二十一聯隊長陸軍省軍務局砲兵課長、野砲兵第一野戰重砲兵第一各旅團長、陸軍士官學校長、砲兵監、第十四師團長等を歴任し現に前記の外軍事參議院參議官たり。

夫人もと子は子爵立見豊丸君の令妹にして君との間に武君、英君及びはるえ子千鶴子、夏子、八重子等あり、現に東京府豐多摩郡淀橋柏木四一二番地に住し電話四谷三五七八番たり。

鈴木杢三郎君

鹿沼貯蓄銀行取締役
下野運輸株式會社取締役

君は栃木縣の人鈴木吾左衛門君の末子にして、慶應三年十二月十五日を以つて生る。當家の祖先は當村草創七農の一人として知られ、代々名主役を勤めし家柄なり。

君は夙に實業界に投じ現に鹿沼貯蓄銀行、下野運輸、下野信託各株式會社の重役にして、且つ菊澤村長たり。

夫人シウ子は栃木縣の人齋藤儀平君の二女にして君との間に秀一君、俊三君及びチヨ子、英子等あり、現に栃木縣上都賀郡菊澤に住す。

鈴木信太郎君

正五位勲四等
山梨縣知事

君は山形縣士族鈴木幸松君の長男にして、明治十七年十一月を以つて生れ、後ち先代伊和田君の養嗣子となる。明治四十二年東京帝國大學法科大學英法科を卒業するや直ちに文官高等試驗に登第す。

斯くて職を官界に奉じ、爾來、石川縣警部、愛媛縣警視、岩手縣事務官、同參事官、同視學官、神奈川縣理事官、島根縣警察部長、内務書記官兼内務省參事官地方局府縣課長、奈良縣知事等を歴任し昭和二年四月山梨縣知事に任せられ以つ

て現在に及ぶ。

夫人春子は鹿兒島縣士族政友本黨總裁床次竹二郎君の長女なり、現に同縣知事官舍に住す。

鈴木善助君

資產家

君は東京府の人大西伊三郎君の二男にして、明治十三年四月を以つて生れ、先代善助君の養嗣子となる。

當家は祖先傳來の資產家たり、夫人をあい子と稱し君との間に榮治郎君、正基君及びてる子、美代子、靜枝子、晴子、登志子等あり、現に東京市芝區新門前町一番地に住し電話高輪二五六五番たり。

杉敏介君

正四位勳三等
第一高等學校長

君は山口縣士族杉肇君の長男にして、明治五年五月二十六日を以つて生る。明治二十九年東京帝國大學文科大學國文科を卒業す。

然して、明治三十二年九月第一高等學校教授に任ぜられ國文學講座を擔當し、累進して現に同校々長兼教授として知らる。

夫人ヨシヲ子は滋賀縣士族相宗賢次郎君の長女にして君との間に幹丸君、憲次君等あり、神奈川縣高座郡藤澤町鵠沼二三七〇番地に住し電話藤澤七四番たり。

杉溪言長君

男爵　正三位勳三等

當家は內大臣藤原鎌足の曾孫左大臣魚名の後裔にして、山科家の庶流たり。君は正五位伯爵山科家言君の叔父君にして慶應元年五月を以つて生る。

明治二年三月堂上格を賜ひて杉溪と稱し一家を創立し、同八年三月特旨を以つて華族に列し男爵を授けらる。曩に春日神社神職、京都宮殿勤番殿堂、貴族院議員たりしことあり。

夫人茂子は東京府の人小田切重路君の養女たり、現に東京市麻布區新龍土町十二番地に住し電話青山五九七〇番たり。

杉浦音次郎君

白石銀行取締役支配人

君は宮城縣士族杉浦義禮君の二男にして、明治元年十月を以つて生る。夙に地方金融界に投じ、現に株式會社白石銀行取締役支配人として當地財界に名あり。

夫人さだ子は埼玉縣士族恩田爲寬君の二女にして君との間に博君、智郎君、信吾君、誠君及びあや子等あり、現に宮城縣刈田郡白石に住す。

洲崎隆一君

津市立病院產科婦人科部長

君は富山縣の人洲崎永之助君の長男にして、明治二十年十一月を以つて生る。大正五年京都帝國大學醫科大學を卒業す現に津市立病院產科婦人科部長たり、夫人を綾子と稱し君との間に一男二女あり、現に三重縣津市に住す。

鈴木永吉君

富士身延鐵道株式會社常任監査役
東京割引銀行取締役

君は山梨縣の人石原半左衛門君の三男にして、明治十一年十一月二十日を以つて生れ、明治四十二年先代きよ子の養嗣子となる。

夙に東京商業學校を卒業するや直ちに實業界に投じ、而して明治三十二年東京割引銀行に入り、大正六年同行取締役に擧げられ現に其の傍ら富士身延鐵道、日本煉炭、東洋製鑛各株式會社の重役として知らる。

夫人きよ子は山梨縣の人鈴木傳左衛門君の長女にして、君との間に英雄君、保治君及び澄子、友子等あり、現に東京市四谷區仲町三ノ一九番地に住し電話四谷三四六八番たり。

隅田伊賀彥君

大都土木建築株式會社監査役

君は高知縣士族川崎專助君の二男にして、慶應二年九月を以つて生れ後ち先代團丞君の養嗣子となる。

夙に九州財界に投じて活躍大いに努め現に大都土木建築株式會社監査役たり。

夫人登久子は高知縣の人岡野正雄君の令妹にして、君との間に朔磨君、住夫君及び美彌子、和歌子、福子、豐子、千代子、光榮子等あり、現に小倉市京町三四一番地に住す。

菅谷駒之助君

株式會社博信商會監査役

君は茨城縣の出身にして、文久元年十月二十日を以つて生る。夙に實業界に投じて活躍大いに努め、我が通運界に覇を唱ふ內國通運株式會社に恪勤すること久しく、累進し同社神田支店長、本社參事等を初め各種の要職を歷任せり。

現に株式會社博信商會監査役たり、東京市淺草區猿若町三ノ三番地に現住す。

杉本九八郎君

吾妻川水力電氣株式會社取締役

君は高松市の出身にして、明治九年十二月三日を以つて生る。夙に高岡育英學舍に學び業成るや直ちに當地財界に活躍せしも、後ち川北德三郎商店に入りて恪勤すること七ヶ年、更に鈴木常助商店に轉じて忠勤すること十有三年、其の發展に貢獻すること甚大なりき。

然して後ち入丸商會に移り推されて同常務取締役に就任し、現時は吾妻川水力電氣株式會社取締役たり。

夫人をせん子と稱し君との間に一男あり七生君と稱す、現に東京市赤坂區青山高樹町十二番地に住し電話青山一二六五番たり。

鈴木貫太郎君

正三位勳一等功三級　海軍々令部長
海軍大將

君は千葉縣士族鈴木由哲君の長男にして、慶應三年十二月廿四日を以つて生る。明治廿一年海軍兵學校を卒業し同廿二年海軍少尉に任じ、爾來、累進して海軍大將に陞進す。

其の間海軍大學校教官、海軍教育本部員、獨國駐在員、春日艦副長、第二艦隊驅逐隊司令、明石、宗谷、敷島、筑波各艦長、海軍水雷學校長等を歷補し、大正二年五月舞鶴水雷戰隊司令官に同年八月第二艦隊司令官に、次いで同年十二月海軍省人事局長に補せらる。

斯くて大正三年以來海軍將官會議議員臨時海軍建築部長及軍務局長、海軍次官練習艦隊司令官、海軍兵學校長、第二艦隊第三艦隊奥鎮守府各司令長官、第一艦隊兼聯合艦隊司令長官等を歷補す。

然して大正十三年軍事參議官に親補せられ同十四年四月山下大將の後を襲うて海軍々令部長兼海軍將官會議々員に親任せらる。

夫人タカ子は大學教授足立仁君の令姉にして、東京府立女子師範學校を卒業し君との間に二男一女あり、現に東京府北豐島郡巢鴨町宮下一五七六番地に住し電話小石川一〇〇番たり。

首藤正壽君

株式會社臺灣銀行理事

君は大分縣士族首藤生男君の五男にして、明治十二年十二月卅日を以つて生る。明治卅六年東京高等商業學校を卒業するや直ちに横濱正金銀行に入り、同行孟買副支配人、倫敦支店員、上海支店長、大阪支店副支配人、本社副總支配人等を歷任し、後同行を辭して大正十二年十一月臺灣銀行に入りて同行理事に擧げられ以つて現在に及ぶ。

夫人トク子は大分縣の人羽田野四方太郎君の三女にして君との間に信子、和子等あり。現に東京市牛込區二十騎町二九番地に住し電話牛込二七六九番なり。

鈴木喜兵衛君

東京府多額納稅者

君は先代鈴木喜兵衛君の長男にして、明治三年三月一日を以つて生れ、後ち前名長次郎を改めて襲名す。

夙に米人の塾に於て語學を修得し、後ち實業界に活躍して稀代の敏腕を振ひ、現に德力本店と稱し貴金屬地金商を營み且つ東京府多額納稅者にして直接國稅六千四百余圓を納むるを以つて知らる。曩に神田區會議員に擧げらるること二回に及びぬ。

夫人ます子は東京府の人伊藤茂右衛門君の長女にして君との間に二男四女あり現に東京市神田區松田町四番地に住し電話大手六五六九番五六四七番たり。

須藤恭平君

久米同族株式會社取締役

君は埼玉縣の人久米良作君の令弟にして、明治十三年六月を以つて生れ後ち先代ツル子の入夫となる。

夙に財界に投じて縱横の才腕を振ひ現に久米同族株式會社の重役として知らる。夫人をツル子と稱し養父吉右衛門君の長女たり、現に東京市本郷區駒込林町一五番地に住し電話小石川七四五番なり。

鈴木正平君

株式會社中屋印刷所社長
正久庖丁製造株式會社長

君は靜岡縣の人鈴木松藏君の長男にして、明治九年三月十四日を以つて生る。夙に印刷界に身を投じ獨力以つて中屋印刷所を創立し、傍ら文房具帳簿販賣等を營みて業勢を振ふに至る。

然して大正八年十一月同所が株式會社に組織變更せらるるや自ら同社取締役社長に就任し、現に其の外正久庖丁製造株式會社々長にして、且つ東京洋式帳簿協會、東京印刷同志會各會長及び東京印刷同業組合副組長、東京工場懇話會副委員長等の樞要なる位置に在りて令名あり。

夫人たま子は岡山縣の人時國鶴太郎君の養女にして君との間に三男四女あり、現に東京市芝區高輪北町四八番地に住し電話高輪八二八番たり。

杉林健次郎君

杉林金屬精錬所長
杉林黑鉛滿俺製錬所長

君は東京府の人杉林與八郎君の長男にして、明治廿三年九月八日を以つて生る。夙に高岡中學校を卒業するや、直ちに實業界に投じ現時は前記各會社の所長として知らる。

夫人梅子は橋本初太郎君の三女にして君との間に泰作君、ふみ子、きみ子等あり、現に東京府荏原郡品川町淺間臺一四六番地に住し電話高輪一八五四番なり。

鈴木穆君

從四位勳二等
前朝鮮銀行副總裁

君は東京府士族鈴木禎次君の令弟にして、明治七年八月十八日を以つて生る。明治卅二年東京帝國大學法科大學を卒業するや直ちに官界に投ず。

斯くて朝鮮總督府に入り同度支部司稅局長を經て度支部長官兼臨時土地調査局長に進み、後ち朝鮮銀行副總裁として君の敏腕を振ひしも大正十四年七月同行を辭す。

夫人さだ子は栃木縣の人河村傳衛君の長女にして香蘭高等女學校を卒業し君との間に治君、隆代子、三千代子、綾子等あり、現に東京市本郷區西片町に住し電話小石川三一〇九番たり。

吹田順助君

從五位勳六等
山形高等學校教授

君は東京府士族吹田鋼六君の長男にして、明治十六年十二月を以つて生る。明治四十年東京帝國大學文科大學獨逸文學科を卒業するや翌年同大學農科豫科教授

に任ぜらる。

然して後ち第七高等學校教授を經て大正九年山形高等學校教授に任ぜられ、翌年獨逸文學研究の爲め獨逸瑞西兩國に留學し、大いに造詣を積みて歸朝し以つて現在に及ぶ。

夫人せつ子は山形縣の人橋本宮德君の二女にして君との間に亮一君、雄三君、周郎君、逸夫君及びみを子等あり、現に山形縣香澄郡高等學校北官舎に住す。

菅沼市藏君

從四位勳四等
第一高等學校教授

君は靜岡縣の人菅沼儀八君の二男にして、明治六年一月を以つて生る。明治三十一年東京帝國大學理科大學化學科を卒業するや、直ちに教育界に職を奉じ曩に第二高等學校教授たりしが現時は第一高等學校教授として我が學界に知らる。

夫人もと子は靜岡縣の人鈴木角平君の二女たり、現に東京市小石川區白山御殿町一〇九番地に住す。

末正久左衛門君

湊西銀行頭取
眞野信託株式會社監査役

當家は代々苗字帶刀を許されたる家柄として聞え、君は先代久左衛門君の長男にして、明治四年二月を以つて生る。夙に慶應義塾を卒業するや、直ちに神戸財界に投ず。

現に前記の要職にある外兵庫縣會議員神戸市農會長等を始めとして各種公共團體の役員に推され、且つ常に兒童教育に盡瘁し獨力以つて末正幼稚園を經營しれ之が主宰者たり、尙ほ兵庫縣多額納稅者にして現時直稅二萬二千六百四十余圓を納む。

夫人照子は兵庫縣の人小島莊兵衛君の令妹にして君との間に武夫君、久君及び悅子等あり、神戸市東尻池一ノ六三番地に現住し電話兵庫一〇〇七番たり。

杉村甚三郎君

株式會社杉村商店取締役
東京モスリン紡織株式會社取締役

君は東京府の人杉村甚兵衛君の長男にして、明治十年四月を以つて生る。夙に東都財界に投じて實地の研鑽を積むこと久しく、現に株式會社杉村商店取締役たる外東京モスリン紡織株式會社の重役として知らる。

夫人つる子は東京府の人杉村彦右衛門君の養姉にして君との間に五男二女あり現に東京市日本橋區新材木町に住し電話浪花一二八五番なり。

末松清一君

日本調味料釀造株式會社長
九州石材工業會社取締役

君は福岡縣の人末松善平君の四男にして、明治二十六年九月を以つて生る。夙に地方財界に名を馳せ、現に前記の外國東木材、末松商店、九州耐火煉瓦、九州化學工業、東洋車輛各株式會社の重役にして且つ福岡縣多額納稅者として直稅一千九百六十余圓を納む。

夫人スミ子は福岡縣の人野田儀平君の三女たり、福岡縣遠賀郡黑崎に現住す。

杉山魯九郎君

淺野ビルデング株式會社取締役

君は愛知縣の人杉山五郎太君の令弟にして、明治五年十月を以つて生る。夙に織物商を營む傍ら前記會社の重役として名あり。

夫人てい子は東京府の人洞村源兵衛君の五女にして君との間に一郎君、千吉君力三郎君、四郎君及び雪子等あり、現に東京市日本橋區濱町三ノ三番地に住し電話浪花三五九番なり。

菅井與左衛門君

千葉縣多額納稅者
常總運輸株式會社取締役

君は千葉縣の人福島庄右衛門君の二男にして、安政元年四月を以つて生れ、後ち先代顯利君の養嗣子となる。夙に地方財界に投じて活躍大いに努め、現に常總運輸會社の重役にして且つ千葉縣多額納稅者として直稅七千七百九十余圓を納むるを以つて知らる。

夫人をくに子と稱し君との間に七男二女あり、現に千葉縣香取郡佐原に住す。

末永一三君

北日本汽船株式會社長
大正製麻株式會社取締役

君は福岡縣士族先代末永其味君の三男にして、明治二年九月を以つて生る。夙に大志を抱いて上京し、東都實業界に活躍して其の敏腕を鳴らし、現に北日本汽船株式會社々長たる外大正製麻株式會社取締役たり。

夫人サワ子は福島縣の人田中善平君の二女にして君との間に大祐君、謙三君及び俊子、恭子、壽美子、禮子等あり、現に東京市四谷區大番町三五番地に住し電話四谷三二六〇番たり。

水津信治君

醫學博士　從五位勳五等

君は島根縣の人水津直太郎君の令弟にして、明治十五年一月を以つて生る。明治四十一年京都帝國大學醫科大學精神病科を卒業し、爾來、朝鮮總督府醫官、同府醫院精神病科長等を歷任し、後ち醫學博士の學位を授與せらる。

夫人タカ子は山口縣士族山根正次君の長女にして君との間に一女ありて惠美子と稱す。

住田藤三郎君

東京製釘工業株式會社取締役

君は東京府の人住田富次郎君の令弟にして、明治二十年九月を以つて生る。夙に銅鐵商を營みて斯界に名ありしが現時は東京製釘工業株式會社取締役として知らる。

夫人ハナ子は東京府の人鈴木國五郎君の令妹にして君との間に一男あり、現に東京市京橋區新湊町一ノ三番地に住す。

鈴木伊十君

臺南製糖株式會社取締役
秋田鐵道株式會社監査役

君は愛知縣の人鈴木清四郎君の長男にして、明治三年四月を以つて生る。

夙に早稲田大學商科を卒業するや直ちに實業界に投じ、現に前記諸會社の重役たる外日本建築紙工株式會社取締役たり。

夫人久枝子は高知縣の人島本佐郎君の令妹にして君との間に正一郎君、勝彦君重三君及びすま子等あり、現に東京市麻布區霞町一七番地に住し電話青山三七四八番なり。

杉山房治郎君

東京米穀取引所取引員

君は東京府の人杉山米次郎君の二男にして、明治元年三月を以つて生る。早くより東都財界に投じて活躍大いに努め、現に東京米穀取引員として斯界に重きをなす。

夫人たま子は千葉縣の人本藤桑吉君の三女にして君との間に英治君、秀三郎君及びまさ子、はな子、つる子等あり、現に東京市日本橋區蠣殼町一ノ三番地に住し電話浪花二三一一番たり。

杉山作次郎君

京都府多額納稅者

君は京都府の人杉山作次郎君の長男にして、明治十八年四月を以つて生れ後ち前名作三を改稱す。現に京都府多額納稅者にして直接國稅二千八百八十余圓を納むるを以つて知らる。

夫人ミツ子は京都府の人阿原安太郎君の二女にして君との間に四男二女あり、現に京都府下京區室町五條上ルに住し電話長下六六五番なり。

鈴木辨吉君

合資會社鈴木商店代表社員

君は埼玉縣の人鈴木榮助君の三男にして、明治元年九月を以つて生る。夙に東都實業界に投じて其の敏腕を振ひ現に合資會社鈴木商店代表社員たり。

夫人しげ子は東京府の人荻原彌兵衛君の二女にして君との間に三男三女あり、現に東京市芝區新堀河岸四〇番地に住し電話高輪三五三三番たり。

鈴木忠兵衛君

株式會社皆川商店取締役
皆川商事株式會社監査役

君は山梨縣の人鈴木孝三郎君の二男にして、明治十四年五月を以つて生れ、後ち先代忠兵衛君の後を承けて其の家督を相續し、前名喜三郎を改稱す。早くより實業界に活躍して名聲を馳せ、現に前記諸會社の重役として知らる。

夫人きぬ子は山梨縣の人依田簡三君の令妹にして君との間に四男四女あり、現に東京市四谷區新宿二ノ四三番地に住し電話四谷一五七八番たり。

鈴木清之輔君

白石銀行頭取
仙南電氣工業株式會社長

君は宮城縣の人鈴木味右衛門君の長男にして、慶應三年十一月を以つて生る。

夙に地方財界に投じて俊才を縱横に振ひ、而して幾多事業會社に關係して貢献すること甚大、現に前記の外東北實業銀行、福島電燈、東北實業貯蓄銀行各株式會社の重役にして當地方財界に重きをなし、且つ白石郵便局長たり。

夫人すゑ子は宮城縣の人渡邊儀藏君の令妹にして君との間に六男一女あり、現に宮城縣刈田郡白石町短一番地に住す。

杉浦寛威君

陸軍中將

君は福岡縣の人松浦虎作君の長男にして、慶應二年十一月を以つて生る。幼にして軍人たらんと志し明治二十一年八月陸軍士官學校を卒業するや直ちに陸軍憲兵少尉に任官し、福岡歩兵第二十四聯隊小隊長となり、同二十二年戸山學校体操創術科を修業す。

然して明治二十七八年日清の戰役には中尉として長谷川混成旅團に屬し、旅順に攻擊凱旋後陸軍士官學校附となり、同三十年六月歩兵大尉に任じ、福岡歩兵第二十四聯隊中隊長となり、同三十八年陸軍士官學校教官となり、同三十二年陸軍士官學校生徒隊中隊長兼同校教官に任じ明治三十六年清國四川五月武備學堂の創設に際し、總教習として應聘、同三十六年歩兵少佐に陞進す。

斯くて明治三十七年日露兩國の國交斷絶して戰戈を交ふるや君歸國を命せられ大本營附を拜命し、後ち九連城陷落するに及び直ちに柴東縣軍政官となり、後ち寛甸縣纂馬集大安平昔を經て、遼陽攻略後同地に入り軍政に從事す。明治三十八年三月第三軍に轉じ、奉天包圍戰に參加して偉勳を立つ。

然して凱旋後熊本陸軍地方幼年學校長に任じ、後ち中佐に進み篠山歩兵第七十聯隊附となり、明治四十三年歩兵大佐として、陸軍中央幼年學校長に轉任、大正四年陸軍少將に陞級して松江歩兵第三十四旅團長となり、更に大正八年陸軍中將に陞り同時に金澤第九師團長となり、大正十年第九師團を率ひて浦鹽、ニコリスク等に駐在し、大正十一年撤兵と共に金澤に歸還、同年冬待命、大正十三年の春豫備役仰せ付けられ現に閑地にありて悠々たり。

夫人を信子と呼び陸軍少將出石獻彦君の三女にして君との間に四女あり、現に東京市外代々木山谷三一二番地に住す。

鈴木安太郎君

八王子貯蓄銀行取締役
帝國紡織機械製造會社監査役

君は東京府の人三浦慶次郎君の長男にして、明治三年三月を以つて生れ、同二十四年十月先代イシ子の入夫となる。

夙に實業界に投じ現に前記諸會社の重役たり。

夫人イシ子は東京府士族鈴木貞順君の長女にして君との間に五男三女あり、現に東京市麻布區本村町一四五番地に住し電話高輪七二一六番たり。

須藤憲三君

醫學博士　從四位勳三等

金澤醫科大學長

夫れ、學界と謂はず、財界を問はず、所謂學閥、財閥に何等の力を藉らず自已努力に依り最高の地位を獲得する、眞に吾人の稱讃と敬意を表すべきものなり。

我が學界の泰斗須藤憲三博士こそは其の一人にして、君の努力奮闘の跡こそ吾等の龜鑑措く能はざるものなり。

君は山形縣の產にして明治五年一月十日を以つて生る。夙に鄕里の高等小學校を卒ふるや直ちに上京して神田區私立大學豫備校に入り獨語、數學、漢學等を專修し、明治二十二年東京醫學院に入り同二十五年五月同校を卒へ、翌二十六年四月初めて醫術開業免許狀を受く。

然して同年九月醫科大學生理學選科に入學し、同二十七年六月修業するや直ちに醫科大學助手を拜命し、同三十二年十月醫術開業試驗委員を仰せ付けられ、同三十六年三月東京帝國大學醫科大學講師を囑託し、同三十八年一月には累進して同大學助教授に任ぜられ、同四十三年十月ドレスデンに於て萬國衛生博覽會の開催さるるや文部省出品準備委員としてその囑託を受く。

斯くて君の研鑽の功空しからず明治四十四年三月遂に醫學博士の學位を授與せらる、而して、同四十五年一月醫化學研究の爲め滿二ヶ年間獨逸へ留學を命ぜられ、大正元年十二月金澤醫學專門學校教授に任命せられ、同三年十月歸朝す。而して同九年二月文部省社會教育講師を囑託し、同十二年四月金澤醫科大學教授兼同大學附屬醫學專門部教授に任ぜられ、同十三年四月同學々長兼教授を拜命し以つて現在に至る。

醫學界に於て君の如き人物の存在するは吾人の意を强うする所なり。

須川多助君

神奈川縣多額納稅者

君は神奈川縣の人須川多助君の長男にして明治九年九月を以つて生る。現に神奈川縣多額納稅者として直稅九千八百五十余圓を納むるを以つて知らる。

夫人ミヨ子は京都府の人三木安三郎君の二女にして君との間に光一君、正二君三郎君及びシヅ子、セツ子、安喜子等あり、現に横濱市海岸通一ノ二番地に住し電話一四一八番たり。

鈴木孝三君

鈴木セメント株式會社取締役

西武興業株式會社取締役

君は東京府の人鈴木茂助君の令弟にして、鈴木慶三君の令兄に當り明治八年五月を以つて生る。

夙に東都財界に身を投じて活躍大いに努め、現に前記諸會社の重役として知らる。

夫人ゆき子は茨城縣の人初見新太郎君の令妹たり、現に東京市外落合町下落合丸山四一六番地ノ五に住し電話牛込三一五番たり。

菅昌之助君

京都府多額納稅者

君は京都府の人菅小七君の長男にして明治十年十月を以つて生る。現に呉服商として京都斯界に重きをなし且つ京都府多額納稅者にして直稅四千九百六十余圓を納む。

夫人タカ子は神奈川縣の人新井忠兵衛君の令妹にして君との間に一男あり、現に京都府下京區烏丸通蛸藥師下ル手洗水六五九番地に住し電話特長中一八八六番なり。

杉浦重吉君

杉浦合資會社長

君は愛知縣の人先代重吉君の長男にして、明治七年五月を以つて生る。先代重吉君は夙に東京に出でて石炭コークス商を營み、三河屋と稱して內外の信望を博し斯くて君の努力奮闘の結果遂に今日當家の基を起せり。

君は即ち明治三十三年家督を相續し前名光太郎を改稱して家業を繼承し、勉勵以つて其の隆盛を來し、現に合資會社に組織を變更して其の代表社員たり。

夫人とく子は故書家川端玉章君の長女にして君との間に一男ありて武雄君と稱す。現に東京市外品川町南品川宿八一三番地に住し電話高輪一一九六番たり。

菅井良助君

資產家

君は宮城縣の人菅井養吉君の長男にして、明治二十七年十二月を以つて生る。當家は當地屈指の資產家として知らる。

夫人ふみ子は宮城縣の人高松喜右衛門君の令孫たり、現に宮城縣宮城郡多賀に住す。

杉山正造君

東京株式取引員

君は神奈川縣の人杉山長造君の長男にして、明治十七年四月を以つて生る。夙に東都株式界に投じて斯界に俊腕を振ひ現に東京株式取引所員として知らる。

夫人松枝子は東京府士族加藤景行君の六女にして君との間に一男一女あり、現に東京市日本橋區兜町五番地に住し電話浪花五一七〇番なり。

杉野文彌君

中條商店監査役

日本鈍魂店監査役

君は滋賀縣の人中山新右衛門君の二男にして、慶應元年十月を以つて生れ後ち先代半九郎君の養嗣子となる。夙に鄕校を卒ふるや笈を負ふて東上し、研鑽琢磨明治十五年中央大學を卒業す。

斯くて直ちに辯護士登用試驗に登第して、辯護士を開業し現に其の傍ら前記の諸職及び松澤常吉商店、丸山商店各株式

會社の重役として東都法曹界及び財界に名名あり。

夫人みち子は埼玉縣の人内木讓一君の令妹にして君との間に芳文君、正文君及び倭文子等あり、現に千葉縣東葛飾郡市川町に住し電話二二番たり。

鈴木德治君

資産家

君は東京府の人鈴木晴吉君の長男にして、明治十年十一月を以つて生る。相當名ある資産家たり。

夫人喜舞子は松下長智君の長女にして君との間に元君、卓君、保君及び悅子、璋子、昌子等あり、現に東京市淺草區千束町二ノ四七九番地に住し電話淺草一七三一番なり。

杉生幸三郎君

三井物産株式會社參事

君は大阪府の人先代杉生幸三郎君の二男にして、明治七年四月を以つて生る。當家は當地方に於ける資産家として知らる。

夫人トメ子は大阪府の人川島新治郎君の三女にして君との間に武之助君、二郎君、三郎君及びトヨ子、トミ子、ヨシ子等あり、現に兵庫縣武庫郡大社村に住し電話西宮一七八番なり。

鈴木敬策君

北部開墾株式會社專務取締役
日獨貿易株式會社監査役

君は北海道の人鈴木半次君の長男にして、明治十年四月を以つて生る。明治三十四年東北帝國大學農科大學を卒業するや直ちに財界に投じ、現に前記諸會社の重役たる外東亞拓殖澱粉株式會社監査役たり。

夫人はる子は長野縣の人小野富美雄君の女にして君との間に繼夫君及び美枝子、滿枝子、八重子等あり、現に東京市芝區白金三光町三〇五番地に住す。

杉本重吉君

京都府多額納稅者

君は京都府の人杉本新左衛門君の令弟にして、明治八年十一月を以つて生る。現に京都府多額納稅者にして直稅二千百三十余圓を納むるを以つて知らる。

夫人ちか子は京都府の人片山正中君の長女にして君との間に忠太郎君、良吉君、東次君、潤吉君、六郎君、武之助君及びアヤ子、レイ子、マチ子等あり、現に京都府下京區綾小路新町西入に住し電話下三三六一番たり。

鈴木慶三君

鈴木セメント株式會社專務取締役
西武興業株式會社取締役

君は東京府の人鈴木茂助君の令弟にして、明治九年十二月を以つて生る。早くより實業界に身を投じ專ら鈴木セメント株式會社の經營に盡瘁し、現に其の傍ら西武興業株式會社の重役たり。

夫人をつた子と稱し君との間に一男一女あり、現に東京市外西巢鴨町池袋大原一三九七番地に住し電話小石川三二一五番なり。

鈴木三郎君

阿部商事株式會社常務取締役
唐津鑛業株式會社監査役

君は東京府の人鈴木太郎君の令弟にして、明治二十二年一月を以つて生る。現に阿部商事株式會社取締役たる外山本オブラード、東京コークス、唐津鑛業各株式會社の重役として知らる。

夫人シヅ子は神奈川縣の人福吉大吉君の二女にして君との間に二女あり、現に東京市外入新井町不入斗に住す。

鈴木辰五郎君

土木建築大丸組々長
安全自動車株式會社取締役

君は東京府の人鈴木留五郎君の三男にして、明治十年四月を以つて生る。夙に我が財界の重鎮を以つて目せられ、現に安全自動車株式會社取締役にして且つ大丸組と稱して土木建築請負業を營み、尙ほ東京府多額納稅者にして直稅一万一千九百七十余圓を納む。

夫人こう子は東京府の人和田常吉君の長女にして君との間に猛夫君及び章代子あり、現に東京市京橋區三十間堀町三ノ一番地に住し電話銀座一四〇〇番たり。

鈴木直次郎君

日本珊瑚株式會社取締役
ミユキ商工株式會社取締役

君は神奈川縣の人鈴木喜衛君の二男にして、明治十二年十月を以つて生れ同三十七年一月先代瀧藏君の死跡を相續す。夙に東都實業界に雄飛して名聲を馳せ現に前記の外德力商店と稱して貴金屬商を營み斯界に令聲嘖々たり。

夫人セイ子は東京府の人大野芳二郎君の令妹にして君との間に錦之助君及び富貴子、百合子、壽子、喜久江子等あり、現に東京市日本橋區榊正町一三番地に住す。

鈴木松太郎君

桑原鐵工株式會社取締役

君は千葉縣の人鈴木東作君の長男にして、明治十八年五月を以つて生る。現に桑原鐵工株式會社取締役たり。

現に東京市京橋區銀座一ノ二二番地に住す。

鈴鹿昌一君

株式會社鈴鹿商店取締役

君は大阪府の人實業家谷崎新五郎君の令弟にして、明治二十一年十二月を以つて生れ、大正三年東京府の人鈴鹿保家君の養嗣子となる。現に株式會社鈴鹿商店兵庫出張所長たり。

夫人マツヘ子は東京府士族鈴鹿保家君の二女にして日本女子大學附屬高等女學校を卒業し、君との間に保昌君、寛昌君及び昌枝子等あり、兵庫縣舞子取引山に現住し電話兵庫一一四〇番たり。

鈴木茂吉君

日本麻袋株式會社專務取締役

君は東京府の人先代喜七郎君の長男にして、明治二年八月を以つて生る。

夙に實業界に活躍して敏腕を振ひ現に日本麻袋株式會社專務取締役たり。

夫人をきわ子と稱し君との間に英雄君英次君等あり、現に東京市神田區柳原河岸一七番地に住す。

夫人はな子は北海道士族日高爲喜君の二女にして君との間に格君、新納君、明君及び操明子、道子、しのぶ子、つるの子、せつ子等あり、現に青森縣下北郡田名部に住す。

鈴木誠作君

大湊興業株式會社取締役
大湊電燈株式會社取締役

君は山形縣士族鈴木忠和君の二男にして、慶應二年二月を以つて生れ、後ち先代令兄幸松君の養嗣子となる。夙に鄕校を卒ふるや大志を抱いて上京し、明治二十四年東京帝國大學法科大學政治科を卒業す。

曩に鐵道院囑託たりしが現時は大湊興業株式會社取締役たる外大湊電燈、大湊木材各株式會社の重役として知らる。

菅英一君

株式會社芝川商店東京支店長
東京織物株式會社監査役

君は東京府の人菅修吉君の長男にして明治二十二年八月二十日を以つて生れ、後ち先代欽治郎君の養嗣子となる。

明治四十三年大阪高等商業學校を優秀の成績を以つて卒業するや、直ちに實業界に投じ芝川商店に入りて恪勤精勵、大正五年ロンドン支店支配人となり、同七年本店副支配人より同八年東京支店支配人に進み以つて現在に及ぶ。尙ほ傍ら東京織物株式會社監査役たり。

夫人を美都子と稱し君との間に英久君及び榮美子等あり、現に東京市牛込區辨天町三三番地に住し電話牛込三五一五番なり。

鈴木文治君

日本勞働總同盟名譽會長

君は宮城縣の人鈴木益治君の長男にして、明治十八年九月を以つて生る。明治四十二年東京帝國大學法科大學政治科を卒業す。

然して直ちに秀英舍に入り大正元年友愛會を創立して其會長となり、勞働組合運動の促進に盡瘁し、後ちこれを日本勞働總同盟と改稱し、益々其の隆盛を計り遂に今日の大をなすに至れり。

曾つては國際勞働會議に日本勞働者側代表に推されて參列する事二回、且つ米國に遊び故コンバース氏に就き勞働問題社會問題を研究せり、曩に東京朝日新聞記者、統一基督弘道會幹事たりし事あり

現に東京市麻布區市兵衛町二ノ一三番地に住し電話青山五五八八番なり。

鈴木元美君

從五位勳四等
女子學習院教授

君は福島縣の人西山德次郎君の長男にして、明治五年五月を以つて生れ、明治三十五年十二月廢家鈴木家を再興す。現に女子學習院教授たり。

夫人アイ子は福島縣の人辻田武助君の四女にして君との間に元彥君及び操子、美代子等あり、現に東京市外千駄ヶ谷町原宿八六番地に住す。

鈴木德次郎君

武州倉庫運送會社專務取締役
武藏製織株式會社取締役

君は鈴木德次郎君の二男にして、明治十一年五月八日を以つて生る。夙に製材業を營み、就中、優良なる杉板を製造販賣するを以つて知られ、大正十三年埼玉縣山林會主催第二回林產物共進會に於て一等賞を授與せられ、今や當地同業界に重きをなす。

明治四十三年より引き續き町會議員に當選し、市制の施行と同時に市會議員に擧げられ、尙ほ同三十四年より商業會議所議員に推され現に前記の外埼玉製氷株式會社監査役として令名あり。讀書を好み劍道は堂に入れりとかや。

夫人きやう子は埼玉縣の人小澤吉之助君の長女にして君との間に一女あり、現に埼玉縣川越市川越に住す。

杉村友次郎君

杉村商店常務取締役

君は東京府の人杉村其兵衛君の二男にして、明治十八年六月廿二日を以つて生る。夙に東京高等師範學校附屬中學校を卒業するや直ちに實業界に投ず、斯くて幾多事業會社に關係し、現に杉村商店株式會社常務取締役たり。

夫人トラ子は東京府の人杉村彥右衛門君の四女にして東京女子高等師範學校附屬高等女學校を卒業し君との間に文一郎君、信二郎君、勇吉君、熊吉君及び友子三保子、和子、栞子、小枝子等あり、現に東京市麴町區麴町七ノ二〇番地に住し電話四谷七〇六九番なり。

杉山虎雄君

三井銀行常任監査役

君は神奈川縣の人杉山卯之助君の長男にして、明治四年一月一日を以つて生れ後ち先代常五郎君の養嗣子となる。明治二十二年中央大學法律科を卒業す。

斯くて直ちに時事新報社に入社して記者となりしが後ち之を辭し、明治三十一年三井銀行に入りて同行業務課長に就任し、爾來、同行各課の要職を歷任し、現に同行常任監査役たり。

夫人トキ子は神奈川縣の人遠藤紋次郎君の二女にして君との間に一郎君、益夫君及び和子、臣子、治子、正子、文代子等あり、現に東京市芝區白金今里町八四番地に住し電話高輪七三〇番たり。

杉田富君

第一銀行常務取締役

君は愛知縣の人富安鷹次君の令弟にして、明治八年四月を以つて生れ、後ち杉田權次郎君の養嗣子となる。

明治三十五年東京帝國大學法科大學政治科を卒業するや直ちに第一銀行に入り爾來累進して副支配人及び支配人等を經て現に同行常務取締役として知らる。

夫人きみ子は養父權次郎君の三女たり現に東京市芝區三田臺町一ノ二八番地に住し電話高輪二〇二六番たり。

杉山幹君

東京日々新聞社經濟部長

君は山形縣の人杉山達藏君の長男にして、明治十九年八月十六日を以つて生る大正三年慶應義塾政治科を卒業す。

斯くて直ちに大阪毎日新聞社に入社して同社經濟部に勤め、後ち英米獨に留學して研鑽すること四ヶ年蘊蓄を積みて歸朝するや引き續き同社に勤務し、爾來、同社經濟部副部長、整理部副部長、同部長等を經て大正十四年五月東京日々新聞社經濟部長に轉じ以つて現在に至る。

夫人信子は山形縣の人岸甚藏君の長女にして山形縣立高等女學校の出身たり。現に東京市赤坂區青山南町六ノ八三番地に住し電話青山五七一二番なり。

杉原榮三郎君

正六位勳三等　杉原商會主
株式會社長田銀行取締役

君は東京府の人杉原米吉君の二男たり祖父は舊幕時代飛脚國より江戸に出で維新の變に兩替商を營み巨利を博し、杉原家の基を起せり、而して三男丈太郎君其後を繼ぐ。

君は慶應元年五月二十日を以つて生る小壯志を立てて北海道及滿鮮の地を視察し、歸朝するや內國商品陳列館長に推され日清戰役の際陸軍御用商人として利する所勘からず、其の後關係したる種々の事業會社枚擧に遑あらず、現に前記の外北武鐵道、共益倉庫、小田原電氣鐵道、東京會館各株式會社の重役たり。

尙ほ區會議員、市會議員、府會議員等に擧げられ公共事業に盡瘁する所甚大、殊に三回に渡つて東京商業會議所副會頭を務め令名東西に嘖々たり。現に東京市下谷區北稻荷町一一番地に住し電話淺草六三一七番たり。

鈴木久次郎君

杉浦メリヤス製針會社長
三重セメント株式會社取締役

君は千葉縣の人鈴木市太郎君の長男にして木村庫之助君の令兄に當り、慶應二年七月を以つて生る。

曾つては衆議院議員として中央政界に鳴らし、現に前記の外富士鑛業株式會社の重役にして尙ほ勳四等の肩書持ちなり

現に東京府北豐島郡巢鴨町二ノ五〇番地に住し電話小石川九二九番たり。

昭和二年十二月六日印刷
昭和二年十二月十三日發行

（定價五十圓）

著作兼發行者　新田宗盛
東京市麹町區有樂町三ノ三番地
電話麹町(37)四一六番

印刷所　帝國時事通信社印刷部

印刷者　天井八郎
東京市麹町區有樂町三ノ一番地

發行所　東京丸ノ內有樂町三ノ三番
振替口座東京六〇五五六番　帝國時事通信社

終